平成２年度

三重県埋蔵文化財センター年報２.

１９９１・３

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

埋蔵文化財の保護は、地下に埋もれているというその特性から圃場整備・道路建設・宅地開発などの各種開発事業との調整のうえでしばしば問題となっています。このため、埋蔵文化財保護行政を一元的に取り扱う埋蔵文化財センターの必要性は、長年にわたる懸案となっていました。

そこで平成元年4月、斎宮歴史博物館の完成に伴い、施設のうえではこれに併設するかたちで埋蔵文化財センターが開設され、業務の充実や体制の整備を進めてきたところであります。

2年目を迎えた三重県埋蔵文化財センターでは、山積する各種開発事業に伴う事前の発掘調査のほか、夥しい量の出土品や関連資料の整理・保管、埋蔵文化財展など資料の展示公開や貸出し等の普及公開事業、市町村主体の発掘調査への指導・協力等を行ってまいりました。本冊子は、これら平成2年度における三重県埋蔵文化財センターの事業・活動をまとめて事業報告とするとともに、今後の一層の充実のための基礎資料とするものです。

ここに本冊子をまとめるに当たりご協力いただいた関係各位・各機関に感謝申し上げるとともに、埋蔵文化財の保護に参考としていただければと念じております。

平成3年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長　中林昭一

例　　言

1、この冊子は、平成2年度における三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。なお、Ⅱ－1・2については三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査結果に加え、県内市町村で実施した発掘調査結果もあわせて収録した。

2、緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。

3、本冊子の編集は、関係各機関及び各位の協力を得て、管理指導課が中心となって行った。

目　　次

Ⅰ　組織及び業務体系 ---------- 2

Ⅱ　平成２年度緊急発掘調査 ---------- 4

１、緊急発掘調査一覧

２、発掘調査の概要

Ⅲ　埋蔵文化財保護体制の充実 ---------- ６４

１、各種会議

２、埋蔵文化財発掘技術者研修

３、市町村事業等への指導・協力

Ⅳ　資料の整理・保管・公開 ---------- ７１

１、資料の整理・保管

２、科学的保存処理

３、資料の公開

・現地説明会

・三重県埋蔵文化財展

・資料の貸出し・掲載許可

・斎宮歴史博物館への展示協力

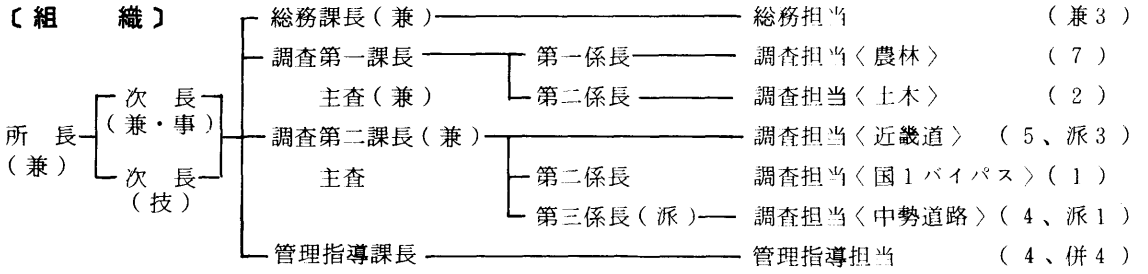
《付　編》

１、平成３年度事前協議遺跡一覧 ---------- ７８

２、三重県文化財調査員名簿 ---------- ８５

Ⅰ　組織及び業務体系

〔組　　織〕



職員数　４７名　（兼務８名、専任３０名、併任４名、派遣５名）

〔職　　員〕

所　長　　中　林　昭　一　（斎宮歴史博物館館長兼務）
次　長（事務）　森　下　和　光　（斎宮歴史博物館次長兼務）
〃　（技術）　山　沢　義　貴

総務課
　課長　青　木　眞　一　（斎宮歴史博物館兼務）
　主事　堀　内　稔　伸　（　〃　）
　〃　山　本　英　樹　（　〃　）
　〃　寺　前　秀　紀　（　〃　）

調査第１課
　課長　伊　藤　克　幸
　主査　山　田　　猛　（文化振興課本務）

第１係
　係長　田　阪　　仁
　主事　田　村　陽　一
　〃　吉　沢　　良
　〃　森　川　常　厚
　〃　掘　田　隆　長
　〃　鈴　木　克　彦
　〃　穂　積　裕　昌
　技師　竹　内　英　昭

第２係
　係長　田　中　喜久雄
　主事　福　田　哲　也
　〃　田　中　久　生

調査第２課
　課長　山　沢　義　貴　（次長兼務）
　主査　新　田　　洋　（文化振興課兼務）

第１係
　主事　河　北　秀　実
　〃　増　田　安　生
　主事　斎　藤　直　樹
　〃　伊　藤　裕　偉
　技師　大　川　勝　宏
　主事　角　谷　泰　弘　（伊勢市から派遣）
　〃　稲　本　賢　治　（多気町から派遣）
　〃　前　川　嘉　宏　（玉城町から派建）

第２係
　係長　駒　田　利　治
　主事　平　子　　弘

第３係
　係長　浅　尾　悦　生　（津市から派遣）
　主事　渡　辺　尚　登
　〃　杉　谷　政　樹
　〃　森　川　幸　雄
　〃　近　藤　　健
　〃　村　木　一　弥　（津市から派遣）

管理指導課
　課長　吉　水　康　夫
　主事　河　瀬　信　幸
　〃　小　坂　宜　広
　〃　江　尻　　健
　〃　小　林　　秀
　併任主事　川　戸　達　也　（四日市市立大矢地興譲小学校）
　〃　小　川　専　哉　（北勢町立北勢中学校）
　〃　東　山　則　幸　（阿山町立河合小学校）
　〃　宮　崎　宣　光　（県立四日市北高等学校）

〔分掌事務〕

総務課

1. 公印の管理に関すること
2. 職員の身分及び服務に関すること
3. 予算及び経理に関すること
4. 給与及び旅費等の支給に関すること
5. 契約及び入札事務に関すること
6. 施設、設備の保守管理に関すること
7. 文書の収発に関すること
8. 職員の健康、福利厚生に関すること
9. 防災管理に関すること
10. その他他課に属さないこと

調査第一課

1. 埋蔵文化財保護にかかる文化振興課ならびに関係部局との連絡調整に関すること
2. 県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3. 市町村埋蔵文化財保護の指導に関すること

調査第二課

1. 近畿自動車道に関する発掘調査及び保護に関すること
2. 国道1号線亀山バイパスに関する発掘調査及び保護に関すること
3. 中勢道路に関する発掘調査及び保護に関すること
4. 松阪多気バイパスに関する発掘調査及び保護に関すること
5. 建設省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関すること

管理指導課

1. 埋蔵文化財センター内外の各種会議に関すること
2. 遺跡及び遺物等資料の貸出掲載許可等に関すること
3. 埋蔵文化財展に関すること
4. 市町村の文化財展展示指導及び協力に関すること
5. 埋蔵文化財行政調査等に関すること
6. センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関すること
7. 出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関すること
8. 出土品の科学的保存処理に関すること
9. 整理済出土品の収蔵及び保管に関すること
10. 遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関すること
11. 遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関すること
12. 関係図書等の整理及び保管に関すること
13. 埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関すること

Ⅱ　平成2年度緊急発掘調査

1　緊急発掘調査一覧

県（埋蔵文化財センター）担当分　　（※は国・県費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	原因	費用負担
1	殿名遺跡	桑名郡長島町殿名	県道水郷公園線改良	県土木部
2	長法寺4号墳 橋門B遺跡	鈴鹿市三宅町橋門	県営圃場整備	県農林水産部※ 県教育委員会
3	別所遺跡	〃　〃　別所	〃	県農林水産部
4	大鼻遺跡	亀山市布気町大鼻	一般国道1号亀山バイパス建設	建設省
5	東樺野遺跡	〃　菅内町樺野	国道306号線改良	県土木部
6	安楽A・B遺跡	〃　安坂山町	県道亀山石水渓線道路改良	〃
7	三行城跡	安芸郡河芸町三行	県営圃場整備	県農林水産部
8	赤坂遺跡	〃　芸濃町岡本字赤坂	広域農道改良	〃
9	北奥遺跡	〃　〃　雲林院	県道津芸濃大山田線改良	県土木部
10	峯治城跡	津市上津部田字才の坪	都市計画道豊里久居線改良	〃
11	河崎遺跡	〃 大里睦合町河崎	県営圃場整備	県農林水産部
12	六大B遺跡	〃 大里窪田町字竹花ほか	一般国道23号中勢道路建設	建設省
13	橋垣内遺跡	〃　〃　字橋垣内	〃	〃
14	狐塚古墳群	一志郡一志町高野字上野	浄水場天日乾燥地増設	企業庁
15	天白遺跡	〃　嬉野町釜生田天白	県営圃場整備	県農林水産部
16	八幡遺跡	〃　白山町北家城字八幡	〃	県農林水産部※ 県教育委員会 県農林水産部
17	西の垣内遺跡	〃　〃　南家城字西の垣内	〃	〃
18	土井沖遺跡	〃　美杉村上多気字土井沖	国道368号線改良	県土木部
19	伊勢寺遺跡	松阪市伊勢寺町寺北ほか	県営圃場整備	県農林水産部※ 県教育委員会
20	王子遺跡	〃　〃　字王子	堀坂川小規模河川改修	県土木部
21	打田遺跡	〃　岡本町字打田	県営圃場整備	県農林水産部※ 県教育委員会
22	鴻ノ木遺跡	〃　射和町字鴻ノ木	一般国道42号松阪・多気バイパス建設	建設省
23	朱中古墳	〃　中万町	〃	〃
24	朱中遺跡	〃　〃	〃	〃

No.	遺跡名	所在地	原因	費用負担
25	上ノ垣外遺跡	多気郡多気町荒蒔字上ノ垣外	一般国道42号松阪・多気バイパス建設	建設省
			県営圃場整備	県農林水産部※ 県教育委員会
26	北野遺跡	〃 明和町蓑村字西へべら	〃	〃 ※
27	蓑村大塚遺跡	〃 〃 〃	〃	県農林水産部
28	中里遺跡	度会郡大宮町永会字中里	畜産環境整備	〃
29	御所裏遺跡	〃 度会町一之瀬字御所裏	県営圃場整備	〃
30	麻加江遺跡	〃 〃 麻加江	県道伊勢大宮線改良	県土木部
31	岡村近世墓群	〃 玉城町岡村	県道田丸斎明線改良	〃
32	蚊山遺跡	〃 〃 岩出	県道岩出新田線改良	〃
33	上の山遺跡	〃 〃 勝田	県道度会玉城線改良	〃
34	小清水遺跡	〃 〃 字小清水	〃	〃
35	泉貢窯跡	〃 〃 積良字泉貢・向山丑岡	近畿自動車道（勢和～伊勢間）建設	日本道路公団
36	山神城跡	〃 〃 山神・積良	〃	〃
37	寺原B遺跡	伊勢市佐八町字寺原	県道伊勢南島線改良	県土木部
38	杉葉崎遺跡	〃 朝熊町杉葉崎	伊勢二見鳥羽有料道路改良	県道路公社
39	ハノカ遺跡	〃 津村町・佐八町	近畿自動車道（勢和～伊勢間）建設	日本道路公団
40	落合古墳群	〃 〃 字口山田	〃	〃
41	亀谷郡C遺跡	〃 前山町字亀山郡	〃	〃
42	河原谷遺跡	〃 〃 字河原谷	〃	〃
43	大谷古墳	〃 佐八町字大谷	〃	〃
44	中起遺跡	〃 勢田町字中起	〃	〃
45	古市宿場街跡	〃 中之町・桜木町	〃	〃
46	奥遺跡	〃 楠部町字奥	〃	〃
47	畦垣内A遺跡	阿山郡伊賀町御代字畦垣内	県営圃場整備	県農林水産部※ 県教育委員会
48	小倉遺跡	〃 阿山町馬場字小倉	〃	〃 ※ 県農林水産部
49	伊賀国府推定地	上野市坂之下～外山	〃	県農林水産部※ 県教育委員会
50	出晴遺跡	〃 一之宮字出晴	〃	県農林水産部
51	印代東方遺跡	〃 印代・西条 土橋	県営排水特別対策	〃
52	間田遺跡	〃 服部町字間田	〃	県農林水産部※ 県教育委員会 県農林水産部
53	宮山遺跡	〃 上友生字宮山	県営圃場整備	〃
54	堂之前遺跡	〃 〃 字堂之前	〃	〃
55	森脇遺跡	〃 市部字森脇	〃	県農林水産部※ 県教育委員会

No.	遺跡名	所在地	原因	費用負担
56	澤田遺跡	上野市市部字澤田	県営圃場整備	(県農林水産部※ (県教育委員会 県農林水産部
57	高田氏館跡	〃 沖	〃	県農林水産部
58	才良遺跡	〃 才良	〃	(県農林水産部※ (県教育委員会 県農林水産部
59	貝野氏館跡	〃 〃	〃	〃
60	浮田B遺跡	〃 上神戸	〃	(県農林水産部※ (県教育委員会 県農林水産部
61	浮田C遺跡	〃 〃	〃	〃
62	高賀遺跡	〃 〃	〃	(県農林水産部※ (県教育委員会 県農林水産部

県（斎宮歴史博物館）担当分

No.						
No.	134	斎宮跡 ※	重要遺跡確認	斎宮歴史博物館	H2.4.18～12.2	4,300 m²

調査次数	調査面積(m²)	調査期間	地番・地籍	備考
86	1,500	H2. 4.18～ 7. 7	明和町斎宮字西加座 2679-1 他	計画的面調査
87	1,500	H2. 7.17～10.22	明和町斎宮字塚山 3351 他	計画的面調査
88	1,300	H2.10.19～12.27	明和町斎宮字鍛冶山 2411-1 他	計画的面調査

No.						
No.	134	斎宮跡 ※	史跡現状変更	明和町	H2.7.10～H3.3.30	1,397 m²

調査次数	調査面積(m²)	調査期間	地番・地籍	原因	調査機関
85－1	303	H2. 7.10～11. 2	明和町斎宮字古里	県道南藤原竹川線拡幅	斎宮歴史博物館
85－2	68	H2. 7.10～ 7.30	明和町斎宮字古里	個人住宅の新築	斎宮歴史博物館
85－3	60	H2. 9.25～ 9.27	明和町竹川	町道側溝の新設	斎宮歴史博物館
85－4	95	H2.11. 7～11.15	明和町竹川 573-2	盛土	斎宮歴史博物館
85－5	260	H3. 1.10～ 1.25	明和町斎宮字楽殿 2885-2	盛土	斎宮歴史博物館
85－6	120	H3. 1.21～ 2. 6	明和町斎宮	防火水槽設置工事	斎宮歴史博物館
85－7	121	H3. 3. 1～ 3.18	明和町斎宮字塚山	個人住宅の新築	斎宮歴史博物館
85－8	370	H3. 2.26～ 3.30	明和町竹川字中垣内 427-1	耕作土の天地返し	斎宮歴史博物館

市町村担当分

No.	遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
63	川向遺跡	員弁郡北勢町大字瀬木字川向	土地改良	町教委	町
64	縄生廃寺跡	三重郡朝日町縄生字中谷2450ほか	重要遺跡緊急調査	〃	町※
65	宮の前遺跡	四日市市中川原	住宅建設	市教委	事業者
66	青木川古墳群2号墳	〃 水沢町	農地改良	〃	〃
67	西ケ谷古窯跡	〃 東坂部町字西ケ谷1281ほか	道路建設	市遺跡調査会	県土木部
68	二ツ塚古墳群	〃 平尾町二ツ塚2271ほか	工業用地造成	〃	事業者
69	上野遺跡	〃 大字西阿倉川上野638ほか	宅地造成	〃	〃
70	西ノ岡B遺跡	鈴鹿市高岡町字西ノ岡ほか	道路建設	〃	市
71	寺山遺跡	〃 〃 字寺山1742・1609	〃 ・水道建設	〃	〃
72	寺田山7号墳	〃 〃 〃 1774ほか	道路建設	〃	〃
73	扇広遺跡	〃 〃 扇広	土地区画整理	〃	事業者
74	須伎神社東遺跡（仮称）	〃 長太栄町二丁目	住宅建設	市教委	〃
75	岡田遺跡	〃 岡田町字吉原	プレハブ建設	市遺跡調査会	市
76	岡田古墳群	〃 2丁目	住宅建設	市教委	事業者
77	高井B遺跡	〃 徳田町高井	農業関連	市遺跡調査会	〃
78	伊勢国分寺跡	〃 国分町字堂跡299ほか	重要遺跡範囲確認調査	市教委	市※
79	中尾山遺跡	〃 〃 字中尾山	廃棄物処理場建設	市遺跡調査会	市
80	沖ノ坂遺跡	〃 〃 字石亀谷	〃	〃	〃
81	沢城跡・沢遺跡	〃 飯野寺家町字沢	店舗建設	市教委	事業者
82	西野遺跡	亀山市栄町字西野	住宅建設	〃	〃
83	糀屋垣内遺跡	〃 羽若町糀屋垣内	一般国道1号亀山バイパス建設	〃	建設省
84	大鼻遺跡	〃 布気町字牛櫃1151ほか	工場建設	〃	事業者
85	大垣内古墳	〃 山下町字大垣内	道路建設	〃	市
86	亀山城跡	〃 本丸町573	史跡整備	〃	〃
87	鈴鹿関関係推定地	鈴鹿郡関町大字新所字西町北・会下垣内	住宅建設	町教委	事業者
88	雲林院青木遺跡	安芸郡芸濃町大字雲林院字青木1348	土地改良	〃	町
89	西山田遺跡	〃 安濃町大字安濃字室ノ口	土取り	〃	事業者
90	岡入り古墳	〃 〃 大字草生字布山	〃	〃	〃
91	旧観音堂跡	〃 〃 大字光明寺字高塚・長尾	〃	〃	〃
92	西山田遺跡	〃 〃 大字内多字西山田	ビニルハウス建設	〃	〃
93	大城古墳群	〃 〃 〃 字大城	工場団地造成	町遺跡調査会	町
94	三郷A・B遺跡	〃 美里村三郷	公共施設建設	村教委	村
95	六大B遺跡・大古曽遺跡	津市大里窪田町	団体営圃場整備	六大B遺跡発掘調査団	事業者
96	上津部田城址	〃 一身田上津部田字ルノ坪	文化会館建設	上津部田城址発掘調査団	〃
97	渋見砦跡	〃 渋見町字城	学術調査	渋見砦発掘調査団	市教委

番号	遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
98	殿村古墳群	津市大字殿村字井尻 860-2	老人保護施設	殿村古墳群発掘調査団	事業者
99	清水谷遺跡	一志郡嬉野町大字天花寺赤坂	道路建設	町教委	町
100	弥五郎垣内遺跡	〃　〃　大字釜生田字弥五郎垣内	県営圃場整備	〃	県農林水産部
101	野田遺跡	〃　〃　大字野田	宅地造成	〃	事業者
102	天白遺跡	〃　〃　大字釜生田	工場建設	〃	〃
103	小村遺跡	〃　〃　大字小村	道路建設	〃	町
104	針箱遺跡	〃　〃　大字中川字針箱	住宅建設	〃	事業者
105	南浦遺跡	〃　〃　〃　字南浦	土地区画整理	〃	区画整理組合
106	下之庄東方遺跡	〃　〃　大字下之庄	試験場建設	〃	事業者
107	下之庄遺跡	〃　〃　〃	公開所建設	〃	自治会
108	上尾土遺跡群	〃　〃　大字滝之川	ゴルフ場建設	〃	事業者
109	権現前遺跡	〃　〃　大字権現前	ふるさと館建設	〃	町
110	斑光寺跡	〃　一志町大字八太字中野	団体営圃場整備	〃	町
111	ヒジリ谷・薬師谷古墳群	〃　〃　小山・八太	ゴルフ場建設	〃	事業者
112	高寺遺跡	〃　〃　高野字高寺	県道一志出家線改良	〃	県土木部
113	口南戸古墳	松阪市立野町字口南戸 341	団地造成	市教委	事業者
114	湧早崎遺跡	〃　大津町湧早崎	宅地造成	〃	〃
115	松阪城跡	〃　殿町 1536	学術調査	市	市
116	川ノ上遺跡	飯南郡飯高町宮前字川ノ上	工場建設	町教委	町
117	河田古墳E支群6号墳	多気郡多気町河田東谷	土砂採集	町	事業者
118	戸峯A遺跡	〃　〃　大字池村字戸峯	残土置場建設	町教委	〃
119	戸峯古墳群	〃　〃　〃	山土採集	〃	〃　※
120	掛橋遺跡	度会郡小俣町本町	宅地造成	〃	事業者
121	細尻・東沢遺跡	〃　玉城町世古字細尻 1783 ほか	店舗造成建築	〃	〃
122	上ノ垣外遺跡	〃　度会町葛原字上ノ垣外 1194-5 ほか	区画整理	町遺跡調査会	町
123	長者野遺跡	〃　大宮町大字滝原	学校公園造成	町教委	町
124	昼河古墳群	伊勢市朝熊町字昼河	敷地造成	市教委	市
125	金剛証寺本堂他	〃　〃　548	本堂修理	〃	事業者
126	西光寺窯跡	阿山郡阿山町大字槙山字門出 1576	墓地整備	町教委	〃
127	久米山古墳群	上野市守田町字奥北谷地内	住宅建設	市遺跡調査会	〃
128	北門遺跡	〃　大谷字北門	〃	〃	〃
129	西明寺遺跡	〃　西明寺 3208	工場建設	〃	〃
130	上野市新都市整備事業地内遺跡群	〃　下友生・中友生・依那具・市部地内	上野新都市開発整備事業	〃	市
131	東町遺跡	名張市東町 1694-1	店舗建設	〃	事業者
132	下川原遺跡	〃　夏見字浅尾 102-3 ほか	〃	〃	〃
133	名張藤堂家邸跡	〃　丸之内 54	史跡整備	〃	市

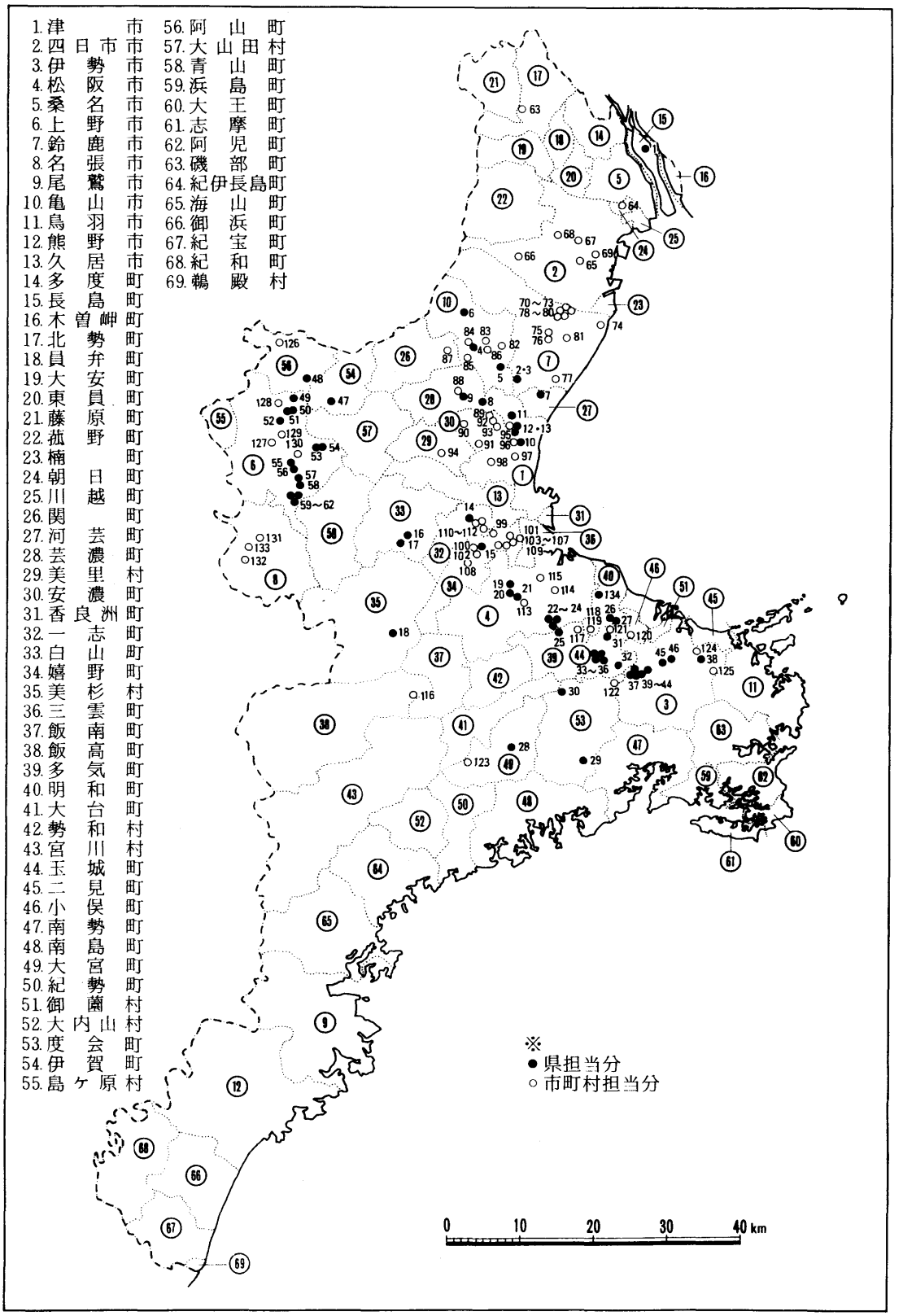


図１　平成２年度三重県内発掘調査遺跡位置図

2　発掘調査の概要

No.	1	遺跡名	殿名（とのな）遺跡　（立会）		所在地	桑名郡長島町殿名
調査原因	県道水郷公園線道路改良事業		事業主体	桑名土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2. 10. 22 ～ 10. 23		調査面積	540㎡	担当者	堀田　隆長
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物	
路線予定地に調査区を設定し、調査を実施した。 現地表下約50～89cmで青灰色砂質土、または灰褐色砂層となる。 少量の土器片が出土したが、遺構は確認されなかった。事業予定地は遺跡の縁辺部もしくは近年の耕地整理によって遺物が混入したものと考えられる。						
関連文献						

No.	2	遺跡名	橋門（はしかど）B遺跡長法寺4号墳		所在地	鈴鹿市三宅町字橋門
調査原因	県営圃場整備事業		事業主体	四日市農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2. 5. 7 ～ 7. 3		調査面積	1,200㎡	担当者	堀田　隆長、宮崎　宣光
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物	
今回の調査区は昭和61年に調査したB地区の西どなりに位置する。 調査の結果、古墳時代後期～鎌倉時代初頭の遺構、弥生時代中期～鎌倉時代初頭を主とする遺物が出土した。			古墳時代 長法寺4号墳（半壊） ・主体部　2基 （うち1基はほとんど破壊、1基は半壊、粘土槨か？） 削平された古墳 土坑　3基 鎌倉時代 掘立柱建物1棟 土坑　3基 溝 時期不明 火葬墓　2基		弥生土器 壷（中期） 須恵器 杯蓋、杯身、瑞、甕 土師器 台付甕 金属器 鉄刀、刀子 玉類 管玉、土玉 山茶椀、山皿、陶器	
関連文献						

No.	3	遺跡名	別所遺跡（立会）		所在地	鈴鹿市三宅町別所
調査原因	県営圃場整備事業		事業主体	四日市農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2. 7. 9 ～ 7. 10		調査面積	200㎡	担当者	堀田　隆長
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物	
排水路部分に調査区を2カ所設定し立合調査を行った。 結果、遺構は認められなかったが、両区から若干の遺物は出土した。			な　し		土師器片 山茶椀片	
関連文献						

No.	4	遺跡名	おおはな 大鼻遺跡（第５次）	所在地	亀山市布気町大鼻
調査原因	一般国道１号亀山バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	Ｈ２．７．１０～Ｈ３．１．９	調査面積	６，５００㎡	担当者	駒田　利治、平子　弘
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
当遺跡は鈴鹿川上流左岸の標高約86mの台地南縁部に位置する。古墳時代後期を中心とする集落跡である。		竪穴住居跡　２８棟 掘立柱建物跡　５棟 土坑 溝 井戸		須恵器、土師器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、山茶椀、青磁碗、白磁碗、紡錘車	
関連文献					

No.	5	遺跡名	ひがしかばの 東樺野遺跡（試掘）	所在地	亀山市菅内町樺野
調査原因	国道306号線改良事業	事業主体	鈴鹿土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査機関	Ｈ２．７．３０	調査面積	５６㎡	担当者	田中　久生
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
円墳（径１０m、高1.５m）　１基 中世～近世の集落跡 事業地内遺跡面積は約３，９００㎡。		溝、ピットなど		古瀬戸小皿 土師器	
関連文献					

No.	6	遺跡名	あんらく 安楽Ａ・Ｂ遺跡（試掘）	所在地	亀山市安坂山町
調査原因	亀山(T)石水渓線道路改良	事業主体	鈴鹿土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	Ｈ２．９．２５	調査面積	６４㎡	担当者	小坂　宣広
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
分布調査では遺物が散布していたが、どの試掘坑も耕作土及び床土の下がすぐ地山であった。調査地は遺跡の縁辺部と思われる。		な　し		近世以降の陶器片少量。	
関連文献					

No.	7	遺跡名	みゆき 三行城跡（立会）	所在地	安芸郡河芸町三行
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	Ｈ２．６．４～６．５	調査面積	３１．５㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
三行城に伴う堀切状遺構の調査。 尾根を切断して幅約５m、深さ約２mの箱薬研堀風の溝を確認。		堀切状遺構　１			
関連文献	山田猛ほか『三行城跡発掘調査報告』三重県教育委員会　1985				

No.	8	遺跡名	赤坂遺跡	所在地	安芸郡芸濃町岡本字赤坂
調査原因	広域農道（グリーンロード）改良事業	事業主体	津農林水産事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター 津市・芸濃町教育委員会
調査期間	Ｈ２．７．１８～８．３１	調査面積	１，１００㎡	担当者	堀田隆長、米山浩之、小林孝弘
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
調査区の幅が約10mと限られた範囲での調査であった多くの柱穴、小規模な竪穴住居などが確認された。 また、安濃川沿いには古道の存在も知られており、また、比較的明確に条里も残存しており、重要地であることがうかがわれる。		竪穴住居（１辺３m前後）３棟 掘立柱建物　３棟		縄文時代早期 押型文土器 奈良時代末期～平安時代初頭 須恵器杯・甕・長頸壷・土師器杯・甕 平安時代末期～中世 灰釉陶器椀片	
関連文献					

No.	9	遺跡名	北奥遺跡（立会）	所在地	安芸郡芸濃町雲林院
調査原因	県道津芸濃大山田線 道路改良事業	事業主体	津土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.21 ～ 8.11	調査面積	600㎡	担当者	本堂　弘之（文化財調査員）

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
安濃川中流域の右岸に形成された中・低位段丘上に位置する遺跡で弥生時代から中・近世まで断続して集落が営まれている。 今回の調査区は北奥遺跡、下川遺跡の縁辺部にあたるものと考えられる。	溝 土坑 柱穴群	土師器　皿・鍋 山茶椀 青磁椀片 天目椀片

関連文献

No.	10	遺跡名	峯（みねじ）治城跡	所在地	津市上津部田字才の坪
調査原因	都市計画道豊里久居線 道路改良事業	事業主体	津土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 7.13	調査面積	1,900㎡	担当者	田中　久生、福田　哲也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
佐脇勝久によって応永年間に築城され、永禄11年（1568）に織田信長によって滅ぼされたとされる。（『伊勢名勝志』） 昨年度に続いて今年度は城東側の調査を行なった。 その結果、主郭東側の郭で掘立柱建物を検出した。	郭 掘立柱建物	土師器、皿、羽釜、山茶椀、天目茶椀、硯、水滴、漆椀

関連文献

No.	11	遺跡名	河崎（こうさき）遺跡（立合）	所在地	津市大里睦合町河崎
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.9	調査面積	74㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
耕土下に若干の遺物を含む遺物包含層は認められたが、遺構は確認されなかった。	な　し	山茶椀・皿

関連文献

No.	12	遺跡名	六大（ろくだい）B遺跡（B～G地区）	所在地	津市大里窪田町字竹花ほか
調査原因	一般国道23号中勢道路 建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.4.26 ～H 3.3.15	調査面積	17,525㎡	担当者	浅生悦生、渡辺尚登、杉谷政樹 村木一弥、油田秀紀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
六大B遺跡は、志登茂川とその支流毛無川に挟まれた標高約12mの河岸段丘が南側の毛無川にむかって緩やかに傾斜する段丘各面及び氾濫原に立地する。 計画路線にかかる本調査対象は約24,600㎡と広範囲に及ぶため、全体をA～H地区に区分し、本年度はその内のB～G地区の本調査を実施した。 検出した遺構には弥生時代～近代のものがあり、その中心は飛鳥・奈良～鎌倉時代の掘立柱建物群と溝・井戸等である。地名を示す文字資料は出土していないが、周辺の調査例や遺称地名等から、これらは旧奄芸郡窪田郷の一部に相当するものと考えられる。とりわけ平安時代には5間×2間の大型建物を中心とする計画的な建物配置がみられ、また300点におよぶ緑釉陶器が出土しているところから、在地有力豪族の居館もしくは地方の官衙であった可能性も考えられる。	弥生時代 土坑　5基 飛鳥・奈良時代 竪穴住居　1棟 掘立柱建物　18棟 土坑　7基 溝　11条 井戸　1基 平安時代 掘立柱建物　43棟 土坑　5基 溝　7条 井戸　6基 鎌倉時代 掘立柱建物　3棟 土坑　1基 溝　13条 井戸　5基	弥生土器（壷・甕・高杯） 土師器（杯・皿・高杯・甕） 須恵器（杯・蓋・平瓶） 灰釉陶器（椀・皿・瓶） 緑釉陶器（椀・皿・陰刻花文・二彩） 山茶椀・山皿 石剣・紡錘車・和同開珎銀銭・土馬・軒丸瓦。軒平瓦・円面硯・鉄鎌

関連文献

No.	13	遺跡名	橋垣内遺跡（A地区）	所在地	津市大里窪田町字橋垣内
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業	事業主体	建設局中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.4.26 ～H 3.3.15	調査面積	4,925㎡	担当者	森川　幸雄・近藤　健

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
津市大里窪田町の集落の南に広がる標高7～8mの水田地帯に位置し、遺跡の北側には毛無川が東西に流れる。 主な遺構は縄文時代晩期～古墳時代後期にかけての旧河道、弥生時代後期～飛鳥・奈良時代の溝等である。 住居跡、墓坑等は、西側のB地区からは多く検出されたが今回は少数みつかったにとどまる。 遺物は旧河道・溝からを中心に多量出土した。 なかでも弥生時代後期～古墳時代初期にかけての土器は器種・量とも豊富で、良好な資料が得られた。 また、パレス式土器、ミニチュア土器、勾玉、ガラス玉等祭祀的な遺物が、旧河道・溝から出土している。	・竪穴住居（古墳時代前期）　5棟 ・掘立柱建物（時期不明）　6棟 ・土坑墓（弥生時代後期）　2基 ・旧河道 縄文時代後期～弥生時代後期　1条 弥生時代後期　2条 古墳時代　1条 ・溝 弥生時代後期　2条 飛鳥・奈良時代　3条	・縄文土器（晩期） ・弥生土器（中期～後期） ・土師器 ・須恵器 ・緑釉陶器 ・灰釉陶器 ・有孔円盤 ・勾玉 ・ガラス玉 ・木製品

関連文献

No.	14	遺跡名	狐塚古墳群	所在地	一志町高野字上野
調査原因	高野浄水場天日乾燥池増設事業	事業主体	企業庁	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.1 ～8.31	調査面積	600㎡	担当者	田中喜久雄

遺跡の概要

狐塚古群群は雲出川右岸の丘陵南西端に築造される。4号墳は大部分破壊されているが、径15mの円墳である。主体部は破壊されているが片袖式の横穴式石室と考えられる。
1号墳は現状保存。イ号墳は自然地形。
ほかに、縄文時代の炉跡と考えられる円形の土坑（径0.5m、深さ0.15m・椀型）4基を検出した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
4号墳	円墳	径　15 高　1.2	片袖式横穴式石室3.8×2.0m 羨道部東側に開口	須恵器 杯・高杯 提瓶 土師器 高杯 鉄鏃	6世紀後半	破壊が著しい。 深さ0.3mの周溝あり。

関連文献　『上野遺跡・上野古墳群発掘調査報告』

No.	15	遺跡名	天白（てんぱく）遺跡（立会）	所在地	一志郡嬉野町釜生田字天白
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津農林水産事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.29 ～10.31	調査面積	607㎡	担当者	田村陽一、福田哲也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
天白遺跡は縄文時代の周知の遺跡である。今回事業の排水路部分で削平される607㎡について立会調査を実施した。 調査はA、B、Cの3地区ありA地区から時期不明の竪穴住居が1棟、B地区から飛鳥時代の竪穴住居2棟が検出された。C地区からは遺構、遺物とも検出されなかった。	竪穴住居 飛鳥時代　2棟 時期不明　1棟	須恵器 杯蓋 土師器 甕 皿

関連文献

No.	16	遺跡名	八幡（やはた）遺跡（旧北家城遺跡）	所在地	一志郡白山町北家城
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.11 ～ 12.21	調査面積	1,200㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は異なる時代からなり、西側地区は縄文時代早期、東側地区は室町時代後期からなる遺跡である。 西側地区の遺構は西端部に直径6m前後からなる集石群を検出。この集石群の中よりサヌカイト製の石鏃と多数の破片が出土。石鏃作製の作業場とも考えられる。 東側地区では、北側に2棟建物が重なりながら立つ。また、北端部に西から東へ流れる溝及び東端部を北から南へ流れる溝を検出。この溝途中に石積みの遺構を検出状況から堰（イセキ）の可能性が考えられる。	西側地区 集石遺構 河川（自然流路） 東側地区 建物　2棟 溝　2条 石積み遺構 焼土壙　1	西側地区 押型文土器片 サヌカイト製石鏃 東側地区 陶器片 （甕・鉢・壷） 土師器片 （鍋）

関連文献

No.	16	遺跡名	八幡（やはた）遺跡（立合）	所在地	一志郡白山町北家城八幡
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.21	調査面積	約880㎡	担当者	田阪　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
白山町八対野字算所で雲出川には垣内川、山田野川が合流する。当遺跡はその合流点より少し上流の左岸に位置し、標高約57m前後の河岸段丘を利用した水田である。大角遺跡の対岸に当たる。 A、B地区は本調査を実施。C～E地区を立合い調査とした。D～E地区では遺構・遺物を認めず。B地区に接するC地区では室町時代の井戸やピット、土坑等を検出。B地区の本調査でも同時期の遺構があるので、恐らく一連のものと考えられる。C地区約60㎡の調査結果は、本調査の報文に含めて報告する。	井戸　1基。 径約1.3mの掘形。約40cm大の川原石を用いるが、上部崩落のため原形をとどめない。深さは僅かに1.5mで底部の残存状況から、構築された円形石積みの径は約0.7mであった。 出土遺物は殆んどないが、室町時代のものである。B地区で検出された掘立柱建物から直線距離で約20m離れる。両者の関係は不明。	土師器羽釜 中世陶器片若干

関連文献

No.	17	遺跡名	西の垣内遺跡（立会）	所在地	一志郡白山町南家城
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	津市農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.11.22 ～ 12.4	調査面積	240㎡	担当者	田阪　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
県立一志病院の西裏手で雲出川右岸の河岸段丘上に位置する。標高約68m前後である。平成元年度に調査した家野遺跡の南西300mの所に当たる。 排水路部分に幅3m、延長80mのトレンチを入れた。トレンチ北端ほど深く、遺構検出面までの深さは130～70cmである。 出土遺物中には縄文土器片もあるが明確な遺構は不明。 弥生時代中期～後期の竪穴住居、土坑の他、室町時代の溝2条などがある。	遺物を伴う遺構少ない。 竪穴住居ＳＢ1を壁際で検出一辺4m×4mで、深さ15cm。主柱穴は3ケ所のみ確認。 床面中央部に炉跡あり。径約80cm、深さ7cmの浅い土坑状の周囲に20～30cmの川原石を3個すえている。石は火を受けている。 埋土中より第Ⅴ様式前半の高杯が出土した。	縄文土器細片 弥生土器　壷、高杯 室町時代の陶器片 その他石鏃、サヌカイト原石

関連文献

No.	18	遺跡名	上井沖遺跡	所在地	一志郡美杉村上多気字上井沖
調査原因	国道368号線改良事業	事業主体	久居土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.12.29 ～H 3.1.16	調査面積	400㎡	担当者	田中喜久雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
峡隘な山間部のわずかに開けた平坦地に立地し、前方には霧山城跡や北畠館跡が望める。 北畠氏家臣団の居館跡と推定される。 試掘調査の結果、全面に遺物が散布しており、今年度事業分について緊急に発掘調査を実施したもので残り約1,000㎡については次年度以降に調査する予定である。	掘立柱建物　4棟 柵列　2条 そのうち1号建物は9×4間の南北棟で東柱を持つ。 柱掘方は平均径0.5m、深さ0.6mで底には礎石を置く。柱痕跡が残るものもある。建物周囲には雨落溝と考えられる周溝がめぐり、建物西側には柵列が通る。	土師器、鍋、皿 青磁片

関連文献

No.	19	遺跡名	伊勢寺遺跡	所在地	松阪市伊勢寺町寺北ほか
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	松阪農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.18 ～ 12.14	調査面積	3,000㎡	担当者	竹内英昭・福田哲也ほか

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
農道部分の調査のため、総延長600mほどに及ぶ。全体として中央付近には遺構は稀薄だが、東端部付近で奈良～平安時代の遺構・遺物が、西端部付近では、縄文時代後期の旧流路や鎌倉～室町時代の土壙や石組井戸を検出した。 遺物としては特に縄文土器が目立つ存在で、付近に当時代の集落遺跡が存在する可能性が大である。	竪穴住居　1 土坑 溝 旧流路 井戸　3 柱穴群　多数	縄文土器深鉢、浅鉢、 スクレイパー、扁平小型石斧 土師器杯皿・甕・鍋・羽釜 須恵器蓋杯 平瓦・丸瓦 山茶椀・皿 陶器瓶子 青磁椀

関連文献

No.	20	遺跡名	王子遺跡（立会）	所在地	松阪市伊勢寺町字王子
調査原因	堀坂川小規模河川改修事業	事業主体	松阪土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.12.25 ～H 3.1.4	調査面積	300㎡	担当者	田中喜久雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
堀坂川によって形成された低位段丘上に立地し、現王子集落の全域にひろがる遺跡である。 試掘調査の結果、今年度事業分を緊急に発掘した。 その結果、鎌倉時代前半の遺構、遺物が出土したが、広大な王子遺跡の縁辺部と推定される。 残り約1,500㎡については次年度以降に調査する予定である。	土坑　2基 溝　1条	土師器　杯 甕 山茶椀

関連文献

No.	21	遺跡名	打田遺跡	所在地	松阪市岡本町打田
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	松阪農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.28 ～ 7.31	調査面積	2,100㎡	担当者	福田　哲也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
打田遺跡は平成2年度圃場整備前の分布調査で新発見の遺跡である。 調査の結果、奈良時代を中心に飛鳥時代後半から平安時代初期にかけての遺物、遺構が検出された。 未調査分3,120㎡は来年度調査予定である。	○飛鳥時代後期 ・竪穴住居　2棟 ○奈良時代 ・竪穴住居　15棟 ・掘立柱建物　8棟 ・井戸　2基 ・溝　1条 ・土坑　1基 ○平安時代初期 ・掘立柱建物　2棟 ○時期不明 ・竪穴住居　4棟	○土師器 ・杯（墨書土器を含む） ・甕 ・高杯 ・甑 ・皿（墨書土器を含む） ○製塩土器 ○須恵器 ・杯 ・杯蓋 ・甕 ○鉄製品 ・刀子片

関連文献

No.	22	遺跡名	こうのき 鴻ノ木遺跡	所在地	松阪市射和町字鴻ノ木
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機間	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.18 ～H 3.3.19	調査面積	1,350㎡	担当者	河瀬　信幸、小林　秀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鴻ノ木遺跡は櫛田川左岸標高23～25mの低位段丘面に位置する。調査を進めるうちに2つの文化層が確認され、上層・下層とに分け調査を行った。 ○上層 弥生時代中期の遺物を含む、奈良～平安時代を中心とする良好な包含層をもち、古墳時代の土坑や平安時代の掘立柱建物などが検出された。 ○下層 縄文時代早期を中心とする押型文土器が多量に含まれる良好な包含層をもつ。 検出された遺構で特筆されるのは、竪穴住居と重複して検出された炉、及び屋外炉である。いずれも煙道をもち、その残りは良好である。	○上層 ・縄文時代早期 土坑　2基 pit　2ケ所 ・縄文時代（早期？） 集石炉　2基 ・古墳時代 土坑　1基 ・平安時代 掘立柱建物　4棟 土坑　1基 溝　4条 pit　1ケ所 方形周溝遺構　1基 ・旧流水路　2条 ○下層 ・縄文時代早期 竪穴住居　2棟 土坑　8基 炉　5基 pit　1ケ所	○上層 ・弥生時代中期細頸壷 ・古墳時代高杯 ・平安時代 緑釉陶器、土師器皿、 土師器甕、黒色土器、 灰釉陶器 土師器皿（内部底面に「×」の朱書き） ○下層 ・縄文時代早期 大川式併行押型文土器 神宮寺式併行押型文土器 石器 尖頭器、石鏃、その他

関連文献

No.	22～25	遺跡名	朱中遺跡その他（試掘）	所在地	松阪市中万町・射和町、多気郡多気町荒蒔
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.23 ～ 9.12	調査面積	合計622㎡	担当者	河瀬　信幸、小林　秀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
No.22　鴻ノ木遺跡（272㎡） 朱中遺跡から南にのびる段丘上に位置する。遺構は試掘坑の約80%から検出され、遺物も多い。 No.23　朱中古墳（98㎡） 墳丘と考えられる箇所にトレンチを設定したが、自然地形と判明。 No.24　朱中遺跡（184㎡） 南に櫛田川を臨む段丘に位置する。各試掘坑とも遺物が見られ遺構も数ケ所検出された。 No.25　上ノ垣遺跡（68㎡） 櫛田川右岸の微高地に位置する。用地買収の都合で第一次的な試掘調査となった。	○鴻ノ木遺跡 pit　12ケ所 土坑　6ケ所 溝　5条 ○朱中遺跡 pit　3ケ所 土坑　2ケ所 溝　3ケ ○上ノ垣内遺跡 土坑　1ケ所 溝　2ケ所	○鴻ノ木遺跡 ・縄文時代早期押型文土器 ・緑釉陶器片 ・土師器・須恵器片 ・その他中世陶器片 ○朱中遺跡 ・弥生土器片 ・土師器片 ・その他中世陶器片 ○上ノ垣内遺跡 ・縄文時代後期土器片 ・土師器・須恵器片 ・山茶椀片 ・その他中世陶器片

関連文献

No.	25	遺跡名	上ノ垣外遺跡	所在地	多気郡多気町荒蒔字上ノ垣外
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	松阪農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.25 ～ 10.31	調査面積	500㎡	担当者	田村　陽一

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
櫛田川下流右岸の自然堤防上に立地する。 試掘調査では平安時代初期の土師器杯が出土しており、その底面には「盈」の墨書があった。 本調査では飛鳥時代の溝と平安時代から鎌倉時代の井戸が4基検出されたが、掘立柱建物等は検出されなかった。 集落は今回の調査地の西側の微高地上にあるものと考えられる。	井戸 溝	土師器（椀、杯、皿、高杯、甕、鍋） ロクロ土師器（椀） 須恵器（杯、高杯、壷、甕） 緑釉陶器 灰釉陶器 山茶椀、山皿、井戸枠、下駄

関連文献

No.	26	遺跡名	北野遺跡	所在地	多気郡明和町蓑村字西へべら東へべら
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	松阪農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 7.31	調査面積	3,500㎡	担当者	田村　陽一、川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国史跡、斎宮跡の南東約2kmに所在する。低台地の南緩斜面に弥生時代後期から奈良時代にかけての多くの遺構が検出され遺物も多量に出土した。なかでも明和町にそのほとんどが集中して発見されている土師器焼成坑が多数検出され、当地が土師器の一大生産地であったことをあらためて裏付けた。	竪穴住居　26 （弥生～飛鳥） 掘立柱建物　5 井戸（飛鳥）2 土器焼成坑46 （飛鳥～奈良） 土坑 溝	ナイフ型石器 弥生土器 土師器 須恵器

関連文献

No.	27	遺跡名	みのむらおおつか 蓑村大塚遺跡 （立会）	所在地	多気郡明和町蓑村
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	松阪農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.27	調査面積	75㎡	担当者	福田　哲也
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
蓑村大塚遺跡は古墳時代以降の周知の遺跡である。また試掘調査の結果、土師器片が出土している。そのため、今回工事で削平を受ける排水路部分75㎡を立会調査した。若干量の土師器片は出土したが、遺構は認められなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.	28	遺跡名	中里遺跡 （立会）	所在地	度会郡大宮町永会字中里
調査原因	畜産環境整備事業	事業主体	伊勢農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.20～21	調査面積	280㎡	担当者	田中　久生
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
耕土下20～30cmの黄褐色土が遺構面と考えられる。ピット十数基を検出した。		ピット		土師器、山茶椀	
関連文献					

No.	29	遺跡名	御所裏遺跡（立会）	所在地	度会郡度会町一之瀬字御所裏
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	伊勢農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.30～8.31	調査面積	120㎡	担当者	田村　陽一、小林　秀
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
宮川の支流である一之瀬川の上流に位置し、中世城館一之瀬城の外郭の一部と考えられる城跡北側の水田部分を調査した。 排水路建設部分の幅約2m長さ約60mのトレンチで、ピット、土坑が検出された。		ピット 土坑		土師器（皿、鍋） 陶器（摺鉢）	
関連文献					

No.	30	遺跡名	仮称　まかえ 麻加江遺跡（試掘）	所在地	度会郡度会町麻加江
調査原因	県道伊勢大宮線道路改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.6.11	調査面積	56㎡	担当者	田中喜久雄
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
宮川左岸の広大な段丘の一画にあり試掘調査の結果、鎌倉期の遺物が出土する地点約450㎡について次年度以降に調査することとした。		溝跡		土師器杯	
関連文献					

No.	31	遺跡名	岡村近世墓群	所在地	度会郡玉城町岡村
調査原因	県道田丸（T）斉明線道路改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.1～11.30	調査面積	500㎡	担当者	田中喜久雄
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
岡村地区背後に広がる低丘陵の南東側緩斜面に営まれた火葬穴群である。計101基検出、その規模は平均0.7×0.5mの方形で深さは0.3mほどである。石組等は認められなかったが墓坑底にこぶし大の石を敷いたものが若干検出された。遺物は少なかったがすべての墓坑から人骨片が出土した。江戸時代前半を中心として営まれたものと考えられる。		火葬穴 計101基		人骨 土師器皿 刀子 釘 かすがい 寛永通宝 和鏡	
関連文献					

No.	32	遺跡名	かやま 蚊山遺跡	所在地	度会郡玉城町岩出
調査原因	県道岩出新田線道路改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.25 ～ 2.12.28	調査面積	3,500㎡	担当者	田中久生、福田哲也、小川宣哉 宮崎宣光、東山則幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川中流域左岸の河岸段丘上位面に位置する。100,000㎡以上に及ぶと思われる大きな遺跡である。現況は水田である。今回の調査では、かつて古墳群があったこと、鎌倉時代前半期には集落であったことが判明した。	・古墳の周溝 ・中世墓（寝棺、座棺） ・掘立柱建物 ・溝 ・土坑 ・井戸 ・ピット	土師器　皿・鍋・羽釜・燈明皿 土錘 山茶椀・山皿・鉢 青磁　椀・皿 鉄刀 土師器（古墳）椀 紡錘車 花鳥山水図山茶椀 墨書土器

関連文献

No.	33	遺跡名	かみのやま 上の山遺跡（試掘）	所在地	度会郡玉城町勝田
調査原因	県道度会玉城線改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.12.19	調査面積	200㎡	担当者	田中　久生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中世の集落跡 事業地内遺跡面積約2,400㎡、かつて付近から土器が出土した。	溝 ピット	

関連文献

No.	34	遺跡名	小清水遺跡（試掘）	所在地	度会郡玉城町勝田字小清水
調査原因	県道度会玉城線改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.6.12	調査面積	40㎡	担当者	田中喜久雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
5ヶ所に試掘坑を設定したが少量の土師器片が出土したのみで遺構は検出されなかった。		土師器片

関連文献

No.	35	遺跡名	せんぐ 泉貢窯跡	所在地	度会郡玉城町積良字泉貢・向山丑岡
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.20 ～ 11.20	調査面積	約2,600㎡	担当者	前川　嘉宏・川崎　正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
谷間水田に向かった丘陵急斜面に築かれた須恵器窯である。調査区内で検出されたのは窯体1基とそれに伴う灰原のみで、灰原からは整理箱25箱程度の土器片が出土した。窯体は前半部分と天井部分が失われているが、奥壁部分の残りは良好で、石積みの煙道の一部も残っていた。 出土土器の時期は平安時代の前半ごろと思われる。	・窯体　1基 ・灰原	・土師器杯・甕 ・須恵器杯・甕

関連文献　近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ

No.	36	遺跡名	山神城跡	所在地	度会郡玉城町山神、積良
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.15～ 6.1（試掘） H 2.8. 2～12.27（本調査）	調査面積	約6,100㎡	担当者	稲本　賢治、大川勝宏
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
国束山系の北に南北にのびる標高60m～100mの丘陵上に築かれた中世城郭。合計5本の尾根に堀切をつくり、東西約1.3kmの範囲におよぶ。最も東の尾根には郭状の平坦地、テラス状遺構、中世墓などがみられるが、その他では堀切しかみられないという簡単な構造となっている。城の時期としては室町時代中頃から後半に属する。		堀切、郭状平坦地、テラス状遺構、柵、中世墓		中世土器 ・土師器　鍋 ・〃　皿 ・〃　茶釜 ・青磁 ・陶器　甕 ・〃　三足盤 鉄製品 鏃	
関連文献	稲本、大川「Ⅲ度会郡玉城町山神城跡」『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅶ（三重県埋蔵文化財センター1991年）				

No.	37	遺跡名	寺原B遺跡	所在地	伊勢市佐八町字寺原
調査原因	県道伊勢南島線道路改良事業	事業主体	伊勢土木事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.22 ～ 7.29	調査面積	200㎡	担当者	田村　陽一
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
宮川下流右岸の小丘陵の南麓に立地する1989年に近畿自動車道建設予定地が調査され、平安時代末期から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や集石土坑が検出されている 今回はその調査区に直交する隣接地を調査した結果前回と同様の集石土坑を検出した。		集石土坑　1基		山茶椀、山皿 土師器（鍋、皿） 青磁椀	
関連文献	『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ』1990				

No.	38	遺跡名	杉葉崎遺跡（試掘）	所在地	伊勢市朝熊町杉葉崎
調査原因	伊勢二見鳥羽有料道路改良事業	事業主体	三重県道路公社	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.12	調査面積	48㎡	担当者	福田哲也
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
杉葉崎遺跡は古墳時代以降中世までの周知の遺跡である。 今回遺跡の南端部6ケ所計48㎡に試掘坑を設定し、調査を行った。その結果2ケ所から遺物包含層が確認され、そのうちの1ケ所からは土坑と思われる遺構から多量の遺物が出土した。 そのため約300㎡について事業開始前に立会調査を行うことになった。		土抗　1基		・須恵器 杯 ・土師器 甕など	
関連文献					

No.	39	遺跡名	ハノカ遺跡	所在地	伊勢市津村町、佐八町
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 8.1	調査面積	2,800㎡	担当者	角谷　泰弘
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
試掘調査の結果、東端部（A地区）と西端部（B地区）に分けた。 〔A地区〕 縄文土器片を中心に出土、宮川流域ではめずらしい中期の遺物がある。竪穴住居跡は検出されていないことや自然環境から、キャンプ的な役割をになったものと推定。 〔B地区〕 集石がメインとなる遺跡。性格は不明だが、埋葬施設の可能性も強い。特に近接する落合古墳群との比較・検討が必要。		ピット 集石 ピット		縄文土器片 チャート 鉄鏃 山茶椀 石匙、須恵器片、土師器小皿、山茶椀、古銭	
関連文献	「近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ」（三重県埋蔵文化財センター1991年）				

No.	40	遺跡名	おちあい 落合古墳群	所在地	伊勢市津村町字口山田
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.11 ～ 9.21	調査面積	3,166㎡	担当者	伊藤　裕偉

遺跡の概要

4世紀末ないしは5世紀初頭から、6世紀前半にかけて、形成された古墳群である。合計10基の古墳を調査したが、その他に墳丘をもたない石組墓を3基、土器棺墓を1基検出した。古墳以外では旧石器時代かと考えられるチャート片、鎌倉時代の土器が若干出土した。詳細は下記の文献に拠られたい。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
1号	円	13	木棺直葬	鉄器・土器	6C前	下部に別の埋葬施設あり
2号	円	11	〃	〃　〃	〃	
3号	方	10	〃	〃　〃・玉類	5C後	
4号	円？	9？	〃	〃　〃	6C前	
5号	方	10	〃	〃　〃	5C後	
6号	方？	6？	石組	－	？	
7号	方	13	－	土器	4C末～5C初	
8号	方	6×5	木棺直葬	鉄器・土器	5C後	
9号	方	5×3	石組	土器	5C後	
10号	方	5×3	木棺直葬	鉄器・土器・玉類	5C後	2～3基の埋葬施設

関連文献　『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅶ（三重県埋蔵文化財センター 1991年）

No.	41	遺跡名	かめやご 亀谷郡C遺跡	所在地	伊勢市前山町字亀谷郡
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 7.9	調査面積	2,195㎡	担当者	齋藤　直樹、前川　嘉宏

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
亀谷郡川の上流右岸にある尾根の西側斜面に位置する。 調査区を便宜上、A地区、B地区に分けて調査を行った。 遺構は、A地区では石組だけが、B地区では建物跡及び土坑等が検出された。いずれも近世以降のものと考えられる。 遺物は、両地区とも中近世以降の土器等が出土した。 なお、A地区の石組は、現在伊勢市岡本町にある世義寺に関係する石碑跡で、陶経筒片等が出土した。	A地区　石組　1基 B地区　建物　1棟 井戸　1基 土坑　3基 石垣　4条 石列　1条 溝　2条 など	中世 山茶椀 陶経筒　など 近世以降 土師器（皿、小皿、焙烙、鍋） 陶器（皿、椀） 磁器（皿、椀） 瓦 寛永通寶　など

関連文献　『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅶ（三重県埋蔵文化財センター 1991年）

No.	42	遺跡名	かわはらたに 河原谷遺跡	所在地	伊勢市前山町字河原谷
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.11 ～ 10.17	調査面積	1000㎡	担当者	角谷　泰弘、川崎　正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
分布調査により土器片の散布が認められたが、本調査の結果、遺構は検出されなかった。調査区の西側では表土直下に礫層が自然堆積していたが、東側に行くにつれて表土と礫層の間に粘土層が見られ近世から近代の遺物が若干出土した。地元の方の話によると、当地には30年前まで民家が建っていたとのことであり、この粘土層は民家建築時の整地層と思われる。	なし	近世～近代 土師器皿・焙烙・茶釜・陶磁器碗 寛永通宝

関連文献

No.	43	遺跡名	大谷古墳（試掘）	所在地	伊勢市佐八町字大谷
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.2 ～ 7.7	調査面積	120㎡	担当者	前川　嘉宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
古墳の可能性があるため調査したが、遺構遺物は全く認められず。					
関連文献					

No.	44	遺跡名	中起遺跡（試掘）	所在地	伊勢市勢田町字中起
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.16 ～ 10.23	調査面積	257㎡	担当者	伊藤　裕偉
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺構なし。遺物は近代～現代の土師器・陶磁器類					
関連文献					

No.	45	遺跡名	古市（ふるいち）宿場街跡（試掘）	所在地	伊勢市中之町・桜木町
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.22 ～ 11.5	調査面積	127㎡	担当者	角谷　泰弘
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
道路沿いグリッドで遺構あり。遺物は全て近代以降の物。					
関連文献					

No.	46	遺跡名	奥遺跡（試掘）	所在地	伊勢市楠部町字奥
調査原因	近畿自動車道（勢和～伊勢）建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.23～11.1 H 3.1.14～1.16	調査面積	494㎡	担当者	齋藤　直樹
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺構なし。遺物は中近世以降の土師器等が少量					
関連文献					

No.	47	遺跡名	畔垣内（あぜがいと）遺跡（A地点）	所在地	阿山郡伊賀町御代字畔垣内
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 7.23	調査面積	1,940㎡	担当者	鈴木　克彦・吉沢　良
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
柘植川右岸の段丘上に位置する。古墳時代後期と鎌倉時代の集落跡であることが明らかになった。古墳時代の竪穴住居は3グループに分かれ、各グループ内での重複がはげしい。また、焼失住居が1棟あり、杯蓋によって密閉された須恵器杯身が1点出土した。内容物は分析中である。			古墳時代 竪穴住居　19棟 （うち1棟は焼失住居） 鎌倉時代 竪穴住居　1棟 掘立柱建物　2棟		古墳時代 須恵器（杯身・杯蓋・高杯・壺） 土師器（杯・甕・こしき） 鎌倉時代 瓦器（碗） 土師器
関連文献					

No.	48	遺跡名	小倉遺跡	所在地	阿山郡阿山町馬場
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.12 ～ 8.8	調査面積	540㎡	担当者	川戸達也・東山則幸・鈴木克彦

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
この遺跡は河合川を狭んで右岸のB地区と左岸のC地区に分れる。 B地区は、古墳時代末～奈良時代のものと考えられる竪穴住居跡が検出されたが、後世の削平により詳細は不明である。 C地区は、東側の地区に鎌倉時代のものと考えられる掘立柱建物が3棟、それと方向をほぼ同じくして溝が数本検出された。 また、中央部には、多数の瓦器椀、瓦器皿、羽釜等を廃棄した土坑が、西側の地区には奈良時代のものと思われる土坑が検出された。	B地区 ・溝 ・竪穴住居址 C地区 ・溝 ・土坑 ・掘立柱建物　3棟	B地区 ・土師器 ・須恵器 C地区 ・緑釉陶器 ・瓦器椀 ・瓦器皿 ・須恵器甕 ・須恵器甑

関連文献

No.	48	遺跡名	小倉遺跡（立会）	所在地	阿山郡阿山町馬場
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.27 ～ 8.28	調査面積	500㎡	担当者	川戸達也・東山則幸・鈴木克彦

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
御旅所古墳の南に接する小倉遺跡A地区は、調査区のほぼ中央部から幅約5mの溝が表土下1mの深さで検出された。その溝より多数の円筒埴輪と一片の形象埴輪が発見されたことより、古墳の周溝である事も考えられるが、御旅所古墳のそれであるか否かは、定かではない。 小倉遺跡C地区の東側に接する小倉遺跡D地区は、中世のものと考えられる掘立柱建物と、竪穴住居が検出された。	A地区 溝 D地区 掘立柱建物　1棟 竪穴住居址　1棟	A地区 ・円筒埴輪 ・形象埴輪 D地区 ・瓦器椀

関連文献

No.	49	遺跡名	伊賀国府推定地	所在地	上野市外山・坂之下
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.5 ～ H 3.2.8	調査面積	3,000㎡	担当者	鈴木克彦、穂積裕昌、川戸達也 小川専哉、宮崎宣光

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川北岸に位置し、標高150m前後である。本年度調査により、昨年度調査区の東・北方に遺跡範囲が広がることが明らかになった。時期は、弥生時代中期、古墳時代中期・後期、飛鳥、奈良、平安、鎌倉、室町、近世に及ぶ。	古墳時代 溝 奈良時代 掘立柱建物 5間以上×2間(?) 4間以上×4間（北面廂） 平安時代 掘立柱建物 4間×2間以上 計　掘立柱建物 10棟以上	古墳時代 木製品・土器（土師器・須恵器） 奈良・平安時代 土器（土師器・黒色土器・須恵器・緑釉・灰釉陶器） 時期不明 木簡（10点） 子持勾玉

関連文献

No.	50	遺跡名	ではれ 出晴遺跡（立会）	所在地	上野市一ノ宮字出晴
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.5	調査面積	152㎡	担当者	堀田　隆長

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
事業地内の排水路予定地に調査区を設定し、立会い調査を行った。二ケ所の調査区が直角に交わるため、それぞれを東西区・南北区とする。 結果、遺構がみられたのは、南北区のみであり、遺物については、両区でごく微量にみられたにすぎなかった。	南北区 土坑　1基 溝　2条 ピット　数個	東西区 土師器片 瓦器片 南北区 土師器片 瓦器片 いずれも微量である。

関連文献

No.	51	遺跡名	いじろ 印代東方遺跡群（立会）	所在地	上野市印代字堂木・沖・城ノ前
調査原因	県営排水特別対策事業 県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.10 ～ 10.1	調査面積	1,810㎡	担当者	堀田　隆長

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
北方に設定した第1区からは若干の遺物は認められたが、遺構は認められなかった。 南方の第2区からは若干の遺構および遺物が認められた。	第2区 土坑　2基 溝　1条 ピット　若干	縄文土器 後期小鉢 弥生土器 中期甕 後期壷・甕 土師器片 須恵器片 瓦器片 陶器片

関連文献

No.	52	遺跡名	かんだ 間田遺跡	所在地	上野市服部町間田
調査原因	県営排水特別対策事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.13 ～ 7.30	調査面積	444㎡	担当者	小川　専哉・宮崎　宣光

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
府中盆地を流れる柘植川・服部川により形成された沖積平野に立地する。標高約140mをはかる。 発掘区は東西約112m、南北約4mを設定した。しかし、発掘区のほぼ中央を走る用水路を撤去した結果、その底面が遺構検出面と思われる部分より下にあり、周辺の土層は地山の部分まで攪乱されていたことが判明した。しかし、包含層にはわずかではあるが遺物があり、試掘調査によって弥生時代および鎌倉・室町時代の遺物が確認されている。周辺の水田下には遺構や多量の遺物が埋蔵されていることは予想できる。	な　し	鉢 土師器片 瓦器片 須恵器片

関連文献

No.	52	遺跡名	間田遺跡（立会）	所在地	上野市服部町間田
調査原因	県営排水特別対策事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.3	調査面積	105㎡	担当者	堀田　隆長

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本調査にひきつづき、排水路部分に調査区を設定し調査を行った。 遺構は認められなかったが、遺物は認められた。		・弥生土器 ・後期壷片 ・土師器片 ・須恵器片 ・瓦器片

関連文献

No.	53	遺跡名	宮山遺跡	所在地	上野市上友生字宮山
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.11 ～ 10.12	調査面積	1,000㎡	担当者	堀田　隆長

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
削平をうける水田に、調査区を7区設定し、それぞれをA～J区とした。 遺構、遺物共に認められたのはC区のみであった。 これらのことから、本遺跡は、中世の限られた時期範囲で営なまれた集落跡であると考えられる。	C区 土坑 溝 ピット	C区 土師器片 瓦器片 山茶椀片

関連文献

No.	54	遺跡名	堂ノ前遺跡（立会）	所在地	上野市上友生字堂ノ前
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.10.15 ～ 10.17	調査面積	230㎡	担当者	堀田　隆長

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
削平をうける部分について立会調査を行った。 主な遺構としては、掘立柱建物、土坑である。 主な遺物としては奈良～中世のものであることから本遺跡は、当該期の集落跡であるといえる。	掘立柱建物 2×2間以上（総柱建物） 2×4間（総柱建物） 土坑 2基	○須恵器杯身片 ○土師器片 ○瓦器片

関連文献

No.	55	遺跡名	森脇遺跡	所在地	上野市市部
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.23 ～H 3.1.29	調査面積	4,000㎡	担当者	森川　常厚

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
弥生時代から鎌倉時代に至る遺構、遺物を検出したが、遺跡の中心は古墳時代後期から平安時代中期である。 古墳時代後期のものは、竪穴住居が中心で40数棟検出した。 飛鳥～奈良時代の掘立柱建物のうち大型のものは、一辺70cmの方形柱掘形をもち、一部は並んで配置される。 平安時代中期の掘立柱建物は8間×6間の大型のもので、それを取囲む浅い堀を伴う。	堀、竪穴住居、溝、掘立柱建物 火葬墓	・弥生土器（中～後期） 壷、甕、高杯 ・土師器 杯、甕、高杯、皿、台付皿、「ての字口縁」皿 ・須恵器 杯、蓋、高杯、器台 ・黒色土器A類 椀 ・緑釉陶器　椀 ・灰釉陶器　椀 ・青磁椀 ・白磁椀 ・土馬　・土錘 ・勾玉　・砥石 ・子持勾玉　・石鏃 ・有孔円盤　・墨書土器 ・石錘

関連文献

No.	56	遺跡名	澤田遺跡	所在地	上野市市部
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.2 ～ 8.24	調査面積	2,355㎡	担当者	森川　常厚

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査区は4つに分かれるが、全体として遺構密度は希薄である。しかし、正興寺前方には濃密に遺構が存在する。 弥生時代～奈良時代の竪穴住居、平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物、近世の土坑などを検出した。	・竪穴住居 ・掘立柱建物	・土師器 杯、皿 ・瓦器 椀、皿 ・須恵器 杯 ・弥生土器 壷、甕、高杯、ミニチュア壷 ・石包丁 ・近世陶器

関連文献

No.	57	遺跡名	澤田遺跡（立会）	所在地	上野市市部字澤田
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.27	調査面積	172㎡	担当者	小川　専哉、宮崎　宣光

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本調査に引き続き、B地区・D地区の間を幅4m長さ43mのトレンチ状に調査した。 耕作土下27cmにて、地山面と考えられる黄褐色砂質土に達したが、遺構は検出されなかった。 しかし、耕作土下14cm～27cmに堆積する青灰色粘土（砂質土まじり）の包含層にて土師器・瓦器・須恵器・陶器などの若干の遺物が出土した。 注目できるものとしては調査区の西端にて、五輪塔の水輪が出土しており、調査区の北に存在する正興寺との関連が考えられる。	遺構なし	・土師器片 ・瓦器片 ・須恵器片 ・陶器片 （いずれも包含層から若干出土） ・水輪（五輪塔）

関連文献

No.	57	遺跡名	高田氏館跡（立会）	所在地	上野市沖
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.12 ～ 10.9	調査面積	1,100㎡	担当者	穂積　裕昌

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
高田氏館跡の西側を発掘し、堀と考えられるミゾを検出した。現況の城館域よりもさらに北に延びており、あるいは堀と堀につながる用水の2つの遺構の連結とも考えられる。	溝	瓦 瓦器 摺鉢 青磁 陶器（常滑・信楽）

関連文献

No.	58	遺跡名	ざいりょう 才良遺跡	所在地	上野市才良
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.2 ～ 8.7	調査面積	2,010㎡	担当者	穂積　裕昌

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
横長の調査区の両端で平安末～鎌倉時代の遺構、遺物を確認したが中央部の遺構密度はきわめて薄い。 また、一部で下層遺構が存在し、時期は縄文時代後期であった。	掘立柱建物　2 溝 土坑	縄文土器 瓦器 土師器

関連文献

No.	58	遺跡名	才良遺跡（立会）	所在地	上野市才良
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.3 ～ 9.6	調査面積	950㎡	担当者	穂積　裕昌
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
本調査部分の南側のつづきで平安末～鎌倉時代の掘立柱建物と土抗を確認し、その時期の遺物も存在した。 しかし、伝千葉但馬守宅址など、それ以外の部分での遺構・遺物は認められなかった。		掘立柱建物　2 土坑		瓦器 土師器 鉄製刀子 土錘	
関連文献					

No.	59	遺跡名	貝野氏館（立会）	所在地	上野市才良
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.11 ～ 10.9	調査面積	170㎡	担当者	穂積　裕昌
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
貝野氏館址のすぐ東側を発掘したが、平安時代の溝、鎌倉時代の瓦器の入る井戸といった城館成立前の遺構が主に検出された。調査区西端でミゾを発掘し、あるいは貝野氏館に伴う堀の可能性も考えられる。		溝　3本 井戸　1		土師器 瓦器	

No.	60	遺跡名	浮田（うきた）B遺跡	所在地	上野市上神戸
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.7 ～ 6.25	調査面積	1,600㎡	担当者	森川　常厚
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
弥生時代～鎌倉時代の遺構、遺物を検出した。遺構密度は調査区南で高い。 小土坑から「ての字口縁」皿35枚、瓦器皿1枚が完形で出土した。 遺物では黒色土器B類の器台、椀と茶托を合体したような特殊なものも出土している。		・方形周溝墓 ・竪穴住居 ・土壙墓 ・井戸 ・掘立柱建物		弥生土器 壷・甕・高杯 土師器 杯・皿・甕 須恵器 杯・蓋・高杯 黒色土器A類 椀 黒色土器B類 椀・器台 特殊器形椀 瓦器 椀・皿	
関連文献					

No.	60	遺跡名	浮田B遺跡（立会）	所在地	上野市上神戸
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.8.8 ～ 8.24	調査面積	670㎡	担当者	竹内英昭、東山則幸、宮崎宣光
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
全体として4地区に分かれ、現集落に近い箇所で中世の柱穴群を検出したほか、他の地区でも遺物包含層を確認した。		柱穴群　多数 溝　2		土師器皿・羽釜・鍋 黒色土器A類　椀 瓦器椀・皿 陶器皿 土錘	
関連文献					

No.	61	遺跡名	浮田C遺跡（立会）	所在地	上野市上神戸
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.9.5 ～ 9.10	調査面積	1,200㎡	担当者	田中　久生・東山　則幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
調査地は東西約400mと細長く、東端部で若干の遺構を確認した。 調査区中央付近で遺物包含層が最も厚くなるが、氾濫等による堆積と考えられる。			土坑 溝 柱穴		須恵器 瓦器 陶器擂鉢
関連文献					

No.	62	遺跡名	高賀（たかが）遺跡	所在地	上野市上神戸
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.5.14 ～ 6.20	調査面積	2,000㎡	担当者	穂積　裕昌
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
古墳時代～平安時代の大溝の北側に奈良～平安の建物群が存在する。 大溝には、杭列しがらみ等が認められ、多量の古式土師器～平安時代の土器群・木製品が出土した。 またその東側の別のトレンチでは、平安時代末の建物群が発見された。			竪穴住居　4 掘立柱建物　約20 井戸　3 大溝　1		古式土師器 須恵器 土師器 灰釉椀 瓦器椀・皿 土錘 木製品（古墳時代）
関連文献					

No.	62	遺跡名	高賀遺跡（立会）	所在地	上野市上神戸
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	上野農林事務所	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H 2.7.20 ～ 8.2	調査面積	240㎡	担当者	竹内　英昭・宮崎　宣光
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
本調査区に北接する箇所で、奈良時代の竪穴住居跡や掘立柱建物、古墳時代の溝状遺構など、本調査地に近い部分で遺構が密に認められた。			竪穴住居　1 掘立柱建物　3 柱穴群 溝状遺構		須恵器蓋杯・壷 土師器杯・皿・甕 陶器折縁鉢 製塩土器
関連文献					

No.	63	遺跡名	川向（かわむかい）遺跡	所在地	員弁郡北勢町大字瀬木字川向
調査原因	砂利採集に伴う圃場整備	事業主体	阿下喜土地改良共同施行	調査機関	北勢町教育委員会
調査期間	H 2.4.1 ～ 10.15	調査面積	4,500㎡	担当者	松本　覚
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺跡は鎌田川の左岸で員弁川と合流する北東の舌状の台地上に所在する。 縄文中期及び縄文後期の遺構を主とするが、奈良末から平安初めの掘立柱建物も検出した。なお、縄文時代の遺構は中期と後期のものでは場所を異にしている。			縄文中期竪穴住居　1 〃　後期　〃　2 掘立柱建物　5		縄文土器（中期） 〃　（後期） 石斧・石鏃 石錘・石棒（37cm） 弥生土器（後期） 須恵器 土師器 山茶椀
関連文献					

No.	64	遺跡名	なお 縄生廃寺跡	所在地	三重郡朝日町大字縄生字中谷2450番地ほか
調査原因	重要遺跡確認緊急調査	事業主体	朝日町教育委員会	調査機関	朝日町教育委員会
調査期間	H 2.7.2 ～ 10.17	調査面積	309㎡	担当者	早川　裕己
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
塔跡からやや離れた5ケ所にトレンチを入れて範囲を確認。 塔跡に近いしトレンチで整地層を確認した。 なお、本年度は地形測量、報告書作成を実施した。		整地層		平瓦	
関連文献					

No.	65	遺跡名	宮の前遺跡（試掘）	所在地	四日市市中川原
調査原因	個人住宅建築	事業主体	個人	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H 2.3.31 ～ 4.1	調査面積	32㎡	担当者	春日井　恒
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
三滝川と鹿化川とに挟まれた沖積平野に位置する遺跡である。 今回の調査は、開発協議において、遺跡の遺存状況を把握するための試掘調査である。		・溝状の落ち込み		・土師器 ・須恵器 ・埴輪 ・灰釉陶器 ・山茶碗	
関連文献					

No.	66	遺跡名	青木川古墳群2号墳	所在地	四日市市水沢町
調査原因	農地改良工事	事業主体	個人	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H 2.12.3 ～ 12.10	調査面積	50㎡	担当者	春日井　恒
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高130m程の河岸段丘上に位置する古墳群で、昭和63年に農地改良工事の際に発見された1号墳から西30m程の場所である。 夏頃から行われていた農地改良工事中に石室が発見されたため2号墳が確認され、緊急調査の実施となった。墳丘は工事前から削平されており、石室の側壁は2～3段残っているだけであった。		・石室		古墳時代 ・須恵器 ・鉄鏃 ・耳環	
関連文献					

No.	67	遺跡名	西ケ谷古窯跡	所在地	四日市市東坂部町字西ケ谷
調査原因	県道改良工事	事業主体	三重県	調査機関	四日市市遺跡調査会
調査期間	H 2.12.1 ～ 12.28	調査面積	300㎡	担当者	春日井　恒
遺跡の概要		主ら遺跡		主な遺物	
部田川北岸にある丘陵の南向き斜面に位置する遺跡で、昭和初期の道路建設工事の際に発見された。同じ丘陵の西側斜面には古墳時代から奈良時代にかけての西ケ谷遺跡が所在する。 窯体は、1/3程削平されていたが、焚口から奥壁まで残存していた。側壁には数回の補修が行われていることを確認した。この窯に伴う灰原は既設の道路部分にあたり、削滅している可能性がある。調査で検出した灰原は、窯体と平行する位置にあり、窯に伴うものであるか否か検討を要する。		古墳時代 ・窯跡　1基 ・灰原　1基 ・自然流路		古墳時代 ・須恵器	
関連文献	『四日市市埋蔵文化財調査報告9　四日市市小杉町　小杉大谷古窯跡』 四日市市教育委員会　1974				

No.	68	遺跡名	二ツ塚古墳群	所在地	四日市市平尾町字二ツ塚2271-1.4
調査原因	工業用地造成	事業主体	四日市市土地開発公社	事業主体	四日市市遺跡調査会
調査期間	H 3.2.8 ～ 3.15	調査面積	約1,100㎡	担当者	上垣　幸徳

遺跡の概要

三滝川中流域の北岸に広がる台地縁辺に位置する古墳群。古墳群は2基確認されている。
2号墳より須恵器の長頸壺の出土が伝えられているが、現在、所在不明である。
昭和61年に四日市市市史編纂室によって墳丘の測量が行われた以外に調査は行われておらず、遺構の性格等不明な点が多い。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
二ツ塚古墳群 1号墳	円墳	直径 約15m				墳頂部は削平を受けている。
二ツ塚古墳群 2号墳	円墳？	直径 約7m（残存部より推定）				昭和9年頃の開拓によって半分破壊されている。

関連文献　『四日市市史』第2巻史料編考古Ⅰ　四日市市 1988

No.	69	遺跡名	上野遺跡	所在地	四日市市大字西阿倉川字上野
調査原因	宅地造成	事業主体	中村商事株式会社	調査機関	四日市市遺跡調査会
調査期間	H 3.1.4 ～ 3.31	調査面積	約2,200㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平成元年度に宅地造成計画に伴う発掘調査を実施し、弥生時代中期から室町時代にかけての集落跡を検出している。 今回の調査部分は、元年度の調査地で平安時代～室町時代の掘立柱建物跡が集中していた部分の東隣にあたり、10棟以上の掘立柱建物跡が井戸跡6基等を検出している。 弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡3棟の他、弥生時代中期の環濠の可能性が考えられる溝跡の延長部分、方形周溝墓を1基検出している。	弥生時代中期 ・竪穴住居跡 ・方形周溝墓 ・土坑 ・溝跡 平安時代～室町時代 ・掘立柱建物 ・土坑 ・溝跡 ・井戸跡 近世以降 ・土坑 ・溝跡	弥生時代 ・弥生土器 ・土錘 平安時代 ・土師器 ・須恵器 ・灰釉陶器 室町時代 ・土師器 ・山茶碗（墨書土器あり） ・陶器 ・木製品 ・鉄製鎌 近世以降 ・陶器

関連文献

No.	70	遺跡名	西ノ岡B遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町西ノ岡
調査原因	道路建設	事業主体	鈴鹿市土木課	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.12.1 ～H 3.3.31	調査面積	1,200㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸の平坦な舌状台地上に位置する。北側に続く丘陵上に扇広遺跡が所在する。 調査区は、台地が両側からの侵食により最もくびれた部分にあたる。この両側の谷を結ぶように大溝が東西に走る。この溝の南側は5～6基の方形周溝墓のみが分布し墓域を形成するものとみられる。	弥生時代 大溝（条濠）1 方形周溝墓　5～6	弥生土器

関連文献

No.	71	遺跡名	寺山遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町寺山
調査原因	道路建設	事業主体	鈴鹿市土木課	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.10.1 ～ 11.30	調査面積	2,400㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸台地上に所在する弥生～平安時代の集落遺跡である。北側丘陵から東側へL字状にぬける幅19m延長200mについて調査を行った。北よりⅡ、Ⅲ、Ⅳの調査区に分ける。 Ⅱ区丘陵麓の平坦地で弥生時代及び平安時代の集落が存在する。 Ⅲ区　南へ張り出す三角形状の小台地で東側谷を望む辺縁部に弥生時代及び奈良時代の住居が分布する。Ⅱ区との境西より入る小谷状地に面し土師器の焼成施設とみられる焼坑1基を検出。 Ⅳ区　Ⅲ区の東側谷の対岸にあたる寺田山古墳群が分布する台地上。東端に7号墳が所在。 奈良時代の遺構が分布する。	弥生中期～後期 竪穴住居　円形1、方形2 方形周溝（墓？）1 平安時代 掘立柱建物4以上 方形土坑 弥生中期～後期 竪穴住居 （円形1、方形2） 土坑 奈良時代 竪穴住居7 掘立柱建物2 土器焼成土坑1、土坑多 弥生時代　竪穴住居　1 奈良時代　竪穴住居　3 掘立柱建物　1以上 土坑（屋外炉）多	弥生土器 砥石 灰釉陶器、須恵器、土師器、 軒丸瓦 弥生土器 須恵器、土師器、鉄滓 須恵器 土師器 瓦片

関連文献

No.	71	遺跡名	寺山遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町寺山
調査原因	水管橋管理用道路建設	事業主体	鈴鹿市水道局	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.12.1 ～H 3.4.30	調査面積	2,500㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸の平坦で広大な台地上に全面に分布する。南北幅7.5m、全長3,400mのトレンチ状に調査を行った。北よりA～E区に分ける。 A区 丘陵麓の平坦地で弥生時代の集落を分布する。 B・C地区 寺田山古墳群の削平された痕跡と化した古墳と奈良時代集落が複合する。奈良時代の遺構は古墳を切り破壊が当時より進んでいたことを示す。 D・E地区 ほぼ奈良時代の集落が広がる。大形の掘立柱建物が多く分布。	弥生時代 竪穴住居4、溝 古墳時代 竪穴住居1 奈良時代 柵、竪穴住居1、土坑多数 古墳時代 寺田山10号墳 一辺10m方墳 寺田山11号墳 径14m円墳 寺田山15号墳 一辺9m方墳 寺田山16号墳 一辺6.5m方墳 寺田山17号墳 一辺6m方墳 竪穴住居7以上 掘立柱建物11以上 土坑（屋外炉）多数	弥生時代 弥生式土器、石包丁、 大形蛤刃石斧 古墳時代 須恵器 須恵器、灰釉陶器、土師器、 瓦片 須恵器、杯蓋、身（各1）　6世紀中 円筒埴輪　6世紀前 須恵器杯蓋（1）　6世紀前 須恵器杯蓋（4）、杯蓋（6） 短頸壺（2）　6世紀前 須恵器、土師器

関連文献

No.	72	遺跡名	寺田山7号墳	所在地	鈴鹿市高岡町寺山
調査原因	道路建設	事業主体	鈴鹿市土木課	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.10.1 ～ 11.30	調査面積	600㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要

寺田山古墳群は、寺山遺跡に重複ずて分布する古墳群で、鈴鹿川を見下す台地先端に位置する寺田山1号墳（全長70m前方後円墳）を主墳とする13基（現在10基）の古墳群として知られていた。7号墳はすでに土取によって墳丘の半分を失っていた。径14.5mの小規模な円墳ながら、葺石、埴輪列を有する。14号墳はすべて失った古墳である。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
寺田山　7号墳	円墳	径14.5m 高さ2m 周溝幅 3～4.5m 葺石	木棺直葬	主体部 鉄刀 鉄剣 各1 鉄斧 墳丘 円筒埴輪列 形象埴輪片 須恵器 器台、甕 周溝 奈良時代 土師器、 須恵器 瓦多数	5世紀後半	
寺田山14号墳	方墳	7m	周溝のみ	須恵器（壷）	6世紀前	

関連文献

No.	73	遺跡名	おぎぶる 扇広遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町扇広
調査原因	土地区画整理	事業主体	鈴鹿市高岡山土地区画整理組合	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.4.10 ～ 7.4	調査面積	3,000㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要

鈴鹿川左岸の丘陵最も高所にあたる尾根上及び南向斜面に位置する。弥生時代中期後葉～後期前葉の集落遺跡である。竪穴は尾根上から斜面に4列ほどの群をなして分布し、一箇所での建て替えも多くみられる。

大溝は、調査区南西に入る支谷より、丘陵西端を画するように、尾根を横断して伸び北側斜面にいたる。集落存在期間を通じて残り、少くとも1回掘り直しが行われている。

周溝墓は濠に沿うように分布し、多くは廃絶した竪穴に重複して築かれている。

主な遺構

弥生時代
- 竪穴住居　34
- 掘立柱建物　2
- 周溝墓　5
- 大溝（条濠）1
- 土坑（墓）10

主な遺物

弥生土器、土玉
太形蛤刃石斧
偏平片刃石斧
石剣、石包丁
砥石

関連文献

No.	74	遺跡名	須伎神社東遺跡（仮称）	所在地	鈴鹿市長太栄町二丁目
調査原因	住宅建設	事業主体	㈲飯田商事	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H 3.1.29	調査面積	64㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿市長太栄町所在の須伎神社の東南約50mの位置にある。調査前の状況は、古墳時代須恵器甕・土師器台付甕、鎌倉時代山茶碗などの遺物散布が見られた。 4m×4mの試掘坑を4ケ所設定し、立ち合い調査を実施した。 基本的な層序はⅠ層（黒褐色ねん質土層＝耕作土）、Ⅱ層（白灰色砂利層）、Ⅲ層（灰色ねん土層）で表土からⅢ層上面まで約50～80cm程である。 明確な遺構は確認し得なかった。Ⅱ層は氾濫による堆積層と考えられる。遺物は流れ込みによるものか、客土による他からの流入と思われる。	な　し	古墳時代 須恵器甕片 土師器甕片 鎌倉時代 山茶碗、山皿片 土師器皿片

関連文献

No.	75	遺跡名	岡田遺跡	所在地	鈴鹿市岡田町字吉原
調査原因	鈴鹿市埋蔵文化財整理室建設	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.7.9～7.19	調査面積	200㎡	担当者	新田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
建物部分についてのみ面的な調査を行った。 過去の耕土改善により遺構はほとんど失われていたが、自然流水路と考えられる落ち込みがかろうじて検出された。遺物はテンバコに6箱出土したが大部分が重機等により破砕されている。時代は弥生中期以降中世まで多岐にわたる。	自然流水路？ 土坑	弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗

関連文献

No.	76	遺跡名	岡田古墳群（試掘）	所在地	鈴鹿市岡田二丁目
調査原因	社宅建設	事業主体	ヨンソー開発株式会社	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H 3.2.12	調査面積	192㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
岡田古墳群（既に削平）の南側で近鉄平田町線との中間に位置する。調査前の分布調査で、須恵器甕片や山茶碗片が採集され、古墳群の広がりが予想されたため、4m×4m試掘坑を12箇所設定して調査を実施した。第Ⅰ層（黒褐色砂質土＝耕作土）の下はすぐ地山（黄褐色砂れき層）で、平均深度は15～20cmである。調査の結果、明確な遺構・遺物は確認されなかった。	な　し	須恵器甕片 山茶碗片

関連文献　仲見秀雄・真田幸成「神戸史談第3号」（1962年）

No.	77	遺跡名	高井B遺跡	所在地	鈴鹿市徳田町字高井
調査原因	団体営土地区画整備事業（山城地区）	事業主体	山城地区土地区画整理組合	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.5.21 ～ 7.18	調査面積	N地区 250㎡ S地区 1,280㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
高井B遺跡は御薗町と徳田町集落の中間地点に位置する周知の遺跡で、通称「ぼうず山」と呼ばれる小高い独立丘陵の西から南にかけての緩斜面に位置する。 表土面から地山まで斜面上で約15cm、斜面下で約60cm程あり、南半分で包含層が認められる。遺構は少ないが、遺物量は多く中心は奈良時代と平安時代末から鎌倉時代である。出土遺物の約半数は山茶碗であるが緑釉陶器が約50点出土し、市内では大木ノ輪遺跡に次ぐ出土量である。	N地区 土坑　2基（弥生時代） S地区 ・掘立柱建物（奈良時代） 東西4間（6.9m）×南北3間（5.0m）の東と南側に庇が付く。 ・井戸　1基 径1.0m×深さ2.65m （奈良時代） ・大溝 幅2.8～5.0m 深さ0.5～1.0m 自然流路の可能性もある。	N地区 ・弥生土器壷・甕・高杯 S地区 ・古墳時代 須恵器杯・甕 円筒埴輪 ・奈良時代 須恵器・杯・甕・鍔・土師器甕・甑 ・平安時代 緑釉皿・碗 灰釉碗 土師器甕 山茶碗・山皿 ・鎌倉時代 山茶碗・山皿 土師器鍋 青磁皿 白磁碗

関連文献

No.	78	遺跡名	伊勢国分寺跡（第3次）	所在地	鈴鹿市国分町字西谷他
調査原因	重要遺跡範囲確認調査	事業主体	鈴鹿市教育委員会	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H 2.10.11 ～ 12.23	調査面積	502㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本年度は範囲確認調査の3年次にあたる。西谷4地区、西谷5地区、西高木2地区、南浦1地区の4ヶ所で実施した。 西谷4地区 前々年調査した西谷1地区の南側にあたる。掘立柱建物群の検出を目的に設定。 西谷5地区 寺域の西南方向にあたる。遺構の有無を確認に設定。 西高木2地区 寺域南側中央にあたり、築地及び南門跡の検出を目的に設定。 南浦1地区 推定尼寺跡に今次初めて調査区を設けた。残念ながら、国分尼寺に直接関連する遺構は検出し得なかった。	・掘立柱建物跡（奈良時代） 2×5間の身舎に三面の庇付 ・平地式住居跡（奈良時代） ・溝2条（奈良時代） ・掘立柱建物跡（奈良時代） 2間×3間以上の南北棟 ・溝（平安時代末） ・土坑（奈良時代前半） ・築地跡・築地外溝 ・テラス状遺構（南門？） ・瓦敷 ・大溝3条（幅1.4～2.6m）（中世？） ・溝2条（鎌倉時代前半） ・土坑（奈良時代？）	・須恵器杯・蓋 ・土師器甕 ・平・丸瓦片 ・土師器杯・甕 ・軒丸瓦（ⅢB、ⅢD型式） ・軒平瓦（ⅣA、ⅣBa型式） ・山茶碗、古瀬戸壷片 ・軒丸瓦（Ⅲ(a、ⅢD型式） ・軒平瓦（ⅣA型式） ・須恵器蓋 ・灰釉碗 ・瀬戸本業焼　梅丈皿、擂鉢 ・須恵器杯・甕 ・土師器甕 ・円筒埴輪片 ・山茶碗 ・平瓦片

関連文献

No.	79	遺跡名	中尾山遺跡	所在地	鈴鹿市国分町字中尾山
調査原因	一般廃棄物最終処分場	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 2.4.1～ 6. 8 H 2.9.5～12.18	調査面積	2,500㎡	担当者	新田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平成元年度より継続。 鈴鹿川左岸の舌状の台地上に位置する。標高35～40m。方形周溝墓と弥生時代中期中葉以降の竪穴住居が検出され、総数はそれぞれ32基、55棟となった。 方形周溝墓のうち10基は遺物が少なく、時期を特定できないが他の22基は弥生時代中期後葉のものである。	弥生時代中期 竪穴住居　55棟 方形周溝墓　22基 土坑墓 土坑 掘立柱建物 飛鳥時代 土坑墓　1基 その他時期不明の方形周溝墓？ 10基 ※数は平成元年度分も含む	弥生土器（壷・甕・高杯） 石鏃・磨製石剣・石斧・砥石、他 須恵器（杯）

No.	80	遺跡名	沖ノ坂遺跡	所在地	鈴鹿市国分町字石亀谷
調査原因	一般廃棄物最終処分場	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H 3.1.7～3.26	調査面積	1,700㎡	担当者	新田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸の台地に位置する。標高36m。谷を挟んで東隣には中尾山遺跡がある。 谷に面した台地の縁辺部に沿って、弥生時代中期中葉から古墳時代までの竪穴住居が検出された。方形周溝墓は5基検出されたが、時期は特定できない。その他、古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代の土坑墓がそれぞれ1基ずつ検出されている。竪穴住居には中期後葉のものがあり中尾山遺跡の方形周溝墓との関係を考える上で興味深い。	弥生時代中期～後期 竪穴住居　13棟 土坑 古墳時代前期 竪穴住居1棟 古墳時代後期 土坑墓　1基 飛鳥時代 土坑墓　1基 奈良時代 土坑墓　1基 その他時期不明の方形周溝墓 （？）5基	弥生土器（壷・甕・高杯） 石斧・砥石 土師器（甕・高杯） 須恵器（杯・高杯）

No.	81	遺跡名	沢城跡・沢遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市飯野寺家町字沢
調査原因	店舗建設	事業主体	朝日株式会社	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H 2.4.11	調査面積	48㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
沢城は、関（神戸）盛澄が、正平22（1367）年に築城し、天文20（1551）年に神戸城に移るまで神戸氏が代々居城した城で、神戸城移動後も、隠居城として16世紀末まで使用されていたらしい。 調査地は沢城本丸の東北方向で、中央道路沿いに店舗建設（サントピア）に伴い、試掘調査を実施した。試掘坑は建設予定地の西南隅に3ケ所（4×4mグリッド）設定した。	基本的な層序はⅠ層（褐色砂質土＝耕作土）、Ⅱ層（赤褐色土混入褐色ねん質土）、Ⅲ層（黒褐色シルト層）、Ⅳ層（白乳色粘土＝地山）で、表土上面から地山直上まで0.6～1.0mある。3ケ所とも明確な遺構は認められなかったが、Ⅲ層は植物繊維を多量に含み、沼地であったことを裏づけた。	Ⅲ層上面で土師器皿片が4点ほど出土した。15～16世紀頃のものと考えられる。

関連文献	

No.	82	遺跡名	西野遺跡	所在地	亀山市栄町字西野
調査原因	宅地造成	事業主体	㈱トーカイ	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H 2.4.～6	調査面積	3,000㎡	担当者	亀山　隆

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
椋川右岸の台地上に所在する集落跡。 古墳時代から鎌倉時代までの間に、小規模ながら継続的に営まれたと思われる。	掘立柱建物　2 道	円面硯 山茶碗 須恵器 土師器

関連文献

No.	83	遺跡名	糀屋垣内（こうじやがいと）遺跡	所在地	亀山市羽若町糀屋垣内
調査原因	一般国道1号亀山バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H 2.4.1～H 2.10.31	調査面積	6,500㎡	担当者	亀山　隆・森　崇史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川の支流椋川左岸の標高75m程の台地上に位置している。 古墳時代から近代にかけての複合遺跡であるが、中心は平安時代末から鎌倉時代である。 平安時代末には大型建物を中心とする建物群が溝・柵列で区画されていたが、同時期と思われる井戸は検出されなかった。鎌倉時代にはいると、建物の規模が縮少する傾向にあり、井戸を伴うようになる。 羽若町一帯は、『吾妻鏡』等に記載のある「葉若御厨」に相当すると思われ、この遺跡は隣接する大数遺跡とともに、当時の荘園内における集落の姿を知るための好資料となりうる。	竪穴住居　2棟 掘立柱建物40棟以上 井戸　5基 中世墓　2基 溝、土坑、柵列等	須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、山茶碗（墨書のあるものを含む）、山皿、土師器皿 輸入陶磁器、伊勢型鍋、常滑甕、漆器椀、曲物・板材等の木製品、植物遺体、動物遺体、近世・近代陶磁器等

関連文献　『亀山市文化財調査速報』第8号

No.	84	遺跡名	大鼻遺跡	所在地	亀山市布気町字牛櫃
調査原因	工場建設	事業主体	亀山日化㈱	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H 2.11～12	調査面積	1,200㎡	担当者	亀山　隆

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
縄文早期から室町時代までの集落跡。 今回の調査地は遺跡範囲の北辺に相当する。	竪穴住居　2 掘立柱建物　2	土師器　椀 甑 甕 須恵器　杯

関連文献　一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財調査概要　Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ

No.	85	遺跡名	大垣内古墳	所在地	亀山市山下町字大垣内
調査原因	道路拡幅	事業主体	亀山市	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H 3.2～	調査面積	240㎡	担当者	亀山　隆

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の段丘先端に所在する。 規模・墳形は調査中のため不明。主体部は木棺直葬。主体部より鉄刀出土。墳丘下層に縄文中期の住居跡。	近世墓	

関連文献

No.	86	遺跡名	亀山城跡	所在地	亀山市本丸町
調査原因	史跡整備	事業主体	亀山市	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H 3.1	調査面積	80㎡	担当者	亀山　隆
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
亀山城本丸跡に土塀復元（景観整備）に伴い調査。 尚、土塀は備中松山城のものを参考とした。		石垣根石		丸瓦 平瓦 軒丸瓦（巴文）	
関連文献					

No.	87	遺跡名	鈴鹿関関係推定地（試掘）	所在地	鈴鹿郡関町新所字西町北・字会下垣内
調査原因	町営住宅開発	事業主体	関　町	調査機関	関町教育委員会
調査期間	H 2.11.26～H 3.2.1	調査面積	925㎡	担当者	野尻　孝明・小坂　宜広
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
西町北地区・会下垣内地区ともに古代鈴鹿関の想定地であり、会下垣内地区は大日森遺跡の範囲内である可能性も考えられていた。しかし、両地区ともみるべき遺構・遺物はなかった。		ピット（会下垣内地区：鎌倉時代）		山茶椀（会下垣内地区）	

No.	88	遺跡名	雲林院青木遺跡	所在地	安芸郡芸濃町大字雲林院字青木
調査原因	河原・新田地区土地改良事業（圃場整備）	事業主体	芸濃町	調査機関	芸濃町教育委員会
調査期間	H 3.2.8～5.3.9	調査面積	2,500㎡	担当者	油田　秀紀
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
当遺跡は安濃川中流右岸の河岸段丘上に位置し、東側に北奥遺跡、南側に下川遺跡が近接する。 今回の調査は、排水路等で削平される部分2,500㎡を行なう。 現在も調査中の為、まだ検討する必要があるが、中世の遺構が中心である。又、低地では自然の谷地形を検出し、そこから板状の木製品等も出土した。 遺物は、縄文時代後期の土器もあるが、現在、検討中である。		・溝　7条 ・土坑・集石土坑 ・方形竪穴状遺構　1基		・土師器（甕・羽釜・杯） ・須恵器（杯） ・山茶椀、山皿 ・木製品 ・縄文土器、黒曜石 ・弥生土器	
関連文献					

No.	89	遺跡名	西山田遺跡（試掘）	所在地	安芸郡安濃町大字安濃字室ノ口
調査原因	土取り	事業主体	株式会社　健成	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H 3.2.6	調査面積	93㎡	担当者	田中　秀和
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
西山田遺跡の北隣の尾根で遺跡が広がる可能性があったため試掘調査を実施した。 調査の結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。		な　し		な　し	

No.	90	遺跡名	岡人り古墳（試掘）	所在地	安芸郡安濃町大字草生字布山
調査原因	土取り	事業主体	前橋建設株式会社	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H 2.6.29	調査面積	40㎡	担当者	田中　秀和
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
岡人り古墳群の所在する尾根が南へ続く個所で、古墳上の高まりが3カ所確認され試掘調査を行ったが、遺構・遺物の出土もなく、古墳ではなく自然地形の隆起と判断された。		な　し		な　し	
関連文献					

No.	91	遺跡名	旧観音堂跡　（試掘）	所在地	安芸郡安濃町大字光明寺高塚・長尾
調査原因	土取り	事業主体	株式会社津建材	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H 2.10.9	調査面積	300㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
長谷山古墳群高塚地区に隣接する山上で、ふもとの光明寺に所在する観音堂の前身が所在した場所である。すでに、土取り工事が進んでおり、県文化財調査員の連絡によって遺跡と確認された。工事を中止し、土取り範囲を確認した後、踏査をおこなった。踏査の結果、標高240mから250m付近で古墳状の高まりを5カ所確認した。当面土取りを行う範囲に関して、試掘調査を行った結果、炭の詰まったピット1個を検出した。 なお、旧観音堂については現地保存を行うことにした。	ピット	崩された土から和鏡・山茶椀・土師器皿等が出土した。

関連文献

No.	92	遺跡名	西山田遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字内多字西山田
調査原因	ビニールハウス建設	事業主体	個人	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H 2.4.8	調査面積	30㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
西山田遺跡は安濃川支流の美濃屋川左岸の台地上にあり、古墳時代の遺物散布域として知らたていた。 現地ではすでに、ビニールハウス建設工事が進んでいたため立会調査を行うことにした。 その結果、古墳時代と推定される溝一条を検出した。	溝一条	土師器破片

関連文献

No.	93	遺跡名	大城（おおしろ）古墳群	所在地	安芸郡安濃町大字内多字大城
調査原因	内多東工業団地造成事業	事業主体	安濃町企画商工課	調査機関	安濃町遺跡調査会
調査期間	H 2.4.16～H 3.1.7	調査面積	8,000㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要

大城古墳群は安濃川の支流である美濃屋川左岸の標高35～40mの丘陵上に存在する。弥生時代後期～古墳時代前期初頭の時期には、大溝4条によって尾根筋を5つの区画に区画し、北から住居空間（竪穴住居跡2棟）広場？、住居空間（竪穴住居6棟、掘立柱建物1棟、方形台状墓1基）、墓域空間（2区画、方形台状墓8基）の集落の構造が明瞭に判明した。とりわけ、中央の住居空間に存在する住居跡は3度の建て替えがみられ2度目の建て替えの場合、一回り大きく住居を改変している様子が窺えた。また、墓域空間では、尾根を2分する溝が中央にみられ一区画に4基づつ方形台状墓を配していた。尾根を2分する溝は集落を構成する人々が大きな2集団に分かれていたことを示唆するものであろう。

古墳時代中期末～後期になると、方墳を主体とする古墳群が形成されはじめる。方墳を主体とする古墳群の東側の尾根には円墳が1基単独で存在していたが、方墳を主体とする古墳群では3号墳、4号墳をのぞいて他は長方形のプランを呈した古墳であった。

古墳時代後期末では5号墳の南側に土壙墓群が十数基検出されたが、副葬品はほとんど無くあったものでも須恵器短頸壺、杯身等が副葬されているだけであった。

中世には3号墳周辺に中世墓が9基密集して検出され、5号墳墳頂部でも1基検出された。蔵骨器に焼いた骨を入れたものや、直接焼いた骨を埋葬した土坑等がみられ、ほとんどのものに集石がみられた。副葬品は土師器皿、山茶椀等が出土した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部（m：数値は棺の規模）	出土遺物	時期	備考
1号墓	長方形	10.4 × 8.0 × 1.75	第1主体（木棺直葬） 2.66 × 1.05 第2主体（土壙墓） 2.65 × 1.1	壺　片 なし	3世紀末	墓壙掘型底部残存 周溝内埋葬

2号墓	長方形	12.0×10.0×1.24	木棺直葬 2.84×0.98	壷	3世紀末	
3号墓	方　形	13.0×11.5×2.73	第1主体（木棺直葬） 2.00×0.88 第2主体（土器棺） 3.30×0.56	なし 高杯	3世紀末	
4号墓	方　形	6.0×4.0×1.25	木棺直葬 1.85×0.67	主体部からは無し	3世紀末	
5号墳	方　形	9.0×8.6×2.1	第1主体（木棺直葬） 2.02×0.60 第2主体（土器棺） 0.92×0.64	主体部内無し なし	3世紀末	
6号墓	長方形	10.0×7.5×2.0	第1主体（木棺直葬） 1.80×0.70 第2主体（木棺直葬） 1.70×0.70	壷・甕 主体部からは無し	3世紀末	
7号墓	長方形	13.0×9.0×2.25	第1主体（木棺直葬） 2.94×0.97 第2主体（土器棺） 0.98×0.94	なし なし	3世紀末	
8号墓	長方形	11.0×9.5×1.2	なし	壷・高杯	3世紀末	削平のため主体部検出できず
9号墓	長方形	9.5×7.5×1.35	木棺直葬 1.80×0.55	壷	3世紀末	
1号墳	方　墳	12.2×10.4×2.0	第1主体（木棺直葬） 2.62×0.76 第2主体（土壙墓） 1.14×0.73	主体部内無し 鉄器・刀子 周溝・墳丘斜面から須恵器杯・甕破片等が出土	6世紀後半	周溝内埋葬
2号墳	方　墳	13.4×6.7×0.75	なし	墳丘斜面から須恵器杯身・甕出	6世紀中葉から後半	削平のため主体部検出できず
3号墳	方　墳	8.0×8.0×1.3	第1主体（木棺直葬） 2.50×0.56 第2主体（土壙墓） 1.57×0.97	須恵器破片 周溝・墳丘斜面から須恵器高杯・椀・甕破片等が出土 なし	6世紀前半	周溝内埋葬
4号墳	方　墳	7.0×6.5×1.0	木棺直葬 1.90×0.55	なし 墳丘斜面から須恵杯破片が出土	6世紀中葉	
5号墳	方　墳	15.2×10.4×3.25	第1主体（木棺直葬） 3.53×0.62 第2主体（木棺直葬） 2.50×0.50 第3主体（土器棺） 0.80×0.80	須恵器　杯・高杯・甕・壷、鉄器　鉄鏃・鏡・刀子、玉類　切り子玉・くちなし玉 須恵器　高杯 須恵器　杯身	6世紀後半	南側斜面にテラスが一段巡る 墳丘裾
6号墳	円　墳	10.8×10.0×1.5	土壙墓 1.85×0.78	主体部からはなし 周溝から須恵器甕・杯身	5世紀末	

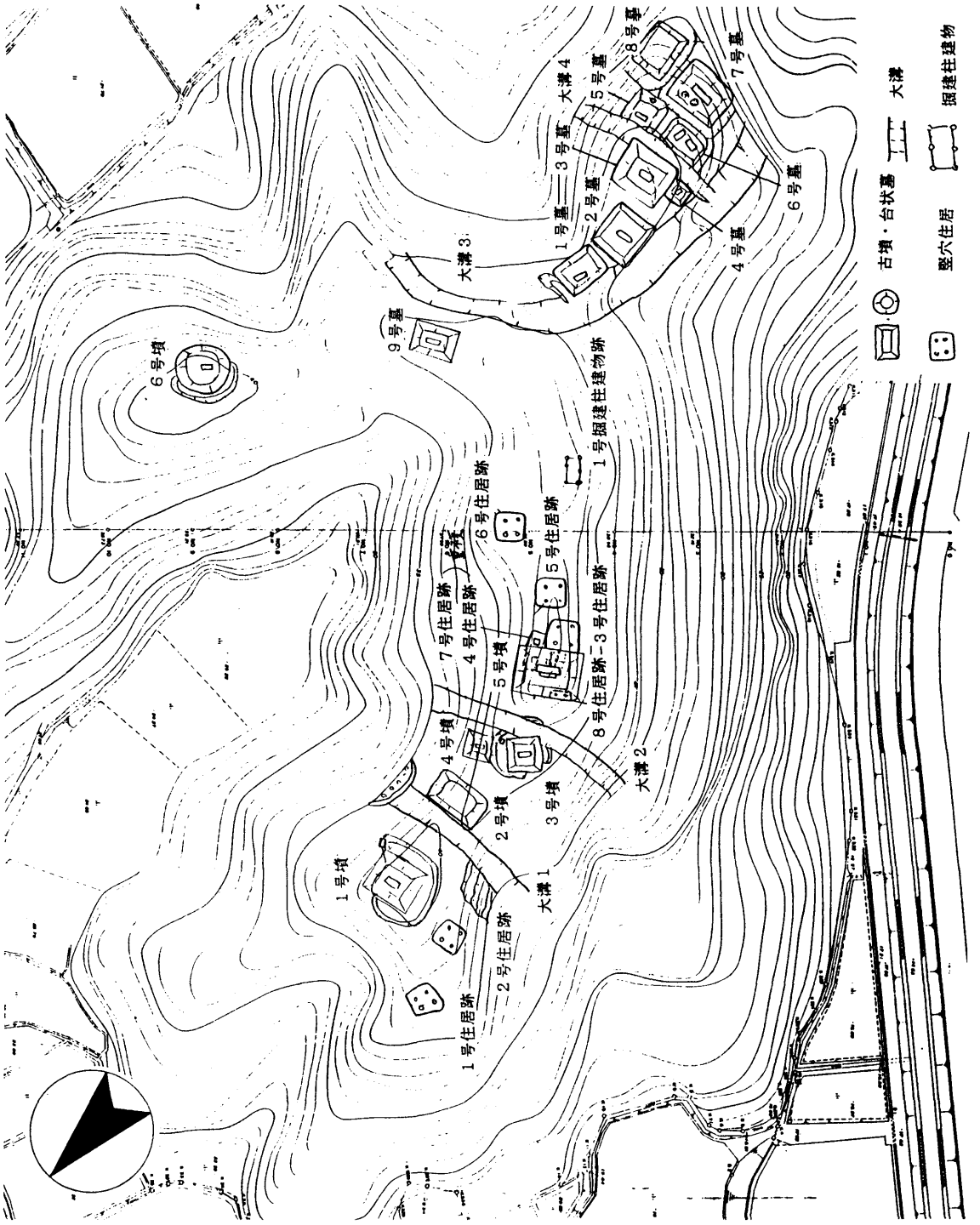
住居跡

住居名	形態	規模（m）	出土遺物	時期	備考
1号住居跡	方形	3.6×4.6	壷、サヌカイト片	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	
2号住居跡	方形	5.85×5.85	壷・甕・建築部材（炭化材）	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	
3号住居跡	方形	6.4×5.8	壷・高杯	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	
4号住居跡	長方形	9.2×7.6	壷・高杯	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	
5号住居跡	長方形	5.2×4.65	土器片、須恵器片	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	古墳時代後期に上部から土坑が掘られる
6号住居跡	方形	4.95×3.5	土器片、須恵器片	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	古墳時代後期に上部から土坑が掘られる
7号住居跡	方形	規模不明		弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	住居跡4に完全に壊される
8号住居跡	方形	5.6	壷・甕・高杯	弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	
1号掘建柱建物	1×2間	5.0×2.5		弥生時代後期後半～末（3世紀後半）	埋土から判断した

中世墓

No.	墓形態	形態	規模（長さ×幅×深さm）	出土遺物	時期	備考
1号墓	集石墓	楕円形	1.2×0.7×0.2	人骨片	室町時代（14世紀）	
2号墓	土壙墓	楕円形	1.6×1.4×0.2	山茶椀、人骨片	室町時代（14世紀）	
3号墓	集石墓	方形	0.8×0.7×0.4	骨壷、人骨片	室町時代（14世紀）	
4号墓	集石墓	方形	1.1×1.2×0.5	骨壷、人骨片、鉄製品	室町時代（14世紀）	
5号墓	集石墓	楕円形	0.95×0.93×0.19	人骨片	室町時代（14世紀）	
6号墓	集石墓	楕円形	0.7×0.66×0.21	骨壷片、人骨片、山茶椀	室町時代（14世紀）	
7号墓	土壙墓	長方形	1.45×0.52×0.3	人骨片	室町時代（14世紀）	
8号墓	土壙墓	円形	0.94×0.81×0.21	人骨片、土師器皿	室町時代（14世紀）	焼土、炭出土
9号墓	土壙墓	円形	0.75×0.75×0.37	人骨片	室町時代（14世紀）	
10号墓	土壙墓	楕円形	2.3×0.8×0.3	土師器皿、山茶椀、人骨片	室町時代（14世紀）	

関連文献



第２図　大城古墳群主要遺構配置図（１:2000）

No.	94	遺跡名	三郷A・B遺跡（試掘）	所在地	安芸郡美里村三郷
調査原因	公共施設建設	事業主体	美里村	調査機関	美里村教育委員会
調査期間	H 2.10.25 ～ 11.3	調査面積	12,000㎡	担当者	本堂　弘之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
北東にむかってつき出た河岸段丘上の平地で標高96m前後である。 試掘調査を行い約20m間隔で4m×2mの試掘坑を28設定し、うち24ケ所について試掘した。	なし	なし

関連文献

No.	95	遺跡名	六大B・大古曽遺跡	所在地	津市大里窪田町
調査原因	団体営圃場整備	事業主体	南窪田土地改良区	調査機関	六大B遺跡発掘調査団
調査期間	H 2.9.21 ～ 11.9	調査面積	520㎡	担当者	池端　清行・中村　光司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
六大B遺跡 現在の大里窪田集落から毛無川にかけての微傾斜地にある遺跡で、今回の調査区においては出土遺物からみて鎌倉時代が中心となる時期である。 大古曽遺跡 標高40mの丘陵東斜面より標高10mの水田にかけて立地する。 古墳時代～平安時想の遺跡である。 今回は水田部分の調査を行い溝2条を検出した。丘陵部分の遺構については、現在のところ不明である。	竪穴住居 掘立柱建物 溝 土坑 井戸 溝2条	土師器　皿 羽釜 山茶椀 常滑産甕 布目瓦 黒色土器椀　など

関連文献

No.	96	遺跡名	上津部田（とうずべた）城址	所在地	津市一身田上津部田字ルノ坪943の1他
調査原因	県文化会館の建設	事業主体	津市土地開発公社	調査機関	上津部田城址発掘調査団
調査期間	H 2.9.1～H 3.3.10	調査面積	4,000㎡	担当者	池端　清行・山口　格

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
志登茂川と安濃川に挟まれた細長い丘陵の先端部に立地。 （平成元年調査の上津部田城址が立地する尾根に囲まれた谷間にあたる。） 土塁と周溝を伴う方形の区画を検出。建物跡が見られない、広場状の遺構。 中央奥の区画中心付近で火葬墓一基検出	溝　8条 土坑　3基 小穴　5基 火葬墓1基 土塁	土師器皿、羽釜、鍋、甕、擂鉢 山茶椀、天目茶椀、青磁、染付 いずれも小片

関連文献　『上津部田城址発掘調査報告』、『伊勢一国旧城跡附』、『日本城郭大系10』、『三重の中世城館』

No.	97	遺跡名	渋見（しぶみ）砦跡	所在地	津市渋見町字城
調査原因	学術調査	事業主体	津市教育委員会	調査機関	渋見砦発掘調査団
調査期間	H 1.11.13 ～H 2.7.15	調査面積	8,000㎡	担当者	萱室康光、池端清行、米山浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
乙部、中川原の城主で乙部兵庫頭藤政が織田信長の伊勢進攻に対し、急拠築城されたが、織田信包の軍に包囲され落城。藤政は自殺するとも専修寺へ入るとも伝えられる。 昨年度からの継続調査で主郭北側より大規模な空堀を検出し、主郭東南側の郭では井戸及び通路状の遺構を検出した。	空堀 井戸 通路状遺構 掘立柱建物 土塁	土師器、皿多数 鍋、羽釜、墨書土器（土師皿） 常滑産甕、捏鉢 瀬戸、美濃産　天目茶椀、擂鉢 中国産青磁碗 弥生時代　高杯 壷棺

関連文献

No.	98	遺跡名	殿村古墳群	所在地	津市殿村字井尻
調査原因	老人保健施設建設	事業主体	社会福祉法人ウェルフェア	調査機関	殿村古墳発掘調査団
調査期間	H 2.5.6 ～ 7.10	調査面積	約850㎡	担当者	山口　格・米山　浩之

遺　跡　の　概　要

殿村古墳群は長谷山の東方、安濃川右岸の標高30mほどの丘陵上に立地する、前方後円墳1基を含む全6基からなる古墳群である。
今回は老人保健施設建設に伴い1・2号墳を全面調査した。
1号墳からは円筒埴輪列が確認され、5世紀後半の築造と考えられる。
2号墳は一辺の中央に陸橋をもつ、方形台状墓で、墳丘中央に木棺直葬の主体的を検出した。
また、弥生時代の土坑、中世墓も検出した。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
殿村　1号墳	前方後円墳	全長　28m（推定） 後円部径　18m 前方部長　11m	不明	円筒埴輪 形象埴輪（人、鳥） 須恵器（蓋杯・甕） 土師器（ミニチュア台付甕、高杯）	5世紀後半	後円部の約2/3が崩壊
2号墳	方形台状墓	一辺14m	木棺直葬	―	不明	

関連文献

No.	99	遺跡名	清水谷遺跡	所在地	一志郡嬉野町天花寺赤坂他
調査原因	町道小山・宮古線新設工事	事業主体	嬉野町土木課	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.6.28 ～ 11.20	調査面積	5,350㎡	担当者	和気　清章

遺　跡　の　概　要

天花寺丘陵頂部に所在する遺跡であり、周辺より縄文時代早期の遺構・弥生時代中期の遺構が確認されている馬ノ瀬遺跡や中期以降の古墳群である、赤坂古墳群・片野池古墳群・馬ノ瀬古墳群などが所在している。今回の調査地は戦前の開墾により古墳などは上面においては確認することができなかったが、開墾により削平された古墳群や縄文期の遺物が試掘により確認されたため全区域を調査対象とした。
調査地はおおまかに、3時期の遺構が確認された。縄文時代（貯蔵穴）・古墳時代（円墳3・方墳1・方墳造出1）奈良時代（掘立柱建物・土坑他）

主　な　遺　構

縄文時代】
長方形の貯蔵穴であり、辺1.5×40cmのものが2基切りあって確認された。周辺に同様な埋土である柱穴が4基確認され、貯蔵穴に伴うものであると推定される。
弥生時代】
明確に弥生時代に属すると考えられる遺構は確認されなかったが、発掘区中央部の南調査区外山林より中期の破片が確認された。本来開墾以前には弥生時代の包含層の存在の可能性がある。
古墳時代】
古墳時代の遺構としては円墳3基（12～16m）程度の周溝である。その内2基は周溝内に埴輪の小片が散在して確認された。他の遺物として土師器椀・S字甕・須恵器・鉾などである。方墳は規模については不明であるもう1基の方墳はくびれを有するものであり、造り出しを有する方墳であると推定される。

主　な　遺　物

縄文時代】
小片であるため時期の限定は出来ないが、他に石鏃・破片などが確認された。
弥生時代】
底部の破片であり、他にわずかに小片があるのみである。
古墳時代】
須恵器については、確認された古墳のものはTK23～TK47型式平行のものと考えられる。品種は杯・短頸壺・甕・甕である。埴輪はV期に属するものであるが、明瞭にB種ヨコハケが残存するものと、B種ヨコハケが欠落するものの2群に分かれる。鉾は全長32cm程度のものである。

関連文献

No.	100	遺跡名	弥五郎垣内遺跡	所在地	一志郡嬉野町釜生田字弥五郎垣内
調査原因	県営圃場整備事業	事業主体	三重県農林水産部	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.11.20 ～ 12.26	調査面積	2,100㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川左岸の河岸段丘上に位置する遺跡である。周辺の遺跡としては、釜生田遺跡井之廣遺跡・東野遺跡・天白遺跡などがある。これらの遺跡らは中世が遺跡の中心的な時期を示すものであるが、下層の遺跡より縄文時代早期に属する時期の竪穴式住居～後期までの遺構・遺物が確認されている。こうしたことから今回の調査地についても引き続き縄文時代の遺構・遺物が確認されたが、今回の調査区においては、中世を主体とする宅地割と考えられる遺構が確認された。	一辺約30m×14mで区画された方形の区画溝とその区画内で確認された、柱穴群である。これら区画内の柱穴は一辺40cmのものと径20cm程度のものの2群があるが、明確な建物には柱穴のみではまとまらない。 この区画内は他の遺構としては、土坑などがある。 区画溝は南西部の溝においては約2.0m幅で平行に流れる溝により構成される。 この区画帯から南西部にやや内湾しながら幅60cmの溝が2条平行して流れる。これら溝により画される部分は幅1.5m程度である。これらを含めた調査区南部では遺構密度はやや低くなる傾向であるが、中世以外の遺構なども確認された。古墳時代後期（竪穴式住居2棟）縄文時代後期（集石土坑6基）鎌倉時代（井戸1基）江戸時代（井戸1基）時期不明（集石方形土坑1基）であり、江戸時代の井戸は掘り方部内遺物と井戸底内の遺物にやや時期差があり、基本的な井戸の形態などからは鎌倉期の井戸と同様の形態を示すものであり、江戸期に再利用の可能性も残す。	中世に属する遺物 】 伊勢型鍋・口縁部が屈曲し立ち上がるものであり体部はやや扁平な球体を呈するものであり、外面は粗いハケによる。 土師皿・口径10cm未満の薄手での皿である。口縁部はやや内湾する全体にナデによる調整が施されるが底部調整は甘く、凹凸が残る。 各溝遺構より相当数の鍋破片が大量に出土した。 古代～中世遺物 】 無高台の黒色土器A類 古墳時代 】 坏・蓋類（6世紀末） 縄文時代 】 中期末～後期に属すると考えられる遺物である。

関連文献

No.	101	遺跡名	野田遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字野田
調査原因	宅地造成	事業主体	七福林材株式会社	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 3.3.10 ～	調査面積	1,400㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川右岸における低湿地の遺跡である。 周辺には西山古墳など遺跡が所在する地帯であるが、現状においては周辺の遺跡の状況については不明である。 今回の調査区においては、縄文時代晩期～中世（鎌倉後期）にかけての流水路が確認された流水路の幅約30mである。	自然流水路 】 幅30m・深さ1m 溝2条 】 幅50cm・深さ30cm 幅1m・深さ30cm その他 】 40cm程度の柱穴 現在調査中のため群細については不明である。	縄文時代 】 1条の凸帯を有する破片であり。凸帯部には貝殻による施紋が施される。 石鏃 古墳時代 】 須恵器・坏蓋など 土師器 奈良時代 】 土師器椀 中世 】 鎌倉を主とする山茶碗

関連文献

No.	102	遺跡名	天白遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字釜生田
調査原因	工場建設	事業主体	正田醤油株式会社	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.5.20	調査面積	9 6 ㎡	担 当 者	和気　清章

遺　跡　の　概　要	主　な　遺　構	主　な　遺　物
中村川右岸部に位置する遺跡であり、周辺部においては縄文時代の遺物の散布が知られている。 幅２ｍのトレンチを十字に設定を行ない調査を行なった。 層位は基本的に砂が主体であり、現代の流路が確認され、縄文時代に属する遺構遺物は確認されなかった。 天白遺跡の中心は、西に広がるところで段丘になることからその部分が遺跡の中心であると考えられる。	現代流水路	流水路中より大理石タイル

関連文献	

No.	103	遺跡名	小村遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字小村
調査原因	町道小村線改良工事	事業主体	嬉野町土木課	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.11.15 ～ 11.16	調査面積	1 9 2 ㎡	担 当 者	和気　清章

遺　跡　の　概　要	主　な　遺　構	主　な　遺　物
三雲町と接する低地部に所在する遺跡である。周辺部においてはわずかに遺跡の分布が認められている地帯であるが、現段階においては詳細は不明である。しかし、三雲町中の庄遺跡等のように低湿地に所在する遺跡が本来多数所在するものであると考えられる。 今回の調査は４ｍ×４ｍの試掘坑を12か所設定し調査を行なった。 遺構については確認されなかったが古墳時代の遺物包含層は明瞭に確認することができた。 こうしたことから現在の集落を含めた地域に広く遺跡が広がるものであると推定される。 遺構については不明瞭であるため、今回は盛土工事であるため工事実施とした。	確認されなかったが、流水路等の可能性は残る。	古墳時代 】 小型器台 椀 壷底部 古墳時代中期に属するものである。

関連文献	

No.	104	遺跡名	針箱遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字中川字針箱
調査原因	民間アパート建設	事業主体	大成建設	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.10.5	調査面積	6 4 ㎡	担 当 者	和気　清章

遺　跡　の　概　要	主　な　遺　構	主　な　遺　物
中村川右岸の低地部に所在する遺跡であり、かって県道嬉野・飯高線建設工事による調査で縄文時代中期～後期にかけての遺構・遺物が確認された。先調査の北約300ｍ離れた部分の調査であったが今回調査においては遺構・遺物は確認することが出来なかった。 こうしたことから、針箱遺跡は狭い範囲で島状に形成された遺跡であると考えられる。 基本的層位は耕作土下に、わずかにシルト層が形成され、その下部は粗砂が広がる。こうした層位は本遺跡の北西に位置する、新新田遺跡と同様である。	確認されなかった。	確認されなかった。

関連文献	『三重県埋蔵文化財年報平成元年度』

No.	105	遺跡名	南浦遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字中川字南浦
調査原因	南浦土地区画整理	事業主体	南浦土地区画整理組合	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 3.3.26	調査面積	120㎡	担当者	和気　清章
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
中村川右岸に位置し、現況においては竹林である。周辺部において下之庄東方遺跡が存在することから遺跡の広がりの可能性があるために試掘調査を行なったが、遺構・遺物ともに確認された。 堆積層は腐食土下に黒ボク・黄褐色土の安定した土壌が認めることができるものである。 今後の調査において、下之庄東方遺跡の遺跡の広がりについては、再度検討する必要性がある。			溝・土坑・竪穴式住居		弥生土器片 石包丁・中世土器
関連文献					

No.	106	遺跡名	下之庄東方遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字下之庄
調査原因	牛乳試験場建設	事業主体	三重県酪農連合会	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.11.5 ～ 11.22	調査面積	300㎡	担当者	和気　清章
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
中村川右岸における河岸段丘上に位置する遺跡であり、新出遺跡との境界に位置する。周辺には嬉野廃寺・上野廃寺等の歴史時代を中心とした遺跡が所在する。 今回の調査区においては溝6条・土坑・竪穴式住居2棟等が確認された。			古墳時代 】 竪穴式住居・一辺3m方形であり、かまど等は伴わない。 鎌倉時代 】 主に溝がこの時期の主をしめるものであり、幅50cm程度で東西に蛇行するものである。		古墳時代 】 須恵器・坏蓋・高坏 土師器 鎌倉時代 山茶碗 常滑甕 瓦
関連文献	三重県教育委員会『下之庄東方遺跡概報Ⅰ・Ⅱ』				

No.	107	遺跡名	下之庄遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字下之庄
調査原因	自治会公開所建設	事業主体	下之庄自治会	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 2.11.29	調査面積	32㎡	担当者	和気　清章
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
昭和F3年に県営圃場整備事業に伴う形で調査された地域の周辺部である。 4m×4mの試掘坑を2か所設定を行なったが、今回の試掘坑においては遺構については確認されなかったが、遺物については近代～現代にかけての陶磁器が確認された。			なし		染め付け等
関連文献					

No.	108	遺跡名	上尾土遺跡群	所在地	一志郡嬉野町大字滝之川
調査原因	ゴルフ場建設	事業主体	三栄開発	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 3.2.17 ～	調査面積	300㎡	担当者	和気　清章
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
中村川左岸の丘陵・及び谷筋に形成される遺跡群であり。丘陵上には奈良時代の瓦窯跡が存在し、その窯跡群の下段の水田地においては、中世の遺物散布地が平成2年度の分布調査において確認されたことより、今回は各水田地に対して直行する形でのトレンチの設定を行ない調査を行った。今回の調査地においては、窯跡群に関する工房遺構および灰原層の広がりを主に確認行なったが、水田地帯においては関連遺構については確認することができず今後の本調査において、総合的な検討を有する。			溝、土坑等		奈良時代 】 須恵器坏 鎌倉時代 】 伊勢型鍋 土師器皿
関連文献					

No.	109	遺跡名	権現前遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字権現前
調査原因	ふるさと館建設	事業主体	嬉野町企画課	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H 3.2.12 ～ 2.15	調査面積	112㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
県道松阪久居線の西に位置する山林部である。 周辺部にはミツコベ古墳や高くね遺跡等が所在する地域であり、一志郡史等にはこの一帯に弥生時代の遺物散布が見られたとされているが、今回の試掘坑においては、遺構は確認されなかった。 しかし試掘坑一部には多痕紋系土器が試掘坑の層間において確認されたが遺構については確認されなかった。周辺地域の堆積層においては黒ボクの下層に黄褐色土が形成されているのに対して今回の調査地においては黒ボクの欠落が認められることから、開墾等により遺構面が削平されたものであると考えられる。	なし	条痕紋系土器 体部はやや粗い条痕紋が施されるものである

関連文献

No.	110	遺跡名	斑光寺（ぶんこうじ）跡（二次調査）	所在地	一志郡一志町八太字中野
調査原因	団体営圃場整備事業	事業主体	一志町環境改善課	調査機関	一志町教育委員会
調査期間	H 2.11.19 ～ 12.7	調査面積	約200㎡	担当者	伊勢野久好

遺跡の概要	主な遺構	主な建物
前年度に範囲確認調査を実施し、寺跡推定範囲約30,000㎡は全域、盛土保存した。 しかし、端部付近の狭少な範囲のために多量な盛土を確保するのは困難との見地から今年度部分的に本調査することとなった。 調査区は寺域の西端付近にあたる。調査の結果、鎌倉時代とみられる方形に巡る溝3条と少数の柱穴が検出されたにとどまり、遺物も少量であった。また古瓦の出土も全くみられないことから寺域は調査区まで及ばないらしい。	中世…区画溝3 柱穴	土師器、山茶椀、土錘等

関連文献

No.	111	遺跡名	ヒジリ谷・薬師谷古墳群	所在地	一志郡一志町小山・八太
調査原因	ゴルフ場造成	事業主体	丸二㈱	調査機関	一志町教育委員会
調査期間	H 1.12.20～H 2.5.31 H 3. 1.10～	調査面積	3,200㎡以上	担当者	伊勢野久好

遺跡の概要

薬師谷古墳群
前年度からの一部中断を含む継続調査、延長160m、幅20m弱の狭長な尾根上に古墳7基（新発見4基を含む）が、また谷筋には石切場跡（採石場、加工場等）が築かれている。このうち古墳群についてはすべて横穴式石室であり、2～3基がひとつのグループをなすかの様に偏在している。
1号墳は、天井部が残る良好な右片袖の横穴式石室で袖側の側壁にのみ持ち送りが認められる。框石を境として玄室床面が約20cm程羨道部より低くなることから、竪穴系横口式石室の影響を受けた石室とみられ、雲出川流域では初見となろう。時期は出土須恵器から6世紀中葉に比定される。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
薬師谷　1号墳 （旧称15号墳）	不整円形	直径約10m	横穴式石室 玄室幅1.3～1.1m 長さ2.7m 羨道幅0.7m 長2.5m	須恵器　杯身 土師器　短頸壺 ガラス玉約40点 耳環 骨片	6c中	閉塞石完存
同　2号墳 （新発見）	不整円形	直径約10m	横穴式石室	調査中		

関連文献

No.	112	遺跡名	高寺遺跡	所在地	一志郡一志町高野字高寺
調査原因	県道一志出家線改良工事	事業主体	久居土木事務所	調査機関	一志町教育委員会
調査期間	H 2.7.9 ～ 11.10	調査面積	約1,000㎡	担当者	伊勢野久好

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
高寺遺跡は、雲出川右岸の河岸段丘上に位置しており、ナイフ型石器以降～現在までつながる著名な複合遺跡である。 ここを南北に走る県道の拡張工事が実施されることになり拡張部分と既設道路下の調査を行った。 このうち、拡張部分については表土下に良好な遺物包含層が残り、各時代の遺物が出土したほかその直下では奈良時代を中心とする遺構が検出された。特筆すべきは、段丘北端部の柱穴内より、風招とみられる銅板が丸めて埋納されていたことである。 当遺跡内には高寺廃寺が近接しており、その寺跡との関係が注目される。	縄文晩期 合口甕棺 1 古墳時代 掘立柱建物 1 奈良時代 竪穴住居 5 土坑	縄文土器 後・晩期 弥生土器 中期（Ⅲ～Ⅳ） 石鏃、石刀、石包丁 古墳時代 土師器（高杯・壷・甕） 奈良時代 土師器（杯・皿） 須恵器（杯・甕） 古瓦 風招

関連文献	吉村利男「原始・古代の一志町」『一志町史』

No.	113	遺跡名	口南戸古墳（くちなんど）	所在地	松阪市立野町口南戸
調査原因	団地造成	事業主体	倉口建設	調査機関	松阪市教育委員会
調査期間	H 2.4.25 ～ 7.3	調査面積	400㎡	担当者	福田　昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
南北20m・東西16mの円墳である。標高63.8mの独立した丘陵に位置し、周溝が尾根側を除く地域で確認できるが大きく崩れている。墳丘は裾より北東で2.5m、南西で1.0mあり急斜面が4分の3をしめ腰高の感がする。墳丘中央部には、古墳を分断する幅6m、深さ2.5mの盗掘溝があり、その他至る所に盗掘坑があり主体部はなし。 尾根を切るように円筒埴輪列が一直線に並んでいた。その他葺石も見つかっている5世紀後半か。	主体部は盗掘によってなし。 円筒埴輪列17本確認葺石がある。	須恵器（高杯・子持台付有蓋壷？破片） 土師器（短頸壷） 円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪・形象埴輪片

関連文献	

No.	114	遺跡名	湧早崎遺跡（ゆはやざき）	所在地	松阪市大津町湧早崎
調査原因	宅地造成	事業主体	三重エステート	調査機関	松阪市教育委員会
調査期間	H 2.10.1 H 3.1.16～1.19	調査面積	250㎡	担当者	福田　昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
以前、弥生時代中期の遺物が発見され遺跡として市史に載っており試掘の結果、住居跡も見つかった。一部調査したが溝1条・土坑が見つかり詳細な調査は次年度へ送ることにした。	住居跡 溝　1条 土坑　など	把手付水差・須恵器 （杯、杯蓋、高杯）など

関連文献	松阪市史　第2巻　史料篇　考古

No.	115	遺跡名	松阪城跡	所在地	松阪市殿町1536外
調査原因	学術調査	事業主体	松阪市	調査機関	松阪市
調査期間	H2.8.9～3.15	調査面積	1,400㎡	担当者	福田　昭・西田　尚史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
松阪城は、天正16年（1588）蒲生氏郷の築城になる平山城である。北東を大手、南東を搦手とし、本丸、二の丸、三の丸、出丸等よりなる。本丸、二の丸には高い石垣が築かれ、現在も威厳を誇っている。三の丸の周囲には、土居と水掘を巡らせていたが、水掘は明治初期に埋められ、現在では神道川等にその名残をとどめているにすぎない。 今年度の第2次調査は、本丸にあった上水道の配水池の撤去に伴い、池跡及びその周辺について実施することとなった。この場所は、"正保の絵図"に描かれている兵部屋敷が建てられていた区域である。兵部屋敷は三代目の城主・古田重勝によって建てられたとされている。 しかし、配水池は遺構面よりもさらに1.4m深く掘りこまれており、遺構及び遺物は全く検出することができなかった。調査は池の周辺を中心に行った。	○石垣 ・敵見－西側多聞－北側多聞の三方内側 全長約74m 高さ1.6m ○溝 ・西多聞の石垣に沿う石組排水溝（北側多聞下は暗渠となり石垣を貫く） ・屋敷南方に数条の痕跡あり ○礎石 ・北側多聞 （10間分検出） ・兵部屋敷（主屋か） ○その他 ・北側多聞に至る石積階段 ・石畳（一部）	○瓦 ・一部に金箔が残る鬼瓦や軒平瓦 ・文字や刻印のある瓦 ・土のう袋500余の瓦 ○土器 ・土師器の灯明皿 ・天目茶椀 ○釘

関連文献
・三重県指定史跡　松阪城跡　発掘調査概報Ⅰ（1990.3） ・同　概報Ⅱ（1991.3） ・松阪殿町～伝統的建造物群保存計画策定調査報告書～ ・松阪市史　第6巻　史料篇　文化財 ・松阪市史　別巻1　松阪地図集成

No.	116	遺跡名	川ノ上遺跡（試掘）	所在地	飯南郡飯高町宮前字川ノ上
調査原因	工場誘致	事業主体	飯高町	調査機関	飯高町教育委員会
調査期間	H2.8.24～8.26	調査面積	112㎡	担当者	奥　義次

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
飯高町役場西方約600m櫛田川左岸の段丘上に位置する。地目はほとんどが茶園、他は山林、荒地。 周知の遺跡ではないが分布調査により、石鏃、剥片、土師器片等微量を確認。川沿いに計6カ所の試掘区を設定し、調査をした。 このうち5カ所では耕作土層下に砂礫層があり、遺構、遺物は全く認められなかった。残る1カ所では耕作土層下部からその下の砂質土にかけて剥片少量を比較的集中して確認したため、周囲に拡張調査をした。その結果、押型文土器（神宮寺式）微量、剥片少量を散点的に認めたが、遺構は確認できなかった。	なし	縄文早期 押型文土器 （神宮寺式） 剥片少量

関連文献

No.	117	遺跡名	河田（こうだ）古墳群	所在地	多気郡多気町河田
調査原因	土砂採取のため	事業主体	㈲鈴木建材	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H 2.7.2 ～ 8.31	調査面積	１００㎡	担当者	中里　守・江尻　健

遺跡の概要

河田古墳群は、かつて10支群100基以上の古墳を数える一大群集墳であったが、昭和48年度以降、土砂採取のため次第に姿を消し、今では２支群10数基を残すのみとなった。今回Ｅ支群も土砂採取のために消滅することになり、２年計画で６基を発掘調査することになり、今年度はその１年目で６号墳を調査した。調査の結果主体部は木棺直葬で直径約0.8ｍ、長さ約4.5ｍの木棺を使用し、２遺体を同方向に直列に埋葬していた。出土した歯の鑑定の結果、１遺体は30歳前後の体のがっしりした成人であることがわかった。

古墳名	墳形	規模（ｍ）	主体部	出土遺物	時期	備考
Ｅ支群　６号墳	円墳	直径約15ｍ	掘り方は縦約５ｍ、横約２ｍ、深さ約２ｍで木棺直葬。木棺の大きさは直径約0.8ｍ長さ約4.5ｍ遺体は２遺体分で、頭を同方向に向けた直列埋葬。	土師器椀 須恵器（高杯、杯身、杯蓋、俵瓶）鉄製刀子、鉄鏃、金銅製空玉、水晶製切子玉、めのう製勾玉、人骨	７世紀初頭	未盗掘

関連文献　河田古墳群発掘調査報告Ⅰ、Ⅲ

No.	118	遺跡名	戸峯（とみね）A遺跡	所在地	明和町大字池村字戸峯
調査原因	残土置き	事業主体	㈲大橋淡水魚養殖場	調査機関	明和町教育委員会
調査期間	H 2.6.25 ～H 3.2.21	調査面積	7,０００㎡	担当者	中野　敦夫

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は、県道鳥羽・松阪線南方、玉城丘陵北側中央部にある標高42ｍの丘陵から北へ張り出す斜面に位置する。南は、昨年から調査している戸峯古墳群がある。 ６月、事業地に16カ所の試掘坑を設定し調査した結果、13カ所において遺構・遺物が確認され、事業地を全面調査することにした。 調査の結果、奈良時代の土器焼成坑を75基検出し、いままで不明であった形態・構造や施設などを検討する上で多くの資料を得た。	土器焼成坑　75基 井戸　４基 竪穴住居　12 溝　14 土坑　５	土師器（皿、椀、甕、鍋、カマド、杯、鉢、甑、高杯） 須恵器（杯、壷） 井戸枠、曲物 土馬

関連文献

No.	119	遺跡名	戸峯古墳群	所在地	明和町大字池村字戸峯
調査原因	山土採取	事業主体	国庫補助事業	調査機関	明和町教育委員会
調査期間	H 2.5.11～ 6. 2 H 3.2.26～ 3.28	調査面積	５００㎡	担当者	中野　敦夫

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は、県道鳥羽・松阪線南方、玉城丘陵北側中央部にある標高42ｍの丘陵にあり、東池村集落の北東端に位置し、３ケ年事業の最終年度にあたる。本年度は、９号墳の主体部を調査と昨年の調査で排土を置いた場所に、奈良時代の遺構が広がることが確認されたため、重機で排土および表土を除去し調査した。 検出した主な遺構は、竪穴住居３戸、土器焼成坑14基、土坑１、溝１があり、６号墳の西側の周溝と新たに古墳の周溝２基を検出した。10号墳は方墳、11号墳は円墳であるが、いずれも奈良時代に削平されたと考えられる。また、11号墳の中央から石材が２個と石の抜き取り跡があり、主体部は0.65×1.5ｍの小石室であったと考えられる。	土器焼成坑　14基 竪穴住居　３戸 土坑　１ 溝　１	弥生土器片 土師器各器種多 須恵器（杯） 土馬

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
9号墳	円墳	16×18	木棺直葬 2	鉄刀、鉄鏃、須恵器、土師器	6C後	
10号墳	方墳	10×8以上	—	—	—	墳丘削平
11号墳	円墳	5×5	小石室 1	—	—	〃

関連文献

No.	120	遺跡名	掛橋（かけはし）遺跡（K地点）	所在地	度会郡小俣町本町1122、1122-1
調査原因	住宅地開発	事業主体	株式会社 丸八	調査機関	小俣町教育委員会
調査期間	H3.1.10～2.17	調査面積	1,920㎡	担当者	御村 精治・山崎富三郎

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺跡は、宮川下流左岸の洪積台地東縁部に立地し、近隣一帯は弥生時代以降の良好な遺跡が連続して存在する。本遺跡もその範疇にある。 遺跡の現況は、公園であり、公園の造成による攪乱がかなりの範囲で認められ、出土遺物量や遺構検出に影響を及ぼしていた。	（遺構検出は、Ⅲ層上面で行った） 方形周溝墓 掘立柱建物 土壙、溝等	弥生土器 土師器 須恵器

関連文献

No.	121	遺跡名	細尻・東沢遺跡（試掘）	所在地	度会郡玉城町大字世古字細尻ほか
調査原因	店舗造成	事業主体		調査機関	玉城町教育委員会
調査期間	H3.2.9～2.11	調査面積	160㎡	担当者	大西 素行・中西 正典

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
造成計画地内の水田全域に土師器が散布していたため、試掘調査を実施。 計画地内北辺の試掘坑2箇所で室町時代の土坑、溝を確認した。	土坑 2 溝	土師器、天目茶椀

関連文献

No.	122	遺跡名	上ノ垣外（うえのがいと）遺跡	所在地	度会郡度会町葛原字上ノ垣外
調査原因	区画整理	事業主体	度会町	調査機関	度会町遺跡調査会
調査期間	H2.4.16～10.16	調査面積	約4,000㎡	担当者	御村 精治

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川中流の左岸（町最東北部）に位置する標高18mほどの低位段丘に広がる。 古代のはじめから積極的に開墾・開発をうけた地域で、遺跡の部分もかなり削平をうけている。 時期は縄文時代早期後葉～末葉 縄文時代後期 古墳時代 平安時代～中世末	縄文時代早期 集石6基以上 縄文時代後期 竪穴住居 1棟 古墳時代前期～中期 竪穴住居 8棟以上 平安時代 前期後半土坑(1) 住居跡 若干 中世 配石土坑(1) 環状集石遺構(1) など	ナイフ形石器 有舌尖頭器 押型文土器 （高山寺式） トロトロ石器 条痕文土器 鵜ヶ島台式 茅山下層式 たたき石 磨製石斧 古式土師器 平安時代前期後半の土師器など多数

関連文献

No.	124	遺跡名	ひるご 昼河古墳群	所在地	伊勢市朝熊町字昼河
調査原因	朝熊山麓開発事業（世界祝祭博予定会場）敷地造成	事業主体	伊勢市	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H 2.8.17 ～ 12.26	調査面積	6 0 0 m²	担 当 者	岩中　淳之

遺　　跡　　の　　概　　要

五十鈴川派川右岸標高14m前後の独立丘陵の北に張り出す頂部に立地。眼下には標高 0.4 mの沖積地が広がる。これまで、対岸の二見地区の丘陵には多くの古墳（横穴式石室）や中世城館が分布していたが、右岸本地域周辺地は空白地であった。分布調査の結果20数基の古墳推定地を確認し、試掘調査の結果４基の古墳を確認するに至った。

１号墳で検出した埋葬施設は６基の木棺直葬がある。いずれも割竹形木棺を埋葬したもので両木口は黄灰色粘土で覆う特色がある。なかには両木口を石材と粘土で覆うものや、棺底に間隔をあけて石材を置く例もある。埋葬順序は、今後の整理検討を要するが概ね６世紀前半頃の時期が想定される。

２号墳は、１号墳の南東下で検出した楕円形を呈する墳丘をもつ。埋葬施設は横穴式木室で規模は

玄　室　(m)			羨　道　部　(m)			玄室部墓壙(m)	
長　さ	幅	深　さ	長　さ	幅	深　さ	長　さ	幅
4.35	1.75前後	1前後	3前後	1.9	0.8～1	5.4前後	2前後

となる。玄室内墓壙の周壁にそって幅20cm前後の溝を全周させ、そこに木材を立てて木室を構築したものと推定され、一部炭化材が残っていました。しかし玄門部の構造は特定しがたく閉塞施設は不明。玄室内はほぼ全面に礫が敷かれるが、等間隔で幅10cm、長さ1.1m前後の礫が敷かれない部分が３ケ所あり、根太木や棺台などの痕跡とも推定される。木室内は火化されており木材の一部、土器も二次焼成を受けていた。概ね７世紀中～後半頃の時期が推定される。残りの３基については平成３年度調査予定。

古　墳　名	墳　形	規模（m）	主　体　部	出　土　遺　物	時　期	備　考
昼河　1号墳	前方後円墳	後円部径 16.5 〃　高さ 1.2～2.4	後円部木棺直葬		6世紀前半頃	
			第Ⅰ主体A棺	須恵器有蓋高杯同蓋、提瓶・杯蓋・杯身・土師器椀・甕・直刀・刀子、各１。鉄鏃約50本		
			同　B棺	須恵器壷・杯蓋・台付長頸三連壷、各１。直刀２、鉄鏃約80本		
			第Ⅱ主体部	須恵器杯蓋・杯身・有蓋高杯・同蓋・小型壷、刀子、各１。鉄鏃５本		
		前方部長さ 7.2 〃　幅 8? 後円部比高 1.2	第Ⅰ主体A棺	刀子１		A・B棺は棺直上に須恵器蓋杯・高杯・土師器甕を割って撒く？
			同　B棺	刀子１		
			第Ⅱ主体部	滑石製臼玉８、碧玉製管玉12、直刀２、刀子５鉄鏃約30本、須恵器杯身１、杯蓋１		
昼河　2号墳	楕　円　形	8×13	横穴式木室	直刀１、鉄鏃５、金環１、須恵器蓋杯・短頸壷・同蓋・壷・平瓶・鉢・甕など約80点	7世紀中～後半	

関連文献

No.	125	遺跡名	こんごうしょうじ ほうむりょう ぐもんじどう 金剛証寺本堂・法務寮・求聞持堂	所在地	伊勢市朝熊町548
調査原因	金剛証寺本堂保存修理事業	事業主体	宗教法人　金剛證寺	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H 3.2.13 ～ 3.末	調査面積	800㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国指定重文である金剛証寺本堂は慶長14年、姫路城主池田輝政の造営により建立され、以降数度の補修・改築がなされ「桁行7間・梁間6間の一重寄棟造・向拝三間の桧皮葺の構造である。 今回、解体保存修理事業に伴う地盤改良に先立ち発掘調査を実施した。その目的は①現本堂礎石・床束石・基壇の測量　②慶長13年焼失前身建物の確認　③その他下層遺構の確認であった。 3月中旬の調査結果では ①現本堂に伴う鎮壇具は未検出 ②慶長13年焼失前身建物は7間×6間（8尺～10尺の柱間）の可能性のある礎石・礎石抜き取り痕跡及び基壇・縁石・雨落ち配石溝などの検出。 ③下層遺構は13世紀前後の焼土面が確認され3間×3間の可能性がある護摩堂建物を検出 その他、天明8年建立の法務寮、寛政9年建立の求聞持堂の前身建物等の下層遺構の検出を行なった。	○現本堂 ・配石配水溝 ○慶長13年焼失前身建物 ・7間×6間？（8尺～10尺の柱間）の可能性のある礎石、礎石抜き取り痕跡 ・基壇、縁石、雨落ち配石溝 ○下層遺構 ・3間×3間？の建物の礎石、礎石抜き取り痕跡 ・焼失基壇、縁石、配石溝 ○法務寮 ・前身建物の礎石、礎石抜き取り痕跡、配石溝 ○求聞持堂 ・前身建物等下層遺構なし	・近世陶磁器 ・近世土師器（鍋・皿・小皿） ・渡来銭（開元通宝、紹聖元宝皇宋通宝、淳祐元宝、祥符通宝、大観通宝など） ・Ⅲ－4～5期併行の山皿、山茶椀、土師器皿、小皿 ・釘（中世？～近世） ・刀子 ・金銅製仏金具・石硯

関連文献

No.	126	遺跡名	西光寺窯跡	所在地	阿山郡阿山町槙山字門出
調査原因	墓地区画整理に伴う調査	事業主体	西光寺境内墓地改修委員会	調査機関	阿山町教育委員会
調査期間	H 2.7.17 ～ 7.27	調査面積	約200㎡	担当者	仁保　晋作・藤井　尚登

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
茶の湯が盛んとなった桃山時代、阿山町の槙山や丸柱では、個性の強い伊賀焼の茶陶が焼かれたとされ、西光寺本堂裏の墓地からは、昭和11年に水指しや花入れの陶片が採集されており、窯跡の存在を窺わせるものであった。調査の結果、窯体床部分の1部が検出されたが、窯体のほとんどは、江戸期の墓地造成により破壊されたと考えられ、その詳細な窯構造を知ることができなかった。しかし、窯道具の“馬のつめ”が多数出土していることから、東面する丘陵斜面を利用して築かれた窖窯形式の窯であったと推測される。 出土した水指しや花入れの陶片には、ヘラ描きやスタンプ状の紋様が施される。また、擂鉢の破片は、いずれも無釉でスリ目が密に施され、信楽窯編年の16世紀末から17世紀初頭に比定されると考えられる。 江戸時代に書かれた『三国地志』には、伊賀国領主筒井定次が焼かせたという「槙山窯」の記載があり、それとの関係が注目される。	長さ約2.5m、幅1.8mの窯体床部、灰原	伊賀焼の水指し、花入れ、灰釉四耳壺、鉢、擂鉢の破片、窯道具の“馬のつめ”陶板、焼台など

関連文献　桂又三郎『伊賀焼通史』1968、河原正彦『日本の美術6 No.169 信楽と伊賀』1980、林屋晴三『日本の陶磁、伊賀、信楽、丹波』1988、満岡忠成『日本陶磁体系8 信楽、伊賀』1989

No.	127	遺跡名	久米山古墳群（39号墳、48号墳）	所在地	上野市守田町字奥北谷地内
調査原因	宅地造成	事業主体	株式会社加藤産業	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H 2.6.11 ～ 7.30	調査面積	400㎡	担当者	山岡　裕

遺跡の概要

久米山古墳群は、上野市街地の南方、標高約200ｍの久米山丘陵に所在するおよそ60基の古墳から形成されている。過去、名阪国道建設、住宅団地造成のため、古墳の発掘調査、分布調査が行われ、さらに今回、事業地内で現状保存が不可能とされた２基（No.39、No.48）について緊急発掘調査を行った。

今回の調査で、39号墳は竪穴式石室をもつ円墳で、48号墳は自然地形であることが確認されたが、この39号墳も既に天井石や東壁を構成していた石は無く、南北側壁を構成している石も１～２段石が積まれているのみであることから、盗掘による破壊を受けているものと考えられる。

39号墳の規模は、墳丘の直径約11ｍ、高さ約1.2ｍの円墳で、南北には尾根を切るように三日月状の周溝が検出された。築造された時期は、出土遺物の器種形態から６世紀前半頃と思われる。

古墳名	墳形	規模（ｍ）	主体部	出土遺物	時期	備考
久米山39号墳	円	直径約11ｍ 高さ約1.2ｍ	東西方向に１基 竪穴式石室 長軸約2.1ｍ 短軸　0.9ｍ 高さ（深さ） 約１ｍ（推定）	石室内より 須恵器杯身 杯蓋 提瓶 刀子 鉄鏃 石室外墳丘上より 須恵器杯身 杯蓋 土師器片	6世紀前半 6世紀前半	・南北に三日月状の周溝あり ・天井石や側壁を構成していた石が一部無いことから、盗掘による破壊を受けていると思われる

関連文献

No.	128	遺跡名	きたかど 北門遺跡	所在地	上野市大谷字北門
調査原因	宅地造成事業	事業主体	個人	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H 2.6.20 ～ 8.30	調査面積	700㎡	担当者	豊岡　勇

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川右岸の標高約147ｍの河岸段丘上に位置し、現況は田である。	古墳時代前期の溝１条 奈良時代の掘立柱建物跡２棟 平安時代の掘立柱建物跡７棟 鎌倉時代の掘立柱建物跡３棟 鎌倉時代の溝１条・井戸跡（水溜め跡）３基	台付壷、高杯 須恵器杯身 黒色土器椀 瓦器椀・皿 青白磁椀 瓦質土器鍋

関連文献

No.	129	遺跡名	西明寺遺跡	所在地	上野市西明寺3208番地
調査原因	工場建設	事業主体	片山鉄工株式会社	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H 2.7.11 ～ 7.20	調査面積	約400㎡	担当者	前川依久雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
事業地が、国史跡伊賀国分寺跡の西隣接地にあたるため、約４ｍ×４ｍの試掘坑６ケ所と、幅1.5ｍのトレンチ６本（総延長200ｍ）を掘削し、遺跡の範囲確認調査を行った。 調査地の南部では遺構と断定できるものはなく、中央部から北部においても、遺構の残存状況は良好でなく、遺構密度が低い。後世の開墾等により、大部分が削平された可能性が大きいと考えられる。	穴（ｐｉｔ）、小溝	土師器片 須恵器片 黒色土器片 布目瓦片

関連文献　「西明寺遺跡発掘調査報告」1981年３月、1982年３月、1983年３月上野市教育委員会

No.	130	遺跡名	上野市新都市開発整備事業地内遺跡群	所在地	上野市下友生・中友生・依那具・市部地内
調査原因	上野新都市開発整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H 2.4.16 ～H 3.2.27	調査面積	12,600 m²	担当者	上野市教育委員会 上野市遺跡調査会職員

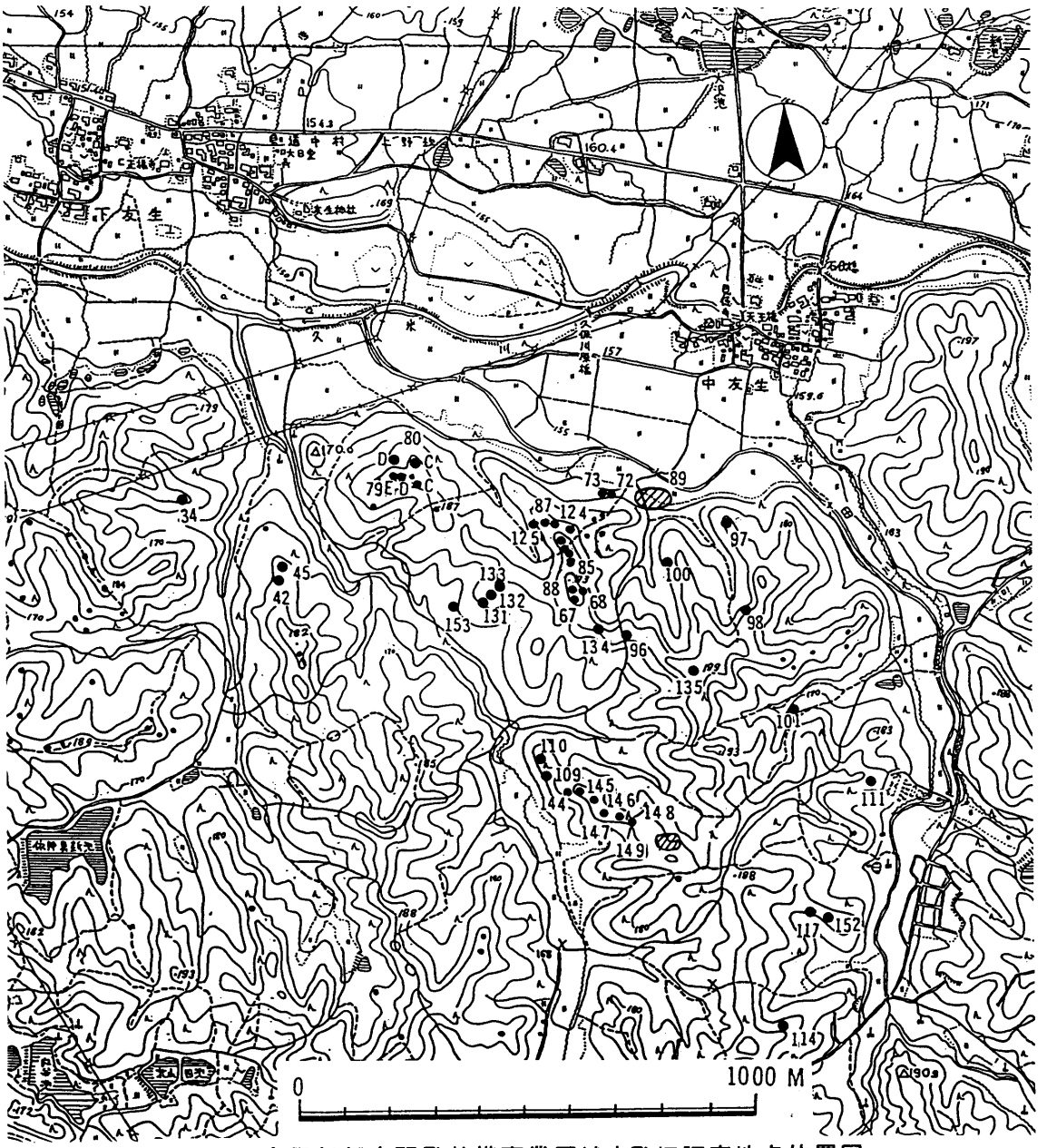
遺　跡　の　概　要

上野新都市関発整備事業地内遺跡群は、上野市街地の南東に位置する低平な丘陵に所在する遺跡群である。昨年度に引続き、事業予定地250 ha内に所在する44箇所について1990年4月16日より1991年2月27日まで試掘調査を含む発掘調査を実施した。本年度も昨年度同様に、多くは当初古墳として把握されていたものであったが、古墳と検出されたのは新規に試掘調査などによって確認された2か所である。

他の地点では土砂の流出もあってか古墳であったとは確認されない状態にあった。何らかの痕跡、少量の遺物を包含する状態を含める21個所で遺構・遺物等を確認し、他23個所では遺構・遺物は全く確認することは出来なかった。各発掘調査地点における概要は次のとおりである。

なお、遺跡名については発掘調査終了後に一括整理して命名する予定である。

関連文献	上野市教育委員会・上野市遺跡調査会 1986「上野新都市開発構想地域埋蔵文化財分布調査報告書」 同　1987「上野新都市開発構想区域埋蔵文化財範囲確認調査報告書」



第3図　上野新都市開発整備事業区域内発掘調査地点位置図

No.	遺跡名	No.34地点仮称鳶ケ谷11号墳		所在地	上野市下友生鳶ケ谷
調査期間	H 2.10.22 ～ 11.8	調査面積	380㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高170m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば径約10m、高さ約0.6 mの円墳が想定されていたが、埋葬主体や周湟等は発見されなかった。			な　し		な　し
関連文献					

No.	遺跡名	No.42地点仮称深川谷2号墳		所在地	上野市依那具深川谷
調査期間	H 2.11.16 ～ 12.20	調査面積	370㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高175m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば径約10m、高さ約1mの円墳が想定されていたが、埋葬主体や周湟等は発見されなかった。			な　し		な　し
関連文献					

No.	遺跡名	No.42地点仮称深川谷1号墳（No.17.18.19地点を含む）		所在地	上野市依那具深川谷（No.17.18.19地点依那具源鳥）
調査期間	H 2.11.16 ～H 3.2.27	調査面積	540㎡ 内No.45(280㎡) No.17(60㎡) No.18(65㎡) No.19(135㎡)	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高172m前後を測る丘陵尾根上に位置する。緩斜面上で確認された包含層からは縄文土器片、石鏃、土師器片、瓦器片等が出土した。包含層直下からは、ピットや土坑が発見されている。また、近接するNo.17.18.19を調査したところ、縄文土器片、石鏃、須恵器片、土師器片等の遺物やピット等の遺構が発見された。No.17.18.19の本格的な調査は来年度に実施する。			No.45 ピット・土坑 No.17な　し No.18な　し No.19ピット		No.45　縄文土器片・石鏃・砥石・サヌカイト片・土師器片・瓦器片 No.17　サヌカイト片 No.18　石鏃・サヌカイト片 No.19　石鏃・サヌカイト片・縄文土器片・土師器片・須恵器片
関連文献					

No.	遺跡名	No.67地点仮称西場谷15号墳		所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.4 ～ 5	調査面積	750㎡	担当者	野原　宏司．福森　正晃
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高193m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば直径約16m、高さ約2mの規模をもつ円墳が想定されたが、埋葬主体及び周湟等は検出されなかった。			な　し		な　し
関連文献					

No.	遺跡名	No.68地点仮称西場谷14号墳		所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.4.25 ～ 7.18	調査面積	500㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高186m前後を測る丘陵尾根上に位置する。緩斜面上に包含層を二層確認した。上層からは瓦器片、下層からは縄文土器片、たたき石、サヌカイト片、土師器片が各々出土した。縄文時代から中世にかけての複合遺跡と考えられる。			ピット 土坑		縄文土器片・たたき石・サヌカイト片・土師器片・瓦器片
関連文献					

No.		遺跡名	No.72地点仮称西場谷２号墳	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.12 ～H 3.1	調査面積	３００㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高160ｍ前後を測る丘陵先端部に２基並んで見える古墳の東側に位置する。分布調査によれば、直径７ｍ、高さ0.８ｍの独立した円墳が想定された。調査の結果、直径約12ｍ、高さ約1.５ｍのひとつの盛土であることが確認されたが、埋葬主体や周溝等は検出されず、時期も不明である。	盛　土	な　し

関連文献

No.		遺跡名	No.73地点仮称西場谷１号墳	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.12 ～H 3.1	調査面積	３００㎡	担当者	野原　宏司、福森　正晃

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
No.721地点の西隣に位置し、直径約６ｍ高さ1.２ｍの独立した円墳が想定された。直径約12ｍ、高さ約1.５ｍのひとつの盛土であることが確認されたが、埋葬主体や周溝等は検出されず、時期も不明である。	盛　土	な　し

関連文献

No.		遺跡名	No.79－Ｄ地点、仮称奥小波田４号墳	所在地	上野市下友生奥小波田
調査期間	H 2.7.11 ～H 3.2.27	調査面積	1,０００㎡	担当者	山本　雅靖、深江　英憲

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高184ｍ前後の緩やかな谷地形上に位置する。調査は隣接する80－Ｄを拡張する形で進められ、遺物も下層出土の縄文土器以外は土師器・須恵器・瓦器・サヌカイト片・石鏃とほぼ同様である。遺構は、土坑ピット状遺構の他、79－Ａ古墳に続くと思われる墓道状遺構が検出された。	土坑 ピット状遺構 墓道状遺構	縄文土器片・土師器片・須恵器片・瓦器片・サヌカイト片・石鏃

関連文献

No.		遺跡名	No.79－Ｅ地点仮称奥小波田４号墳	所在地	上野市下友生奥小波田
調査期間	H 2.10.25 ～H 3.2.6	調査面積	８００㎡	担当者	山本　雅靖・深江　英憲

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高180ｍ前後を測る丘陵尾根から北向き斜面部にかけて位置する。縄文時代以降古墳時代、奈良時代から中世・近世にかけての遺物が検出されたが、遺構は時期不明の柱穴群等わずかである。まとまった遺構としては近代以前に形成されたと考えられる亜炭露天採掘の跡が東西16ｍ、南北11ｍの範囲で検出した。	柱穴群 亜炭露天採掘跡	須恵器（杯蓋身） 土師器（碗） 古銭（神功開寶）・瓦器・陶器

関連文献

No.		遺跡名	No.80－Ｄ地点仮称奥小波田５号墳	所在地	上野市下友生奥小波田
調査期間	H 2.6.11 ～ 9.12	調査面積	７００㎡	担当者	山本　雅靖・深江　英憲

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
80－Ａ古墳の西側および南側に接する斜面部に位置する。80－Ａ古墳等に登る墓道及び80－Ａ古墳墓前祭祀等の遺構および多数の遺物が検出された。この他、近世・近代の柱穴群・土坑等も検出した。	墓道・土坑 柱穴群・溝 方形落ち込み	陶磁器・瓦・須恵器（多数）・土師器・黒色土器・瓦器・搔器・石鏃・サヌカイト片

関連文献

No.		遺跡名	No.85地点仮称西場谷7号墳	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.4.17 ～ 7.12	調査面積	800㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高188m前後を測る丘陵尾根上に位置する。縄文時代以降鎌倉時代にかけて各時代短期間に形成された遺跡と考えられる。		ピット 土坑		石鏃・サヌカイト片 土師器片・瓦器片	
関連文献					

No.		遺跡名	No.87地点仮称中友生樋之谷1号墳	所在地	上野市中友生樋之谷
調査期間	H 2.7.20 ～ 8.20	調査面積	650㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高185m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば、径約8m、高さ約1mの規模をもつ円墳と想定されていたが、埋葬主体及び周溝等は発見されなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.88地点仮称西場谷13号墳	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 3.4.19 ～ 5.29	調査面積	400㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高190m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば、径約6m、高さ約0.5mの規模をもつ円墳と想定されていたが、埋葬主体や周溝等は発見されなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.89地点仮称西場谷A遺跡	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.12 ～H 3.1.	調査面積	700㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
調査前の現状では、渋田川の改修で遺跡の約半分はすでに消滅したと考えられた。水田部分では、須恵器・土師器・瓦器を伴う遺物包含層を確認したが、遺構は検出されず、旧河川による堆積層と考えられた。台地部分では、表土下で五輪塔が出土したが、遺構は検出されなかった。		な　し		須恵器片 土師器片 瓦器片 陶磁器片 石造物（舟形五輪塔）	
関連文献					

No.		遺跡名	No.96地点仮称羽根川9号墳	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 2.5. ～ 6	調査面積	700㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高187前後を測る丘陵尾根上に位置し、墳丘状の高まりが2ケ所見られた。調査前において、直径8～10m、高さ1.5mの古墳が想定された。調査の結果、埋葬主体及び周溝等は確認されなかったが、西側の緩斜面において、薄い遺物包含層を確認した。		な　し		土師器片 炭化物片	
関連文献					

No.		遺跡名	No.97地点仮称東場谷1号墳	所在地	上野市中友生東場谷
調査期間	H 2.8.～9	調査面積	450㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高184m前後の丘陵先端部に位置する。分布調査によれば直径13m、高さ1mの規模をもつ古墳が想定された。封土の流出が著しく、埋葬主体や周湟等は検出されなかったが、斜面裾部で中世の土器片を確認した。		な　し		土師器片 陶器片	
関連文献					

No.		遺跡名	No.98地点仮称東場谷2号墳	所在地	上野市中友生東場谷
調査期間	H 2.9～10	調査面積	200㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高189m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば、直径8m、高さ1mの円墳が想定されたが、埋葬主体や周湟等は検出されなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.100地点仮称西場谷16号墳	所在地	上野市中友生西場谷
調査期間	H 2.6.～8.	調査面積	750㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高171m前後を測る丘陵部に位置し、範囲確認調査で東西7m、南北9m、高さ2.7mの盛土を覆う墳丘状の高まりが確認された。本調査の結果、盛土の範囲は東側で周湟状の溝に切られるが、それ以外では盛土の端部を裾部とすることが判明した。盛土内からは、土師器や瓦器等が出土したが、墳頂部では埋葬主体は検出されなかった。鎌倉～室町時代の墳墓（塚）が想定される。		盛　土 溝 ピット 焼土跡 土　坑		土師器片 瓦器片 石　鏃 炭化物片	
関連文献					

No.		遺跡名	No.101地点仮称片原山9号墳	所在地	上野市依那具片原山
調査期間	H 2.10.～11	調査面積	470㎡	担当者	野原　宏司、福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高175m前後を測る丘陵部に位置する。分布調査によれば、直径6m、高さ1mの独立円墳が想定された。封土の流出が著しく、埋葬主体や周湟等は確認できなかったが、北側斜面で、旧表土と考える土層が検出された。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.109地点仮称羽根川7号墳	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 3.1～2	調査面積	100㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高177m前後を測る丘陵尾根上に位置する。分布調査によれば、直径8m、高さ1.5mの古墳が想定されたが、埋葬主体や周湟等は検出されなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.110地点仮称羽根川8号墳	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 3.1 ～ 2	調査面積	150㎡	担当者	野原　宏司、福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高176m前後を測る丘陵先端部に位置する。分布調査によれば、直径8m、高さ1.5mの古墳が想定されたが、埋葬主体や周溝等は検出されなかった。		な　し		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.111地点仮称高塚1号墳	所在地	上野市市部高塚
調査期間	H 3.2.4 ～ 2.7	調査面積	50㎡	担当者	山本　雅靖・深江　英憲
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
分布調査によれば、直径約7m、高さ約1mの墳丘規模をもつ古墳と考えられたが、山腹砂防工事により段階状を呈する地形が観察された。埋葬主体及び周溝等は検出されず、遺物包含層も検出しえなかった。細い溝が1条検出された。		溝　1		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.114地点仮称高塚4号墳	所在地	上野市市部高塚
調査期間	H 3.2.8 ～ 2.14	調査面積	50㎡	担当者	山本　雅靖・深江　英憲
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
分布調査によれば、直径約7m、高さ約1mの墳丘規模をもつ古墳と考えられたが、山腹砂防工場により階段状を呈する地形が観察された。埋葬主体及び周溝等は検出されず、遺物包含層も検出しえなかった。No.111地点同様に細い溝が1条検出された。		溝　1		な　し	
関連文献					

No.		遺跡名	No.117地点仮称高塚3号墳（No.152地点を含む）	所在地	上野市市部高塚
調査期間	H 3.2.7 ～ 2.13	調査面積	150㎡ No.117（50㎡） No.152（100㎡）	担当者	山本　雅靖・深江　英憲
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
分布調査によれば、直径約3m、高さ約0.5mの墳丘規模をもつ古墳と考えられたが、埋葬主体及び周溝等は検出されなかった。遺物包含層も検出しえなかった。なお近接する152地点の試掘調査では、石鏃・土師器などの遺物をはじめ包含層を確認した。152地点の本格的発掘調査は次年度に予定している。		な　し No.152地点 ピット		な　し No.152地点試掘関係 石鏃・土師器片	
関係文献					

No.		遺跡名	奥小波田古墳群	所在地	上野市下友生奥小波田
調査期間	H 2.4.16 ～ 6.14	調査面積	500㎡	担当者	山本　雅靖・深江　英憲

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
No.79－C地点 称 奥小波田4－C 号墳	円　墳	直径10m	木棺直葬	主体部 土師器 須恵器 盛土内 石鏃 墳丘裾 須恵器 （奈良時代杯蓋） 土師器 瓦器 石鏃 縄文土器	6世紀後葉	周　溝

関連文献	

No.		遺跡名	奥小波田古墳群		所在地	上野市下友生奥小波田		
調査期間	H 2.5.15 ～ 6.18	調査面積	4 0 0 ㎡		担 当 者	山本　雅靖、深江　英憲		
古　墳　名	墳　形	規模（m）	主　体　部	出 土 遺 物		時　期	備　考	
No.80－C地点 仮称 奥小波田 5－C号墳	円　墳	直径10m	木棺直葬墳？	須恵器（杯蓋身） 押型文土器 縄文土器 石鏃 サヌカイト片		6世紀後半	周　湟 縄文時代遺跡と重複 （下層に縄文時代遺構－柱穴・土坑など）	
関連文献								

No.		遺跡名	No.124 地点		所在地	上野市中友生西場谷	
調査期間	H 2.8.3 ～ 8.23	調査面積	1 2 0 ㎡		担 当 者	山口　昌直・境　　宏	
遺　跡　の　概　要			主　な　遺　構			主　な　遺　物	
標高185m前後を測る丘陵尾根上に位置する。遺構や遺物等は確認されず、墳丘状の高まりを呈する自然地形と考えられる。			な　し			な　し	
関連文献							

No.		遺跡名	No.125 地点		所在地	上野市下友生樋之谷	
調査期間	H 2.8.23 ～ 8.28	調査面積	5 0 ㎡		担 当 者	山口　昌直・境　　宏	
遺　跡　の　概　要			主　な　遺　構			主　な　遺　物	
標高約167m前後を測る丘陵尾根上に位置する。遺構や遺物等は確認されず、主尾根が突き出た箇所と考えられる。			な　し			な　し	
関連文献							

No.		遺跡名	No.131 地点		所在地	上野市依那具羽根川	
調査期間	H 2.8.29 ～ 9.5	調査面積	2 5 ㎡		担 当 者	山口　昌直・境　　宏	
遺　跡　の　概　要			主　な　遺　構			主　な　遺　物	
標高180m前後を測る丘陵尾根上に位置する。遺構や遺物等は確認されず、墳丘状の高まりを呈する自然地形と考えられる。			な　し			な　し	
関連文献							

No.		遺跡名	No.132 地点		所在地	上野市依那具羽根川	
調査期間	H 2.8.29 ～ 9.5	調査面積	2 0 ㎡		担 当 者	山口　昌直・境　　宏	
遺　跡　の　概　要			主　な　遺　構			主　な　遺　物	
標高180m前後を測る丘陵尾根上に位置する。遺構や遺物等は確認されず、墳丘状の高まりを呈する自然地形と考えられる。			な　し			な　し	
関連文献							

No.		遺跡名	No.133 地点		所在地	上野市依那具羽根川	
調査期間	H 2.8.29 ～ 9.5	調査面積	4 0 ㎡		担 当 者	山口　昌直・境　　宏	
遺　跡　の　概　要			主　な　遺　構			主　な　遺　物	
標高181m前後を測る丘陵尾根上に位置する。遺構や遺物等は確認されず、墳丘状の高まりを呈する自然地形と考えられる。			な　し			な　し	
関連文献							

No.		遺跡名	No.134 地点	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 2.4.～5.	調査面積	110㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高189m前後の丘陵尾根上に位置し、やや低い墳丘状の高まりを呈した。埋葬主体や周湟等は確認されず、自然地形による擬似墳丘と考えられた。		なし		なし	
関連文献					

No.		遺跡名	No.135 地点	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 2.8.～9.	調査面積	50㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高約196前後を測る丘陵尾根上に位置し、やや低い墳丘状の高まりを呈した。埋葬主体や周湟等は確認されなかったが、最頂部において木炭片を含む焼土跡が検出されたが遺物の出土は認められずその時期は不明である。		焼土跡		なし	
関連文献					

No.		遺跡名	No.144.145.146.147.148.149地点	所在地	上野市市部羽根川
調査期間	H 3.1.～2.	調査面積	200㎡	担当者	野原　宏司・福森　正晃
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高178～182m前後を測る南北尾根筋上に点在する。分布調査によれば、直径8～10m、高さ1m～2mの円墳が想定されたが、埋葬主体や周湟等は確認されなかった。		なし		なし	
関連文献					

No.		遺跡名	No.153 地点	所在地	上野市依那具羽根川
調査期間	H 2.8.31～9.6	調査面積	30㎡	担当者	山口　昌直・境　宏
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
標高167m前後を測る低い谷筋に位置する。黒色の堆積土が確認された。検出の結果、遺構や遺物等は発見されず、この層は旧表土と考えられる。		なし		なし	
関連文献					

No.	131	遺跡名	ひがしまち 東町遺跡	所在地	名張市東町1694番地の1
調査原因	店舗（フレックス東町店）新設事業	事業主体	フレックス株式会社	調査機関	名張市遺跡調査会
調査期間	H 2.3.22～4.12	調査面積	400㎡	担当者	門田　了三
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
調査地は、名張川の南岸、市街地により流れ込む城下（じょうげ）川の東側に位置する。標高は、188mで従来、遺跡は存在しないと考えられていた低位段丘の下面の沖積地である。調査地東端より西に向かって、地山の黄色粘土が落ち込んでおり、西端で約1m程下がる。この粘土面を覆う包含層中より5世紀末から6世紀にかけての須恵器、土師器の破片が出土する。この時期の集落が近辺にあったと考えられる。また、縄文時代の石匙も見つかっている。地上面より、幅1.5m、深さ30cmの溝が見つかり、埋土より手焙形土器が完形で出土した。名張盆地周辺の低地開発を考える上で、以前に見つかっている瀬古口西B遺跡や赤目町沢代遺跡と同様、弥生時代末から古墳時代にかけて始まったことが理解される。		古墳時代初頭　溝1条		縄文時代　石匙 古墳時代手焙形土器 甕鉢 須恵器　蓋杯 その他	
関連文献					

No. 132	遺跡名	しもがわら 下川原遺跡		所在地	名張市夏見字浅尾102番地の3ほか
調査原因	店舗（オートバックス）新設事業	事業主体	株式会社テイスティー	調査機関	名張市遺跡調査会
調査期間	H 2.4.16 ～ 6.19	調査面積	1,400㎡	担当者	門田　了三

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は、名張川南岸に位置し、名張川によって形成された微高地に立地する。標高は199mである。過去の調査で、縄文時代後期前半の竪穴住居と弥生時代中期の竪穴住居、古墳時代前期の竪穴住居、古墳時代後期の土壙墓や小石室等が見つかっている。今回の調査では、縄文時代晩期の土器棺墓が25基、竪穴住居が1棟、弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓が6基見つかった。そのほか、土壙、溝も見つかっている。包含層からは、縄文時代後期の土器片から晩期でも土器棺の時期より古い土器や、新しい土器も見つかっている。また弥生時代前期の破片もかなり包まれ、周辺には、継続的に営まれた大規模な集落が存在すると考えられる。	縄文時代晩期土器棺墓25基 （滋賀里Ⅲ期～Ⅳ期初め） 凸帯がつく個体は1点のみ 竪穴住居　1棟 弥生時代中期から後期前半 方形周溝墓　6基 溝および土壙　多数	縄文土器　後期前半晩期（滋賀里Ⅲ期～Ⅳ期）土器多数 土偶3個体 （うち、2個体は両手が欠如するのみ） 石器（打製）　多数 （磨製）石刀石斧等多数 弥生土器　前期中～後半 中期　後期

関連文献

No. 133	遺跡名	なばりとうどうけてい 名張藤堂家邸跡4次		所在地	名張市丸之内54番地
調査原因	史跡整備	事業主体	名張市	調査機関	名張市遺跡調査会
調査期間	H27.10～ 7.13 H29.13～11. 9	調査面積	410㎡	担当者	門田　了三

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
天正13年（1585）筒井定次が伊賀国守になったとき、家臣松倉右近勝重が8,000石を領して始めて此に城を築く。慶長13年（1608）藤堂高虎が伊予から伊勢伊賀に封ぜられたとき、家臣梅原勝右衛門武政がこの城を守っている。のち、高虎の養子藤堂高吉が、寛永13年（1636）伊予今治より国替えでこの古城に館を造営する。宝永7年（1710）4月14日に起こった名張の大火により屋敷は焼失する。焼失後直ちに再建が始まり、現存する幕末期作成と考えられている屋敷図は、大名屋敷の規模を伝えている。明治初年に大部分の建物が取り壊されたが、奥向き住居のみ残り、数少ない上級武家屋敷を知る資料として県指定史跡となっている。現在、老朽化により保存修理が行われている。	3時期の遺構が検出された。上層の現存建物の時期、再建藤堂邸の時期の漆喰張りの池や、焼失後4回にかけて作られた石垣が見つかり、建物の増築に伴って敷地も拡張している。 焼失前の遺構として、外周を巡る石垣が見つかった。石垣は現存高1mのゴボウ積みで、裏込めも堅固に作られる。等高線に沿う不規則な方向から、一番最初に作られた石垣であろう。つまり、松倉名張城の石垣と考えられる。	調査区北部は焼土層が厚く、その焼土中より伊万里系、唐津系、京焼き風、信楽系の陶磁器および焼けた瓦が多く出土した。焼失時の絶対年を言える貴重な遺物である。

関連文献　福井健二『三重の近世城郭』三重県教育委員会1984

Ⅲ　埋蔵文化財保護体制の充実

1. 各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化振興課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による情報交換や技術研修を目的として、本年度は次の4回を開催した。

なお、近年県及び市町村の埋蔵文化財専門担当者の数も増加し、当該会議の内容等についての要望も多様化しており、今後その充実についても検討していきたい。

開催日	場所	内容
第1回　平成2年4月23日	斎宮歴史博物館講堂	・平成2年度の事業計画について ・講演会「常滑を中心とした中世陶器」 中野晴久氏（常滑市歴史民俗資料館　学芸員）
第2回　平成2年7月6日	鈴鹿市文化会館 第1研修室	・県及び市町村の現状と課題 ・調査概要発表（スライド使用） ・現地見学（鈴鹿市内調査遺跡）
第3回　平成2年10月9日	上野市労働会館 大ホール	・研究発表 「伊勢地方における後期古墳の埋葬形態」 竹内英昭氏（三重県埋蔵文化財センター技師） ・調査概要発表（スライド使用） ・現地見学（上野市内調査遺跡ほか）
第4回　平成3年2月25日	伊勢市中央公民館	・県及び市町村の現状と課題 ・調査概要発表（スライド使用） ・平成2年度の総括と今後の方針 ・現地見学（伊勢市立郷土資料館）

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議、研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。今年度は次の会議等に参加した。

名称	内容	期日	場所	出席者
第2回 埋蔵文化財写真技術研究会	写真技術研修と交流	7月6・7日	奈良国立文化財研究所	田中　久生 江尻　健
平成2年度 全国公立埋文協　総会	平成2年度事業計画 その他	6月7・8日	岡山市	山沢　義貴 小坂　宣広
全国公立埋文協 中部・北陸ブロック会議	出土品の収蔵・保管 ブロック役員について	8月10日	三重県埋蔵文化財センター	中林　昭一 山沢　義貴 伊藤　克幸 吉水　康夫
全国公立埋文協 第3回研修会	遺跡調査におけるコンピュータ利用の現状	10月17・18日	山梨県甲府市	吉水　康夫 江尻　健
平成2年度 東海4県文化財担当者会議	情報交換等	12月5・6日	岐阜県美濃市	吉水　康夫

2. 埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修を随時受講させるほか、平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部に各1名を派遣して研修指導を受けている。

内　　容	実　施　機　関	期　　間	受　講　者
中近世窯器調査課程	奈文研埋蔵文化財センター	平成2年6月15日～6月26日	主事　近藤　健
平成宮跡発掘調査研修	奈文研平城宮跡発掘調査部	平成2年7月1日～9月30日	主事　吉沢　良
飛鳥藤原宮跡発掘調査研修	奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部	〃	主事　斎藤　直樹
写真測量外注管理課程	奈文研埋蔵文化財センター	平成3年1月22日～1月25日	係長　田阪　仁

〔教員研修〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として実施してきた研修事業は、昭和54年度以降1カ年の研修期間のうち1～2か月を県外研修にあててきたが、本年度から年間を通じて県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において実施することとした。これまで昭和54年度から本年度までに50名が研修を終了した。

平成2年度研修員

川　戸　達　也　　四日市市立大矢知興譲小学校
小　川　専　哉　　北勢町立北勢中学校
東　山　則　幸　　阿山町立河合小学校
宮　崎　宣　光　　県立四日市北高等学校

〔平成2年度研修内容〕

月	研　　修　　内　　容
4	・研修ガイダンス　・室内講義Ⅰ・Ⅱ　・遺物実測実習　・分布調査実習
5	・発掘調査実習（斎宮跡第86次調査　西加座地区）
6	・　〃　（北野遺跡　橋門遺跡　浮田遺跡ほか）
7	・　〃　（小倉遺跡　高賀遺跡　畦垣内遺跡ほか）
8	・　〃　（　〃　　〃　赤坂遺跡ほか）
9	・　〃　（森脇遺跡　蚊山遺跡　伊勢寺遺跡　伊賀国府推定地ほか）
10	・　〃　（　〃　　〃　　〃　　〃
11	・　〃　（　〃　　〃　　〃　ほか）
12	・　〃　（　〃　　〃　北家城遺跡ほか）
1	・分布調査実習　・試掘調査実習
2	・報告書作成実習　・分布調査実習
3	・　〃　・室内講義Ⅲ・Ⅳ

〔研修ガイダンス及び室内講義Ⅰ・Ⅱ〕

月　日	内　　容	担　当　者	場　　所
4・5	近畿自動車道事業にかかる遺跡調査の概要	調査2課主査 新田　洋	玉城整理所
4・10	埋蔵文化財の保護行政と発掘調査	調査1課長 伊藤克幸	埋文センター
	埋文センターの組織と機能	次長兼調査2課長 山沢義貴	〃
	斎宮跡の調査・整備・活用	斎宮歴史博物館主幹 谷本鋭次	〃
	遺構の測量と実測	斎宮歴史博物館主事 倉田直純	〃
4・16	埋蔵文化財の調査と資料の管理・活用	管理指導課長 吉水康夫	〃
	遺物の科学的保存処理	管理指導課主事 鈴木克彦	〃
	遺跡の調査と方法	調査2課主査 新田　洋	〃
	斎宮跡の遺構と整備	調査1課第1係長 田阪　仁	〃
	遺物の整理と実測	調査2課第2係長 駒田利治	〃

〔室内講義Ⅲ・Ⅳ〕

月　日	内　　容	担　当　者	場　　所
3・4	縄文時代の三重	調査1課主事 田村陽一	埋文センター
	土器と様式・形式・型式 弥生～古墳時代の墓制	調査2課主事 伊藤裕偉	〃
	中世における文献史学と考古学の接点	管理指導課主事 小林　秀	〃
3・15	三重の弥生時代	調査1課主事 鈴木克彦	〃
	奈良・平安時代の集落 －三重県の調査例から－	調査2課主事 杉谷政樹	〃
	斎宮跡の遺構の遺物	斎宮歴史博物館主事 上村安生	〃

〔町村職員研修〕

県下各市町村においては１７市町村、約40名の埋蔵文化財専門担当職員が配置（平成３年１月現在）されており、未配置の市町村についても県文化振興課を通じてその配置をはたらきかけているところである。また、一方で埋蔵文化財専門担当職員が配置されていない町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、埋蔵文化財保護行政に資するための研修を実施している。本年度は３件を実施した。

所属・氏名	種　別	内　容	期　間
多気町教育委員会		調査記録の概要と方法実習	平成２年５月14日～６月13日
中　里　守	Ａコース	（明和町北野遺跡）	
		分布調査実習等	平成２年12月１日～12月27日
		（県内開発予定地域）	
	Ｂコース	発掘調査実習等	平成２年７月１日～８月31日
		（多気町河田古墳群）	
美杉村教育委員会	Ｂコース	発掘調査実習等	平成２年10月16日～12月15日
宮崎洋史		（白山町八幡遺跡）	
関　町教育委員会	Ａコース	開発予定地域試掘調査実習	平成２年11月26日
野尻孝明		（関町内住宅開発予定地区）	～平成３年１月25日

3. 市町村調査等への指導・協力

依　頼　者	内　容	期　日	備　考
安濃町教育委員会	大城古墳群発掘調査の実測協力	４月16・17日	
嬉野町教育委員会	滝之川・宮野地区分布調査協力	４月18～20日	教員研修
四日市市教育委員会	市文化財パトロール調査員会議出席	５月17日	
北勢町教育委員会	川向遺跡発掘調査の指導・協力	５月～９月　随時	
多気町教員委員会	河田古墳群発掘調査の指導・協力	７月１日～８月31日	町村職員研修
鈴鹿市教育委員会	高井Ｂ遺跡遺構実測協力		
伊賀町教育委員会	福地城跡調査測量指導	７月23・24日	
鈴鹿市教育委員会	市埋蔵文化財センター調査委員会出席	７月31日	
朝日町教育委員会	縄生廃寺跡範囲確認調査指導		
四日市市教育委員会	西ケ谷古窯跡調査指導		
関町教育委員会	宅地開発予定地域試掘調査指導	11月26日～１月25日	町村職員研修
鈴鹿市教育委員会	伊勢国分寺跡調査測量指導・協力	12月13日	
鈴鹿市教育委員会	市埋蔵文化財センター調査委員会出席	12月15日	
御薗村教育委員会	村文化財調査委員会出席	12月27日	
四日市市史編纂室	史編纂事業に伴う中世城館跡測量調査指導	12月27日	
関町教育委員会	宅地開発予定地域試掘調査指導委員会出席	平成３年１月８日	
志摩文化財調査保護委員協議会	協議会での「文化財の保護について」講演	２月15日	
玉城町教育委員会	開発計画地域分布調査協力	２月18日	
伊勢市教育委員会	金剛證寺保存修理に伴う調査実測協力	２月～３月　随時	
上野市教育委員会	新都市開発地域埋文調査指導委員会出席	２月19日	
斎宮歴史博物館	博物館講座「国府を掘る」での講演	３月10日	
四日市市史編纂室	市史編纂に伴う専門部会（考古部会）出席	３月29日	

〔教育研修実施要項〕

平成2年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

1. 目　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　催

三重県教育委員会

3. 期　間

平成2年4月1日～翌年3月31日までの12か月間

4. 場　所

・多気郡明和町大字竹川　三重県埋蔵文化財センター

・各発掘調査現場

5. 人　員

6名（小・中・高校教員）

6. 参加資格

(1) 県内の小・中・高校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。

(2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和30年4月以降生まれである者。

7. 研修内容

(1) 議　義

総　論　・文化財の保護

各　論　・文化財保護法

・史跡および埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法　等

(2) 実　習　・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習　等

8. 講　師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

9. その他

(1) 研修者の旅費は、県の旅費規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる予定である。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

平成2年度研修年間計画概要

内容 ＼ 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義Ⅰ	文化財保護行政	―											
	埋文調査の基礎知識	―											
基本実習	遺物実測・拓本実習	―											
	測量調査実習		―										
発掘調査	調査計画立案法（実習）		―										
	調査準備法（実習）		―										
	遺構検出法（実習）			―	―	―	―	―	―	―			
	遺構写真法（実習）									―			
	遺構実測法（実習）									―			
分布調査	分布調査実習										―		
試掘調査	試掘調査実習											―	
室内講義Ⅱ	遺物各論												―
報告書作成	遺物整理法（実習）										―		
	遺構整理法（実習）											―	
	記述原理											―	
	報告書編集法（実習）												―
研修場所		埋蔵文化財センターほか	遺構実測実習 6月は斎宮歴史博物館			埋蔵文化財センターほか					埋蔵文化財センターほか		

〔町村職員研修要項〕

平成2年度埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修実施要項

1. 目　的

近年、各種開発事業に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査件数は増大し、各町村においても調査体制の確立が急務となっている。そのため、遺跡の現地分布調査、発掘調査、出土品整理、報告書作成等に関する専門的な調査技術の研修を実施して埋蔵文化財行政の強化に資する。

2. 主　催

三重県教育委員会

3. 対　象

町村教育委員会担当職員

4. 場　所

(1) 多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

(2) 県内各地　　埋蔵文化財発掘調査現場

5. 期間及び実施時期

(1) 各講座（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は2か月間とする。

(2) 研修年度は、単年度が望ましいが、数年度にまたがってもよい。

(3) 研修実施期間は、研修者派遣機関の希望を考慮する。

〔受講例〕

期間 / 氏名	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A	―――― 講座Ⅰ											
B			―――― 講座Ⅱ				――――		講座Ⅲ			
C	―――― 講座Ⅰ				―――― 講座Ⅱ				――――		講座Ⅲ	

6. 研修内容

講　座	名　称	実　習　内　容	期　間
Ⅰ	発掘コースA	現地分布調査実習 試掘調査実習	2か月
Ⅱ	発掘コースB	発掘調査実習	2か月
Ⅲ	発掘コースC	遺物整理実習 報告書作成実習	2か月

(1) 文化財保護法の概要

(2) 埋蔵文化財の判定

(3) 埋蔵文化財の分布調査の立案と実習

(4) 試掘調査の立案と実習

(5) 発掘調査の立案と実習

(6) 遺構の実測技術と写真撮影技術

(7) 遺物の整理実習

(8) 製図・レイアウト等報告書作成実習

7. 修了証書の交付

全研修講座修了者には、修了証書を交付する。

8. 研修の経費

(1) 研修実施場所への旅費は、研修者派遣機関において負担するものとする。

(2) 研修に必要な資料等の経費は、研修者派遣機関の実費負担を求める場合がある。

Ⅳ　資料の整理・保管・公開

1. 資料の整理・保管

本年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、整理及び保管については原則として県公共事業並びに斎宮跡の出土品については埋蔵文化財センターで、受託事業にかかる出土品については各整理所で整理・仮保管している。

また、実測図面・写真フィルム類についても遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸し出し等に対応している。一方、受贈図書は約1,350冊有り、図書室に分類保管して職員等の利用に供している。

平成2年度出土品量（概数）

施設		平成2年度搬入分	累計
収蔵庫	センター	1,580	5,080
	斎宮	540	8,580
収納倉庫	桜橋	200	16,700
	藤方	−	4,600
	上野	70	2,970
受託	近畿	160	2,660
	国一	200	1,470
	中勢	1,010	2,260
	松多	70	70
合計		3,830	44,390

※　数量はコンテナ（55㎝×35㎝×15㎝）による

2. 科学的保存処理

当埋蔵文化財センターには出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室1（木製品保存処理）にPEG樹脂含浸装置2基、保存科学室2（金属製品の保存処理）に樹脂減圧含浸装置1基ほかが設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員ほかが保存処理にあたっている。

〔平成2年度　保存処理遺物〕

遺跡名	保存処理遺物	保存処理方法
杉垣内遺跡	斎串、曲物底板、下駄ほか	PEG樹脂含浸

3. 資料の公開

・現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護に理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺跡名	所在地	担当課	開催日	参加人数	備考
畦垣内A遺跡	阿山郡伊賀町御代字畦垣内	調査第1課	2. 6. 30	30名	
浮田B・高賀遺跡	上野市神戸	調査第1課	2. 7. 1	100名	
北野遺跡	多気郡明和町蓑村字西へべら	調査第1課	2. 7. 7	150名	
峯治城跡	津市一身田上津部田才の坪	調査第1課	2. 7. 8	90名	
橋門遺跡・長法寺4号墳	鈴鹿市三宅町	調査第1課	2. 7. 10	18名	地元対象
打田遺跡	松阪市岡本町	調査第1課	2. 7. 22	40名	地元対象
六大B遺跡D・E地区	津市大里窪田町字竹花	調査第2課	2. 8. 11	250名	
落合古墳群	伊勢市津村町字口山田	調査第2課	2. 8. 18	150名	
橋垣内遺跡A地区・六大B遺跡C・F地区	津市大里窪田町字竹花	調査第2課	2. 12. 15	230名	
大鼻遺跡（第5次）	亀山市布気町	調査第2課	2. 12. 22	130名	
伊賀国府推定地	上野市外山・坂之下	調査第1課	3. 1. 19	300名	
蚊山遺跡	度会郡玉城町岩出	調査第1課	3. 1. 20	40名	
森脇遺跡（三次）	上野市市部	調査第1課	3. 1. 26	120名	
鴻ノ木遺跡	松阪市射和町	調査第2課	3. 3. 16	60名	

・三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は三重県教育委員会が主催し、昭和56年度から各市町村を会場に毎年実施してきた。

平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果を中心に市町村主体の発掘調査の成果をも合わせて展示して、広く県民に公開し社会教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第10回を迎え、久居市教育委員会との共催により、久居市中央公民館を会場に平成3年2月2日（土）～2月17日（日）までの会期で実施した。今回は「三重の古鏡」をテーマにこれまで県下各地で出土した古墳時代の古鏡を各関係機関のご協力を得て展示・紹介した。会期中の入場数は約1,310名であった

第10回　三重県埋蔵文化財展開催要項

1. 目　　的

道路建設・リゾート開発・農業基盤整備等の各種開発事業と埋蔵文化財の保護との調和は積年の課題である。しかしながら、これら開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は年々増加の一途をたどり、県埋蔵文化財センターでも多量の出土品をはじめとする貴重な文化財や資料を保管している。

そこで、これらの資料や出土品を広く県民に公開し、文化財保護意識の高揚と啓発を図る。

なお、今年度は市制施行20周年に当たる久居市の教育委員会と共催により開催する。

2. 主　　催

三重県埋蔵文化財センター・久居市教育委員会

3. 後　　援

中勢教育事務所管内各市町村教育委員会

4. 期　　間

平成３年２月２日（土）～２月17日（日）９：00～16：30

5. 場　　所

久居市中央公民館　講座室

久居市元町２３５４番地

6. 展示テーマ

三重の古鏡

7. 記念講演会

・日　時　　平成３年２月11日（日）

・場　所　　久居市中央公民館　大会議室

・主　催　　三重県埋蔵文化財センター

・共　催　　久居市教育委員会

・テーマ　　「三重の古墳時代と鏡」

・講　師　　三重大学教授　八賀　晋先生

8. 主な展示品と関連資料

番号	遺跡名	所在地	鏡式名	面径(cm)	所有者又は保管者
008		四日市市小牧町南	内行花文（六花）鏡	7.3	国保和好氏
009	志氏神社古墳	四日市市羽津大宮町	内行花文（八花）鏡	12.5	志氏神社
017	塚越１号墳	鈴鹿市岸岡町塚越	画文帯神獣鏡	17.6	浜中克己氏
018	塚越１号墳	鈴鹿市岸岡町塚越	二神四獣鏡	11.6	浜中克己氏
019	塚越１号墳	鈴鹿市岸岡町塚越	捩文鏡	6.7	浜中克己氏
022	赤郷１号墳	鈴鹿市秋永町赤郷	三角縁波文帯三神三獣鏡	21.6	真昌寺　染野勲氏
026	木ノ下古墳	亀山市木下町宮前	獣帯鏡	17.2	三重県教育委員会
027	井田川茶臼山古墳	亀山市井田川町	画文帯同向式神獣鏡	20.5	三重県教育委員会
028	井田川茶臼山古墳	亀山市井田川町	画文帯同向式神獣鏡	20.8	三重県教育委員会
029	上椎ノ木古墳	亀山市川合町	四神鏡	10.4	三重県教育委員会
037	善応寺山古墳群	久居市戸木町	四乳四獣鏡	10.0	久居市教育委員会
038	善応寺山古墳群	久居市戸木町	獣形鏡	10.0	久居市教育委員会
039	善応寺山古墳群	久居市戸木町	小形重圏文鏡	6.0	久居市教育委員会

番号	遺跡名	所在地	鏡式名	面径(cm)	所有者又は保管者
042		一志町井関	獣帯鏡	16.0	山崎三四造氏
072	八重田1号墳	松阪市八重田町	二神二獣鏡	17.0	松阪市教育委員会
073	八重田8号墳	松阪市八重田町	捩文鏡	9.1	松阪市教育委員会
074	八重田8号墳	松阪市八重田町	捩文鏡	9.1	松阪市教育委員会
090	久保古墳	松阪市久保町	三角縁獣文帯同向式神獣鏡	23.1	五島美術館
091	久保古墳	松阪市久保町	三角縁獣文帯三神三獣鏡	21.8	五島美術館
107	南山古墳	伊勢市鹿海町字南山	乳文鏡	9.0	伊勢市教育委員会 郷土資料館蔵
112	錦古墳	紀勢町錦	三角縁獣文帯三神三獣鏡	23.0	紀勢町教育委員会
113	叶越南古墳	紀勢町錦	獣形鏡	9.6	紀勢町教育委員会
114	大明神地区	紀勢町錦	珠文鏡	7.3	紀勢町教育委員会
121	神島	鳥羽市神島	重列式画文帯神獣鏡	21.9	八代神社
125	志島11号墳 (おしょか古墳)	阿児町志島布海苔	方格規矩鏡	14.7	阿児町教育委員会 志島公民館保管
126	志島11号墳 (おしょか古墳)	阿児町志島布海苔	珠文鏡	12.8	阿児町教育委員会 志島公民館保管
135	東山古墳	阿山町円徳院	四獣鏡	13.7	三重県教育委員会
136	久米山6号墳	上野市久米町	方格規矩四神鏡	16.5	上野市教育委員会
137	久米山6号墳	上野市久米町	変形獣帯鏡	8.3	上野市教育委員会
140	浅間山古墳	上野市千歳	六鈴四神鏡	14.2	服部幹郎氏
141	だんな山古墳	上野市千歳	変形六神鏡	11.2	服部幹郎氏
142	だんな山古墳	上野市千歳	捩文鏡	8.2	服部幹郎氏
143	だんな山古墳	上野市千歳	(鋸歯文帯)鏡 残片		服部幹郎氏
144	野添古墳	上野市千歳	変形方格規矩鏡	10.5	菅原神社
158	伊予丸古墳	上野市丸の内	四禽鏡	13.9	上野市立図書館
162	高猿6号墳	上野市喰代	変形四獣鏡	10.9	三重県教育委員会
163	石山古墳	上野市才良	三角縁波文帯鏡		三重県教育委員会
170	鳴塚古墳	大山田村鳳凰寺	変形獣形鏡	9.9	鳳凰寺区
172	尻矢2号墳	名張市赤目町星川	四神四獣鏡	9.4	名張市教育委員会
173	尻矢2号墳	名張市赤目町星川	獣形鏡	11.8	名張市教育委員会
175	井手古墳	名張市安部田坂の下	変形獣形鏡	16.0	中川浩一氏
176	井手古墳	名張市安部田坂の下	変形獣形鏡	16.0	中川浩一氏
177	土山遺跡	名張市青蓮寺土山	四獣鏡	8.0	名張市教育委員会
178	土山遺跡	名張市青蓮寺土山	素文鏡	3.3	名張市教育委員会
179		(伝)伊賀国出土	内行花文(六花)鏡	8.6	菅原神社
180		(伝)伊賀国出土	変形文鏡	18.4	菅原神社
181		(伝)伊賀国出土	四乳四虺四禽鏡	10.1	菅原神社
182		(伝)伊賀国出土	四乳八禽鏡	9.3	菅原神社
183		三重県内		14.4	三重県立博物館

4. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可

資料名	申請者	目的	期間	許可日
西出遺跡出土押型文土器写真	埋蔵文化財写真技術研究	会誌「埋文写真研究」への掲載		2. 4. 24
納所遺跡出土品	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館	「縄文文化・東からの流れ」展での展示及び図録への掲載	2. 4. 18 ～ 2. 6. 13	2. 4. 13
下郡遺跡出土鋸実測図	株式会社淡光ウェザビル出版社	「日本の大工道具」への掲載		2. 4. 27
納所遺跡出土品等写真等12点	株式会社 アルバ	「県別歴史シリーズ三重県」への掲載		2. 5. 8
下郡遺跡出土品実測図	山田 猛	「Mie history」Vol.1 への掲載		
北野遺跡他出土品	明和町立上御糸小学校	学習会での教材	2. 6. 26	2. 6. 22
井田川茶臼山古墳他出土須恵器7点	一宮市博物館	「陶器の源流―須恵器―」展での展示及び図録への掲載	2. 7. 17 ～ 2. 9. 5	2. 6. 22
伊賀国府推定地スライド	服部久士	学会での発表資料	2. 6. 29 ～ 2. 7. 10	2. 7. 3
井田川茶臼山古墳 石室模型・画文帯神獣鏡写真	毎日新聞社出版局	「発掘の迷路を行く」への掲載		2. 7. 3
大谷遺跡空中写真4点	員弁町教育委員会	町文化財調査委員会での資料及び資料室での掲示		2. 7. 26
上ノ広遺跡出土品写真	松阪市立茅広江公民館	「茅広江百話」への掲載		2. 8. 20
納所遺跡他出土品37点写真9点	名古屋市見晴台考古資料館	「弥生時代のはじまり」展での展示及び図録への掲載	2. 9. 20 ～ 2. 11. 30	2. 8. 28
天華寺跡出土塼仏11点	倉吉市立倉吉博物館	「塼仏」展での展示及び図録掲載	2. 10. 8 ～ 2. 11. 30	2. 8. 28
蚊山遺跡・落合古墳群出土品9点・写真3点	皇学館大学考古学研究会	大学祭での展示	2. 10. 30 ～ 2. 11. 5	2. 9. 26
大薮遺跡他出土品4点写真	大田区立郷土博物館	「ナベ・カマの文化史」展図録への掲載		2. 10. 15
東野B遺跡出土品実測	矢野健一	学術論文への図面掲載		2. 10. 31
釜生田遺跡他出土品4点	嬉野町教育委員会	町民文化祭での展示	2. 10. 30 ～ 2. 11. 5	2. 11. 2
北堀池遺跡全景写真	株式会社 雄山閣	「古墳時代の研究」第4巻への掲載		2. 11. 21
納所遺跡出土櫛写真	渋谷区教育委員会	公開講座PR用ポスターへの掲載		2. 11. 21
伊勢寺遺跡出土三彩須弥山	奈良国立文化財研究所 日本経済新聞社大阪本社	「長屋王 光と影－長屋親王宮の発見」展への展示及び図録掲載	3. 2. 10 ～ 3. 5. 15	2. 11. 27

資料名	申請者	目的	期間	許可日
大安経塚出土品5点	名古屋市博物館	「陶器の流れ－須恵器から渥美・常滑・瀬戸へ－」展での展示及び図録掲載	3. 2. 22 ～ 3. 4. 17	2. 12. 5
納所遺跡出土琴写真	福島県立博物館	「日本の音色」展での図録への掲載		2. 12. 17
大鼻遺跡他出土品26点 写真3点	東大阪市教育委員会	「縄文文化の一万年」展での展示及び図録への写真掲載	3. 2. 13 ～ 3. 4. 19	3. 1. 30
大薮遺跡他出土品4点	大田区立郷土博物館	「ナベ・カマの文化史」展での展示	3. 5. 17 ～ 3. 7. 8	3. 2. 20
西出遺跡調査風景写真	朝日新聞社出版局	「古代史発掘Vol.3」への掲載		3. 2. 27
西出遺跡・大鼻遺跡出土品写真2点	（財）東大阪市文化財協会	「国道308号埋文調査報告」への掲載		3. 3. 7
高向遺跡遺構・遺物写真6点	御歯村教育委員会	村文化財パンフレットへの掲載		3. 3. 7

斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺跡名	遺物名
大安中世墓	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔（１式）
丹生川上城跡	蔵骨器(1)
西ヶ広遺跡	異形硯(1)
東庄内A遺跡	縄文土器：深鉢(1)
東庄内B遺跡	縄文土器：台付鉢(1)　壷棺墓：壷(1)　甕(1)　台付鉢(1)
	方形周溝墓出土：壷(1)　石器：石包丁(1)
上箕田遺跡	直柄鋤(2)
神大寺遺跡	石器：石斧(1)
川原井瓦窯	伊勢国分寺式軒丸瓦(1)　軒平瓦(1)
川原井遺跡	灰釉陶器：浄瓶(1)
柴崎遺跡	土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壷(1)
大鼻遺跡	土偶(1)、子持勾玉(1)
井田川茶臼山古墳	須恵器：器台(5)　台付壷(4)　壷(7)　甕(1)　装飾台付壷(1)　硯(1)
	有蓋高杯(2)　有蓋高杯蓋(2)
	土師器：壷(1)
	馬具：杏葉(4)　鏡板(2)　辻金具(2)　銅鈴(1)
上椎ノ木古墳	四神鏡(1)、石製壷(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34)
木下古墳	獣帯鏡(1)
柳垣内遺跡	蔵骨器(1)
大塚古墳	水晶切子玉(11)　管玉(4)
浄土寺南遺跡	円面硯(1)
納所遺跡	弥生土器：彩文壷(1)　黒色壷(1)　手焙型土器(1)　パイプ型土器(1)　壷(1)
	片口鉢(1)　台付壷(1)
	木製品：琴(1)　箆状木製品(1)　木鐸(1)　斧の柄(2)　鋤(4)　鍬(2)
	直柄鋤(1)　櫛(1)　石器：石斧(6)　石包丁(4)　石小刀(3)
亀井遺跡	双脚壷(1)
太田遺跡	銅鐸型土製品レプリカ(1)
鳥居本遺跡	方形周溝墓：壷(1)
午前坊遺跡	甕壷(1)
堀ノ内遺跡	縄文土器：深鉢(1)
天華寺廃寺	塑像(1)、塼仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、ヘラ描き軒平瓦(1)
東野遺跡	線刻礫(1)
堀田遺跡	円面硯(1)
中ノ庄遺跡	馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1)
杉垣内遺跡	石器：石包丁(1)　木製品：人形(2)　櫛(1)　斎串(11)
	土馬(4)、ミニチュア土器：壷(7)
伊勢寺廃寺	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
深長古墳	土師器：壷(1)
横尾墳墓群	経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1)
養徳寺遺跡	柿経（１式）
崎谷遺跡	五輪塔(1)、石仏(2)
牧瓦窯	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
牧中世墓	石仏(1)
河田古墳群	土師器：高杯(3)　甕(1)、須恵器：杯蓋(2)　杯身(2)　高杯(2)　壷(3)
東裏遺跡	土師器：杯「中臣」(1)　椀(1)　青磁：椀(1)
カウジデン遺跡	土馬(1)　土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1)
	黒色土器：椀(1)
神前山古墳	円筒埴輪(1)、須恵器：二重硯(1)　鳥形硯(1)
寺垣内遺跡	独鈷石(1)
西出遺跡	土板(1)
大薮遺跡	方形周溝墓：壷(1)
樋ノ谷遺跡	玦状耳飾(1)
東畑中世墓	蔵骨器(2)
東山古墳	土師器：高杯(1)　器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2)　鉄剣(1)
北掘池遺跡	木製品：槌(1)　鍬(3)　剣型木製品(1)　舟型木製品(2)、円面硯(1)
北切遺跡	方形周溝墓：壷(1)
前山古墳	銀象嵌刀装(2)
小上野西谷遺跡	土製勾玉(1)
歌野遺跡	製塩土器(2)
辻垣内遺跡	縄文土器深鉢(1)

平成3年度事前協議遺跡一覧

〔付1〕

農林部関係

農林事務所	地区	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	備考
桑名	西員弁	精好遺跡	員弁郡北勢町奥村		平成3年度試掘
四日市	芥川沿岸	下代遺跡	鈴鹿市中富田町		平成4年度協議
	井田川	塚田遺跡	亀山市井田川町		遺構・遺物・無
	広域農道	六名山添古墳群	四日市市六名町		平成3年度要試掘
	(フラワー)	青館跡	亀山市川崎町		平成3年度要試掘
		西尾A遺跡	〃 辺法寺町		平成4年度へ試掘送り
津	大里	小谷A遺跡	津市大里山室町	300	立会調査、他は工事対応
		小谷B遺跡	〃 〃		工事対応
		小谷C遺跡	〃 〃	200	立会調査、他は工事対応
		西野々遺跡	〃 大里小野田町		7,000㎡が未試掘 平成3年度試掘
		若林遺跡	〃 大里山室町	340	立会調査、他は工事対応
		南所遺跡	〃 大里小野田町	4,000	3,000㎡の未試掘部分は平成3年度試掘
		東浦遺跡	〃 大里野田町		平成4年度送り
		古里遺跡	〃 〃		立会調査、他は平成4年度送り
	芸濃北部	川原遺跡	安芸郡芸濃町椋本		遺構・遺物・無
		椋本南方遺跡	〃 〃 〃		平成4年度送り
		大石遺跡	〃 〃 〃	4,000	本調査、立会調査他は工事対応
	穴倉川沿岸	仮)穴倉川遺跡	〃 安濃町		遺構・遺物・無
	美里中南部	白樫A～C遺跡	〃 美里村足坂		地区除外
		樫原B遺跡	〃 〃 〃		地区除外(一部試掘済・無)
	久居	下新田遺跡	久居市森町	(20)	立会調査、他は工事対応
		馬回り遺跡	〃 〃		遺構・遺物・無
	榊原	尺ケ寺・向ケ平・五間田・大安寺遺跡	〃 榊原町		未試掘、平成4年度送り

農林事務所	地区	遺跡名	所在地	調査面積(m²)	備考
津	中郷	下沖遺跡	一志郡嬉野町宮野	1,700	本調査
		宮野広遺跡	〃　〃	360	立会調査、他は工事対応
	家城	高瀬A遺跡	〃　白山町北家城		2層有り、工事対応
		高瀬B遺跡	〃　〃　〃	1,100	立会調査、他は工事対応
	一般農道	赤坂遺跡	久居市木造町	1,200	久居市教委へ
	久居東部	上木造遺跡	〃　〃		一部未試掘、平成4年度送り
	農免農道	古墳　12基	津市一身田豊野ほか	2,000	平成3年度4月中要試掘
	津北部	遺跡　1カ所			
	畜環一志	平田遺跡	一志郡一志町井関		遺構・遺物・無
		南出の道標	〃　白山町南出		要移築
松阪	堀坂川沿岸	曲里中遺跡他	松阪市曲町	650	平成3年度1,750m²要試掘
	阪内川左岸	里中遺跡	〃　大足町		平成2年度工事済
		桜垣戸遺跡	〃　〃	50	立会調査、他は工事対応
		八原古墳2基	〃　藤之木町		遺構・遺物・無
		石原遺跡	〃　岡本町		遺構・遺物・無
		海道田遺跡他		2,900	本調査、立会調査他は工事対応
		ヒタキ遺跡	〃　阿形町	800	本調査、他は工事対応
		打田遺跡	〃　岡本町	3,000	平成2年度繰越分本調査
	西黒部	宮浦遺跡	〃　西黒部町	150	立会調査、他は工事対応
		長瀬遺跡	〃　〃	300	立会調査、他は工事対応
		天王遺跡	〃　〃	440	立会調査、他は工事対応
	機殿	六根A～D遺跡	松阪市六根町		遺構・遺物・無
	荒蒔	上ノ垣内遺跡	多気郡多気町荒蒔	400	立会調査
	明星	本郷遺跡	〃　明和町本郷	4,600	本調査、他は工事対応
		北野遺跡	〃　〃　北野		平成4･5年度送り
	八幡沖	笹川遺跡	松阪市笹川町		遺構・遺物・無
		下恵本遺跡	〃　〃	1,700	立会調査

農林事務所	地区	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	備考
松阪	農免天啓	(仮)浄水場南方古墳3基	多気郡多気町相可		用地買収後要試掘
伊勢	中川	アラシ遺跡	度会郡度会町坂井		工事対応
		松原遺跡	〃 〃 注連指		工事対応
	一之瀬	丸野遺跡	〃 〃 一之瀬		遺構・遺物・無
	磯部西部	中世古遺跡	志摩郡磯部町築地		遺構・遺物・無
上野	河合	馬田B遺跡	阿山郡阿山町馬田	420	立会調査、他は工事対応
		馬田C遺跡	〃 〃 〃	320	立会調査、他は工事対応
	上野南部第2	馬場遺跡	上野市財良	260	立会調査、他は工事対応
		森脇遺跡	〃 市部		工事対応
	上野南部第3	城ノ越A遺跡	〃 古郡	2,500	立会調査、他は工事対応、本調査
		城ノ越B遺跡	〃 〃	700	立会調査
		城ノ越C遺跡	〃 〃	500	本調査
	上野北部	大坪遺跡他	〃 外山	1,100	本調査、立会調査
				870	他は工事対応
		塩ノ屋遺跡	〃 服部・羽根		工事対応
		鉾坪遺跡	〃 〃	(90)	立会調査
		壱丁田A遺跡	〃 〃		工事対応
		壱丁田B遺跡	〃 〃		工事対応
		北城C遺跡	〃 〃	(50)	立会調査
		北城D遺跡	〃 〃		
		北城E遺跡	〃 〃		
		北城F遺跡	〃 〃	510	本調査、立会調査
		北城G遺跡		(90)	立会調査
		国府推定地	〃 坂ノ下	3,000	本調査
	柘植川沿岸	物堂遺跡	阿山郡伊賀町物堂		工事対応
	上津	川南A遺跡	名賀郡青山町勝地	100	立会調査、他は工事対応
		川南B遺跡	〃 〃 〃	1,700	本調査、他は工事対応
	滝之原	天久保遺跡	名張市滝之原	600	立会調査、他は工事対応
	広域農道伊賀	(仮)鳥居出遺跡	上野市西高倉		
尾鷲	紀伊長島	茂原遺跡	北牟婁郡紀伊長島町下地		平成4年度送り

土木部等関係

（道路建設課）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
桑名	畑毛本郷線	市場寺屋敷跡	員弁郡藤原町市場字北数	2,800	要再分布調査		土塁・空濠あり
	篠立下野尻線	玉垣城跡	〃 〃 山口		要試掘		城跡付属施設にかかる可能性あり
	〃	玉垣遺跡	〃 〃 〃	2,400	〃		
四日市	四日市土山線	記念橋北遺跡	四日市市高角町	7,900	〃		継続
	平尾茶屋線	四ッ谷北方遺跡	〃 桜町		〃		
	〃	北野遺跡	〃 〃		〃		
	国道306号線	力尾城跡	菰野町力尾168他	14,500	要測量・本調査		
鈴鹿	三宅磯山停車場線	別所遺跡	鈴鹿市徳居町	4,200	要試掘		
	水沢野田関線		〃 西庄内町	3,350	〃		
	〃	東の追分・関宿	関町木崎		要保存		継続
	〃	会下B遺跡	〃 会下	8,000	要試掘		継続
	〃	今堀遺跡	〃 白木一色	10,500	〃		隣接地
	〃		〃 〃		要再分布調査		隣接地
	〃	白木城跡	亀山市白木町	3,100	要試掘		
	〃		〃 両尾町		要再分布調査		
	国道306号線	東樺野2号墳	〃 管内町	4,500	試掘済	3,900	継続
	〃	東樺野遺跡	〃 〃		〃		継続
	〃	小下遺跡	〃 井尻町	4,600	要試掘		継続
	国道25号線	市場遺跡	関町市場	1,600	〃		
	亀山(T)石水渓線		亀山市安坂山町		要再分布調査		
	高野尾下之庄線		〃 下之庄		伐開後要試掘		
	高野尾下之庄線		〃 〃		要再分布調査		
鹿	四日市鈴鹿環状線	国分北遺跡	鈴鹿市国分町野田裏山他	6,000	要試掘		継続
	〃	国分東遺跡	〃 〃 孫作他	6,200	〃		継続
	〃	沖ノ坂遺跡	〃 〃 沖ノ坂他	3,000	〃		継続
	〃	磐城山遺跡	〃 木田町	6,600	〃		継続

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
鈴鹿	四日市鈴鹿環状線	磐城山古墳 1・2号	鈴鹿市木田町		要試掘		継続、円墳2基
津	三宅一身田(T)線	中鳶遺跡	津市大里野田町		要再分布調査		
	亀山白山線		安濃町野口				
	〃		芸濃町小野平	1,800	要試掘		
久	国道368号線	土井沖遺跡	美杉村上多気	3,300	本調査	3,300	継続、平成2年度一部立会済
	一志美杉村線	井の口遺跡	一志町波瀬		要試掘		波瀬城、古墳有り
	白山町小津線	岩垣内遺跡	〃 〃		〃		
			〃 〃				継続、詳細不明
	嬉野飯高線	弥五郎垣内遺跡他	嬉野町釜生田	9,200	現道部分要試掘		
	〃	矢下遺跡	〃 矢下		要試掘		
	松阪青山線	淵草遺跡	〃 淵草	2,400	〃		
	〃	家野遺跡	白山町南家城	780	〃		
居	松阪久居線		嬉野町算所～三雲村久米	25,000	〃		
	亀山白山線		久居市榊原	1,800	〃		
	〃		白山町佐田	3,200	〃		
	石橋停車場線		一志町石橋		要再分布調査		
松	松阪第2環状線	上蛸路A遺跡	松阪市上蛸路	300	要試掘		継続
	〃	上蛸路B遺跡	〃 〃	1,000	〃		継続
	松阪青山線	柚原遺跡	〃 柚原町	100	〃		
	国道368号線（粥見工区）	北出遺跡	飯南町粥見町	12,600	〃		継続
	伊勢多気線	仁田遺跡	多気町仁田	2,600	〃		
	〃	片倉氏館跡	〃 四神田	1,300	〃		継続
	相鹿瀬大台線	年内遺跡	〃 相鹿瀬	1,300	〃		
	〃	西道ノ上遺跡	〃 〃	1,800	〃		
	〃	佐奈口遺跡	〃 〃	1,000	〃		
	田丸(T)斎明線	発シA遺跡	明和町有爾中	1,650	〃		継続
	〃	世古遺跡	〃 〃	1,600	〃		継続
阪	国道166号線	六呂木遺跡	松阪市六呂木	1,600	〃		
	伊勢松阪大規模自転車道	申山A～C遺跡	明和町大淀		〃		

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 ㎡	協議・対応	調査面積	備考
松	佐原勢和松阪線	上出江遺跡	勢和村上出江	2,700	要試掘		
	新田野原線	天理教会前遺跡	大台町栃原	1,260	〃		
阪	〃	栃原遺跡	〃 〃		〃		
	村松明野線	大根屋遺跡	伊勢市村松町				継続
	伊勢魚見松阪線	有滝道遺跡	〃 〃		要試掘		継続
伊	館町通線	中村遺跡	〃 中村町	5,000	〃		
	大湊宮町停車場線	高向大社北遺跡	御薗村高向	2,900	〃		
	度会玉城線	（大池の中）	玉城町勝田		〃		継続
	田丸(T)斎明線	田丸城西遺跡	〃 下田辺	1,400	〃		
勢	〃	岡村古墳	〃 岡村	1,500	〃		継続
	〃	世古遺跡	〃 世古	4,000	〃		継続
	打見大台線	船木遺跡	大宮町船木	450	〃		
	国府磯部線	穴川遺跡	磯部町穴川	1,100	〃		
志	安乗港線	西殿遺跡	阿児町国府		要本調査	2,840	旧名 御茶子遺跡
摩	国道 260 号線		志摩町越賀他		要再分布調査		
	国道 422 号線		阿山町丸柱	3,000	要試掘		
上	国道 368 号線	安場古墳	上野市安場	6,000	〃		巨石露出
	松阪青山線	腰山遺跡	青山町腰山	1,200	〃		継続
	長野上野線	西高倉遺跡	上野市西高倉	1,050	〃		
	島ヶ原(T)観音提寺線	大道遺跡	島ヶ原村大道	5,000	〃		
	伊賀青山線	勝地中世墓群他	青山町勝地		要本調査他		中世墓は本調査、他は要試掘
野							
熊	国道 311 号線	波田須城跡	熊野市波田須町	6,000	要本調査		
野	〃	京楽尾城跡	〃 〃	2,000	要試掘		

（祝祭博道路建設部）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 ㎡	協議・対応	調査面積	備考
伊勢	鳥羽松阪線		伊勢市一宇田町		要試掘		

（道路建設課）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 ㎡	協議・対応	調査面積	備考
四日市	小林鹿間線	向山遺跡	四日市市山田町				
	神戸長沢線		鈴鹿市河田町				
鈴	四日市鈴鹿線	水巻遺跡	〃 高岡町				
鹿	南堀江須賀線	須賀遺跡	〃 須賀町				
	国道 306 号線	阿野田遺跡	亀山市阿野田町		要調査		一部着手

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
鈴鹿	国道306号線	阿野田遺跡	亀山市阿野田町		要立会		縁辺部
	〃		〃 中ノ庄		要試掘		
	鈴鹿亀山線	石上寺境内	〃 和田町		要立会		
久居	三雲久居線	地蔵堂遺跡	久居市牧町		要試掘		
	垣内御城線	及川遺跡	白山町川口		〃		

（河川課）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
四日市	古城川		四日市市中野町				
松阪	堀坂川	王子遺跡他	松阪市伊勢寺町		要本調査	1,500	他に試掘あり

（砂防課）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
桑名	急傾斜地対策 上笠田地区	上笠田遺跡	員弁町上笠田				土墓有り
鈴鹿	急傾斜地対策		鈴鹿市加佐登町				
上野	地滑り対策		阿山町波敷野				
	波敷野 排水工						
	急傾斜地対策	福社氏堡跡	名張市滝ノ原				
	滝ノ原						
	〃 〃		〃 〃				
	〃阿保上ノ代	阿保頓宮跡	青山町阿保上ノ代				
	〃寺田		上野市寺田				
	〃深田		伊賀町川東				

（都市計画課）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
四日市	塩浜波木線	内谷城跡	四日市市泊				
	北勢中央公園	丸岡遺跡・保々西城	〃 西村町				
久居	元町孝行井戸線	久居藩武家屋敷	久居市西鷹跡町		本調査		
伊勢	勢田楠部線	古市宿場跡	伊勢市中之町周辺				
	〃	蝮尾遺跡	〃 久世戸町				旧本誓寺裏遺跡
	大仏山公園	大仏山古墳群他					

（土地開発公社）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
四日市	県立塩浜病院	内谷遺跡	四日市市泊				

（商工労働部）

事務所名	事業名	遺跡名	所在地	面積 m²	協議・対応	調査面積	備考
津	産業展示館	蔵田遺跡	津市河辺町	68,200			

県文化財調査員名簿

氏名	郵便番号	所在地
伊東春夫		
片岡雅章		
丹羽徹		
清水弘之		
川添護		
桐生定己		
鎌田雅生		
大場範久		
荒木昌俊		
安川富春		
河合良成		
髙森英純		
下村純也		
小林和彦		
本堂弘之		
津村善博		
宮崎洋史		
榎本義譲		
世古且守		
岡本好雅		
小林直人		
奥谷義一		
筒居利久		
三井博之		
奥義次		
中西正典		
大西素行		
東浩成		
髙崎仁		
中世古一芳		
村上喜雄		
山崎富三郎		
竹内正弘		
川添昭博		
田村俊一		
市田進一		
福井健二		
中山暁		
岡本武和		
寺岡光三		
森前稔		
奥西勲		
松鹿昭二		
竹内英雄		
谷戸実		
田崎通雅		
東成志		
福村直人		
田中安弘		
古部均		

三 重 県 教 育 委 員 会

（平成２年度埋蔵文化財担当機関）

○ 文化振興課

５１４　津市広明町１３　三重県庁内７階

ＴＥＬ　０５９２－２４－２９８７（文化財保護係）

○ 三重県埋蔵文化財センター

５１５－０３　多気郡明和町竹川５０３

ＴＥＬ　０５９６５－２－１７３２（直）
ＦＡＸ　〃　－２－３７２４

○ 斎宮歴史博物館

５１５－０３　多気郡明和町竹川５０３

ＴＥＬ　０５９６５－２－３８００（代）

三重県埋蔵文化財センター現場詰所

一般国道１号線亀山バイパス	０５９５８－２－２５８１
〃　２３号中勢道路	０５９２－３７－１９１４
近畿自動車道	０５９６５８　－４５２０
一般国道４２号松阪多気バイパス	０５９８－２９－４６４３

埋蔵文化財倉庫

桜　橋	０５９２－２７－２４６５
藤　方	０５９２－２４－４５６０
上　野	０５９５－２４－００７９